熊本県埋蔵文化財調査報告第246集

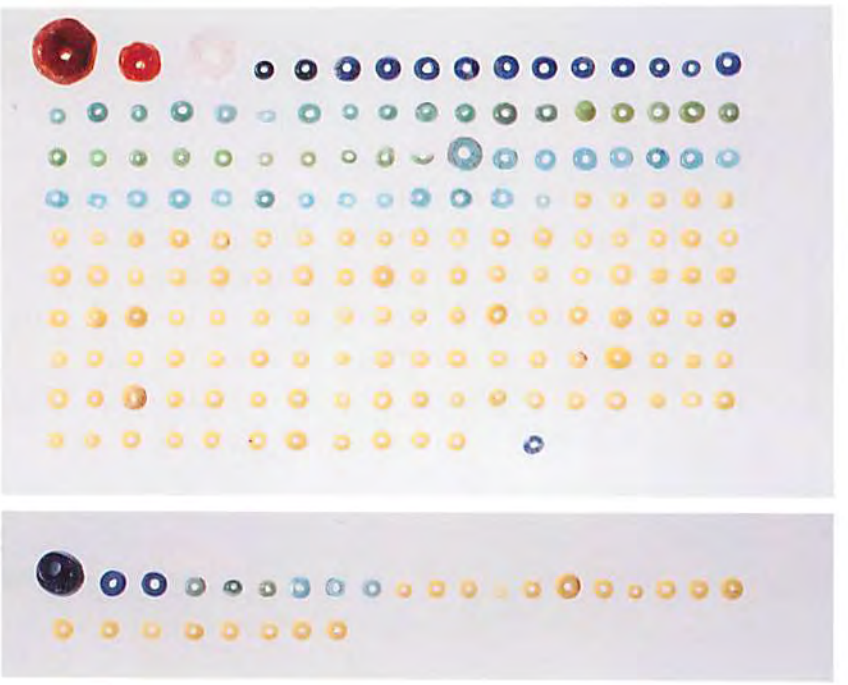
飛尾横穴群

飛尾急傾斜地崩壊対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

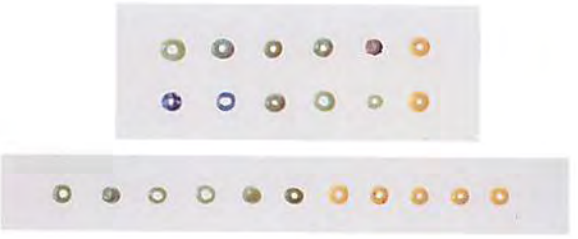
2009.3
熊本県教育委員会

飛尾横穴群遠景（東から）

飛尾横穴群遠景（南東から）



12 号墓



17 号墓

18 号墓

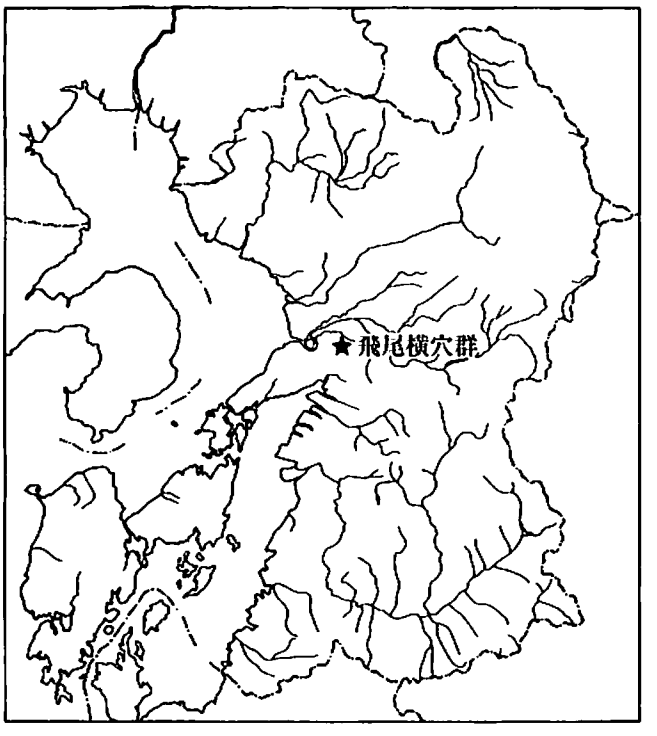
21 号墓

飛尾横穴群出土玉類

熊本県埋蔵文化財調査報告第246集

飛尾横穴群

飛尾急傾斜地崩壊対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2009.3

熊本県教育委員会

序　文

熊本県教育委員会では、平成 19年度に飛尾急傾斜地崩壊対策事業に伴い、下益城郡城南町飛尾横穴群の発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、21基の横穴墓と装身具を始めとする多くの出土遺物が確認されました。その中で 10基については、玄室内部まで調査しましたが残りの 11基は、現地で保存することができました。

城南町には国指定史跡である塚原古墳群を始め、数多くの古墳や横穴群が所在します。飛尾横穴群は、『城南町史』でも報告されている城南町を代表する横穴群の一つです。県内有数の横穴群の分布地域である城南町ですが、本格的な発掘調査が行われた事例は、他地域に比べあまり多くありません。そのため、部分的とはいえ横穴群の発掘調査を実施できたことは、塚原古墳群以降の古墳文化の解明に大きく貢献するものと言えます。

これらの調査成果が、学術的資料としてのみならず、皆様の文化財保護への理解を深めていただくための資料となれば幸いです。

最後になりましたが、調査の円滑な実施に御理解と御協力を賜りました関係機関、地元の方々に対して厚く御礼申し上げます。

平成 21年 3月 31日

熊本県教育長　山本　隆生

例　言

1　本書は、熊本県下益城郡城南町大字東阿高字飛尾に所在する飛尾横穴群の発掘調査報告書である。

2　調査は、飛尾急傾斜地崩壊対策事業に伴う事前調査として熊本県土木部の依頼を受け、平成19年度に熊本県教育委員会が実施した。

3　本文の執筆は、第Ⅳ章を松下孝幸・松下真実（下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）及び株式会社古環境研究所が、それ以外は中村幸弘が担当した。

4　遺構の実測は、中村、福田匡朗が担当し、一部を株式会社　イビソクに委託した。

5　遺物の実測及び製図は、中村の指導の元、佐藤淳子、川井田久子、宮崎典子が担当した。

6　遺構等の現場での撮影は、中村、福田が担当し、遺跡の空中写真撮影は、九州航空株式会社　熊本営業所に委託した。

7　遺物の撮影は、中村が担当した。

8　飛尾横穴群出土の鉄器、装身具類の保存処理については、今田里枝が担当した。

9　現場で実施した色調測定については、熊本県立装飾古墳館　池田朋生主任学芸員の手を煩わせた。

10　鉄器のＸ線撮影は、福岡市埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。

11　古人骨の分析は、下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムに委託した。また、植物遺体等のDNA鑑定、微化石分析及び放射性炭素年代測定は株式会社　古環境研究所に委託し、その成果の一部は、第Ⅳ章に掲載した。

12　本書の編集は、熊本県教育庁文化課で行い、中村が担当した。

13　本書に掲載した資料は、熊本県文化財資料室で保管している。

凡　例

1　遺跡の座標については、世界測地系（日本測地系2000）を用いている。方位については、座標軸を基準とした座標北を指している。

2　現地での遺構の実測は、原則20分の1（1号墓及び土層図は10分の1）の縮尺で行った。報告書に掲載した遺構の実測図は60分の1に統一した。

3　遺物の実測は原寸で行い、報告書に掲載した実測図及び拓本の縮尺は以下のとおりである。

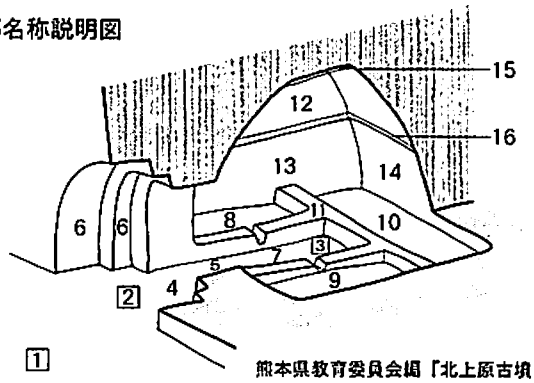
土器：3分の1（瓦質土器：4分の1、須恵器甕調査区外分：6分の1）　石器：3分の1

鉄器：2分の1（弓金具及び古銭：原寸、銃剣：3分の1）　装身具：原寸

4　土層の色調については、『新版　標準土色帖』（1967年　農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に従った。

5　横穴墓の各部名称については、次のとおりとする。

横穴墓の各部名称説明図



1	前庭部	9	右屍床
2	羨道	10	奥屍床
3	玄室	11	仕切
4	羨門	12	天井部
5	玄門	13	左側壁
6	飾縁	14	奥壁
7	通路	15	棟線
8	左屍床	16	軒先線

熊本県教育委員会編「北上原古墳・瀬戸口横穴墓群」熊本県文化財報告第104集 1989年

本 文 目 次

口絵
序文
例言
凡例
目次
第Ⅰ章　調査の契機と経過
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査組織 …… 1
　第3節　調査の経過 …… 3
第Ⅱ章　周辺の地理的・歴史的環境
　第1節　地理的環境 …… 5
　第2節　歴史的環境 …… 6
第Ⅲ章　調査の成果
　第1節　調査方法 …… 10
　第2節　遺跡の概要 …… 10
　第3節　古墳時代の調査成果 …… 12
　　1　1号墓から11号墓
　　2　12号墓
　　3　13号墓
　　4　14号墓
　　5　15号墓
　　6　16号墓
　　7　17号墓
　　8　18号墓
　　9　19号墓
　　10　20号墓
　　11　21号墓
　　12　その他
　第4節　その他の時代の調査成果 …… 36
　　1　横穴墓出土遺物
　　2　防空壕跡
第Ⅳ章　自然科学分析
　熊本県城南町飛尾横穴群出土の古墳人骨 …… 38
　飛尾横穴群における自然科学分析 …… 47
第Ⅴ章　総括
　第1節　古墳時代 …… 50
　第2節　その他の時代 …… 52
観察表 …… 55
抄録 …… 62
写真図版
仕様

挿 図 目 次

第1図　飛尾横穴群周辺地質図 …… 5
第2図　飛尾横穴群周辺遺跡分布図 …… 7
第3図　飛尾横穴群遺構配置図 …… 11
第4図　1号墓実測図 …… 13

第 5 図　12 号墓実測図 …… 14
第 6 図　12 号墓出土遺物実測図 1 …… 15
第 7 図　12 号墓出土遺物実測図 2 …… 16
第 8 図　12 号墓出土遺物実測図 3 …… 16
第 9 図　13 号墓実測図 …… 17
第 10 図　14 号墓実測図 …… 19
第 11 図　14 号墓出土遺物実測図 …… 20
第 12 図　15 号墓実測図 …… 21
第 13 図　15 号墓出土遺物実測図 …… 22
第 14 図　16 号墓出土遺物実測図 …… 22
第 15 図　17 号墓実測図 …… 24
第 16 図　17 号墓出土遺物実測図 1 …… 25
第 17 図　17 号墓出土遺物実測図 2 …… 25
第 18 図　17 号墓出土遺物実測図 3 …… 25
第 19 図　18 号墓実測図 …… 27
第 20 図　18 号墓出土遺物実測図 …… 27
第 21 図　19 号墓実測図 …… 29
第 22 図　19 号墓出土遺物実測図 …… 29
第 23 図　20 号墓及び出土遺物実測図 …… 31
第 24 図　21 号墓実測図 …… 31
第 25 図　21 号墓出土遺物実測図 …… 32
第 26 図　調査区外出土遺物実測図 1 …… 33
第 27 図　調査区外出土遺物実測図 2 …… 34
第 28 図　調査区外出土遺物実測図 3 …… 35
第 29 図　横穴墓内出土遺物実測図 …… 37

図 版 目 次

図版 1　調査区近景（1～5 号墓、東から）
図版 2　調査区近景（6～8 号墓、東から）
図版 3　調査区近景（9～11 号墓、東から）
図版 4　調査区近景（12～14 号墓、東から）
図版 5　調査区近景（15・16 号墓、東から）
図版 6　調査区近景（17・18・21 号墓、東から）
図版 7　調査区近景（19・20 号墓、北から）
図版 8　12 号墓 1（東から）
図版 9　12 号墓 2（東から）
図版 10　13 号墓 1（東から）
図版 11　13 号墓 2（東から）
図版 12　14 号墓 1（東から）
図版 13　14 号墓 2（東から）
図版 14　15 号墓 1（東から）
図版 15　15 号墓 2（東から）
図版 16　16 号墓 1（東から）
図版 17　16 号墓 2（東から）
図版 18　17 号墓 1（東から）
図版 19　17 号墓 2（西から）
図版 20　18 号墓（東から）
図版 21　19 号墓 1（東から）
図版 22　19 号墓 2（東から）
図版 23　20 号墓 1（東から）
図版 24　20 号墓 2（東から）
図版 25　21 号墓（東から）
図版 26　防空壕跡（東から）
図版 27　飛尾横穴群東崖面（北から）
図版 28　12 号墓出土遺物
図版 29　14 号墓出土遺物
図版 30　15 号墓出土遺物
図版 31　16 号墓出土遺物
図版 32　17 号墓出土遺物
図版 33　18 号墓出土遺物
図版 34　19 号墓出土遺物
図版 35　20 号墓及び 21 号墓出土遺物
図版 36　横穴墓内出土遺物
図版 37　調査区外出土遺物

表 目 次

表 1　飛尾横穴群調査行程 …… 4
表 2　周辺遺跡一覧 …… 8
表 3　横穴墓一覧 …… 54
表 4　出土土器観察表 …… 55
表 5　出土鉄器等観察表 …… 57
表 6　出土装身具観察表 …… 58
表 7　出土石器観察表 …… 61

第Ⅰ章　調査の契機と経過

第1節　調査に至る経緯

飛尾横穴群は、下益城郡城南町大字東阿高字飛尾に所在する。

当該地域は、山腹崩壊危険箇所に指定されており、以前から崩落のおそれがある地域であった。平成16年6月の梅雨前線豪雨により法面崩落が発生し、県として早急な防災対策を求められることとなった。宇城地域振興局土木部工務課（以下「宇城土木」とする）は、避難地・迂回路のない避難路を保全するため、本遺跡を含む全長190mにわたる擁壁及び法面保護工事を計画した（飛尾急傾斜地崩壊対策事業）。宇城土木は、熊本県教育庁文化課（以下「県文化課」とする）より関係部局に平成17年11月7日付け教文第2020号で実施した事業照会に対して、平成17年12月12日付け宇城企調第414号でその事業内容を回答した。

これに先がけて平成17年6月30日に宇城土木と県文化課、それに城南町（社会教育課、建設課）の3者で事業内容の確認と本遺跡の取扱いについて協議した。その結果、遺構の状況を確認後に記録保存のための発掘調査を行うこと、本遺跡は町指定史跡であるので工事に先立ち現状変更の手続きを行うこと、工事範囲について設計案の段階で再度協議すること、などで合意した。

宇城土木は、県文化課に対して平成17年7月5日付け宇城工第78号で埋蔵文化財の予備調査を依頼した。これを受けて県文化課は、平成19年1月18日に確認調査を実施したが、崖面の前方に設置予定の擁壁部分からは遺構を確認できなかった。そのため横穴群の残る崖面部分について発掘調査を実施する必要がある旨を宇城土木に通知した。また、これに併せて県文化課は、熊本県遺跡地図に未登録となっていた本遺跡の登録も進めた。（平成19年4月13日付け教文第98号で新規記載）

宇城土木は、城南町指定の史跡内の工事となるため、史跡の現状変更等の許可申請を平成19年8月29日付け宇城工第54号で城南町に申請した。これを受けて城南町は、申請内容を審議した結果、事情やむなしと判断して「1　工事着手の前に詳細な発掘調査を実施すること。2　擁壁設置後は、当該文化財が存在したことを示す表示を行うこと。」を条件に平成19年9月26日に許可した。現状変更の許可が下りたため、宇城土木は、平成19年8月29日付け宇城工第54号で城南町を経由して県文化課に文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財の発掘通知を行った。（平成19年10月12日付け城教社第488号で進達）これに対して県文化課は、平成19年10月23日付け教文第1739号で発掘調査を指示した。

県文化課からの指示を受けて宇城土木は、平成19年11月6日付け宇城工第76号で県文化課に対して発掘調査を依頼した。そして県文化課は、平成19年11月19日付け教文第1932号で文化財保護法第99条第1項に基づく発掘調査の通知を行い、発掘調査を実施することとなった。

なお、遺跡名については、熊本県遺跡地図には「阿高・尾窪古墳群（飛尾横穴群）」と登録されているが、本書では混乱を避けるため調査時から呼称している「飛尾横穴群」を使用する。

第2節　調査組織

1　確認調査（平成18年度）

調査主体　　熊本県教育委員会

調査責任者　梶野英二（文化課長）

調査総括　　江本　直（課長補佐）

　　西住欣一郎（文化財調査第二係長）

調査担当　木村元浩（参事）
　　廣田静学（参事）
　　牛島晋浩（非常勤職員）
調査事務　吉田　恵（課長補佐）
　　高宮優美（主幹兼総務係長）
　　塚原健一（参事）
　　小谷仁志（主任主事）

2　発掘調査（平成19年度）

調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　梶野英二（文化課長）
調査総括　江本　直（課長補佐）
　　西住欣一郎（主幹兼文化財調査第二係長）
調査担当　中村幸弘（主任学芸員）
　　福田匡朗（非常勤職員）
調査事務　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）
　　高宮優美（主幹兼総務係長）
　　塚原健一（参事）
　　高松克行（主任主事）

3　整理作業（平成20年度）

整理主体　熊本県教育委員会
整理責任者　米岡正治（文化課長）
整理総括　江本　直（課長補佐）
　　西住欣一郎（主幹兼文化財調査第二係長）
整理担当　中村幸弘（主任学芸員）
　　佐藤淳子（非常勤職員）
整理事務　宗村士郎（教育審議員兼課長補佐）
　　川上勝美（主幹兼総務係長）
　　山田京子（参事）
　　高松克行（主任主事）

4　調査指導及び調査協力者

清田純一（城南町教育委員会社会教育課）、池田朋生（熊本県立装飾古墳館）、江本　直、高木正文、西住欣一郎、廣田静学、木村元浩、尾方圭子、松森由美、亀田　学、木村龍生、多賀晴司（熊本県教育庁文化課）、城南町文化財保護審議会

熊本県土木部河川課、宇城地域振興局土木部工務課、内田頼照、山本勝利

5　調査・整理作業員（敬称略、五十音順）

発掘調査

赤星忠光　太田真博　緒方範子　押方富江　斉藤正義　笹木　薫　白石美枝子　関　律子　竹馬　武　西村和幸　福岡三男　前田目出男　満汐昭子　宮崎良子　山下榮子　羅　美鳳

室内整理

川井田久子　古閑知子　後藤直美　佐藤吉成　益田久子　宮崎典子　山下千栄子

第3節　調査の経過

発掘調査は、平成19年12月下旬から平成20年3月末までの3ヶ月余りを費やした。当初6ヶ月間の調査期間を見込んでいたが、諸般の事情により半分近く短縮せざるを得ない状況となった。（表1）

整理作業は、平成20年5月から同年9月までの5ヶ月を要した。途中整理作業を行っていた文化財資料室の移転によって1ヶ月近く作業が中断することとなった。現場で出土遺物の水洗いはほぼ完了していたので、一次整理は注記と復元のみで済んだ。その後実測、トレース、写真撮影、図版作成等を行うと同時に出土遺物の保存処理や自然科学分析の委託も進めた。

以下に発掘調査の調査行程を列記する。（調査日誌より抜粋）

平成19年

12月19日　事務所設置及び調査機材の搬入。

12月20日　現場開始。

12月27日　年内の作業終了。

平成20年

1月　8日　現場再開。作業員通勤途中に事故。交通安全の徹底を周知。

1月10日　12号墓玄室内の廃土より小玉出土。以後、廃土のふるい掛けの作業が大幅に増加。

1月17日　作業員通勤途中に事故。交通安全の更なる徹底を周知。

2月　1日　15号墓玄室左側壁に装飾らしきものがあると指摘（県文化課　高木補佐）。

2月　4日　15号墓の装飾らしきものについて分析するも装飾と確認できず（県立装飾古墳館　池田）。

2月25日　委託業者による遺構実測作業開始。

2月27日　擁壁部分の工事現場から遺物が大量に出土。一括資料の可能性もあるが工事は完了しており、追加調査は不可能。

3月　5日　城南町文化財保護審議会来跡。遺跡の状況を視察。

3月　7日　17号墓と18号墓の間に新たな横穴を発見。これを「21号墓」と命名。

3月11日　委託業者による遺跡空中写真撮影。

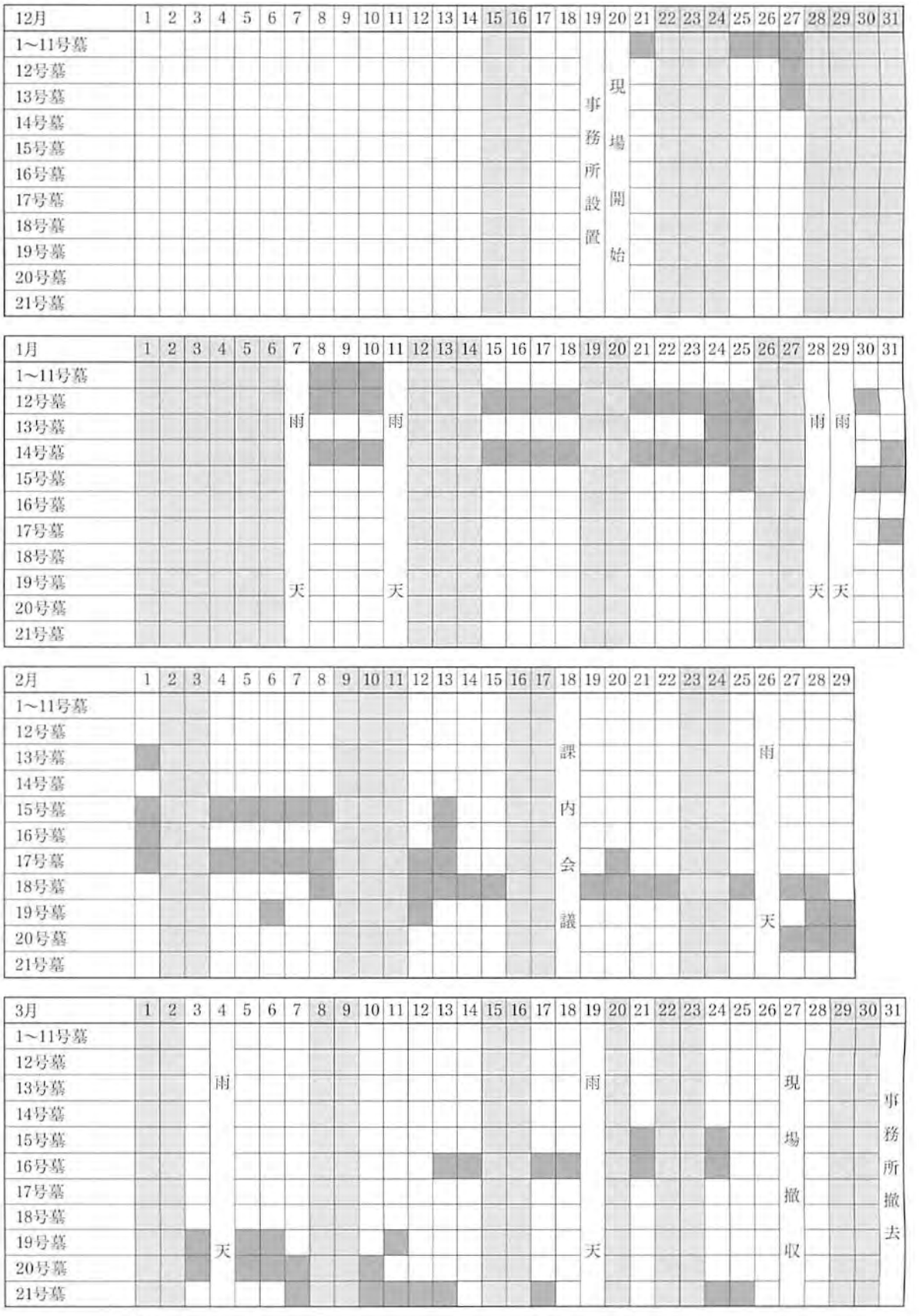
3月25日　調査予定の横穴の調査完了。

3月26日　調査区内にある防空壕跡及び調査対象から外れた東崖面の横穴群の写真撮影。

3月27日　現場撤収。機材等を文化財資料室へ搬出。

3月31日　事務所撤去。完全に調査終了。

表1　飛尾横穴群調査行程



第Ⅱ章　周辺の地理的・歴史的環境

第1節　地理的環境（第1図）

下益城郡城南町は、熊本県の中央、宇土半島基部から熊本平野南部に位置する。南には西南日本を内帯と外帯に二分する中央構造線の臼杵－八代構造線が走っている。西側には木原山（別名雁回山、標高 314.4 m）がそびえ、北側には九州山地を源流とする緑川が蛇行している。そして緑川の支流である浜戸川が両者の間を縫うように流れている。緑川と浜戸川、この二つの河川の周りには熊本平野南部から続く沖積平野が広がっており、町の大半はこの平野部が占めている。海岸線から 10km 程内陸に位置するにもかかわらず、平地の標高が平均約 10m と低いのはこうした地形によるところが大きい。

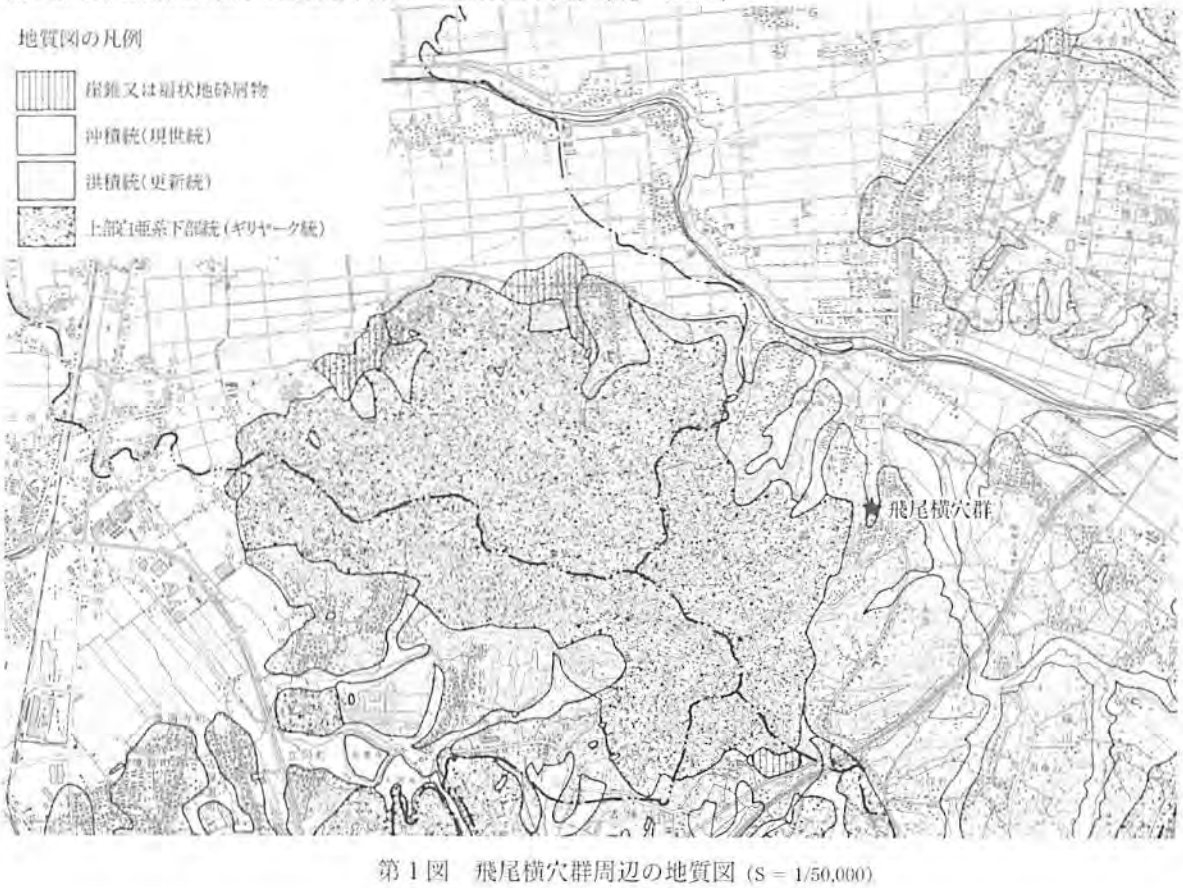
木原山から東側にのびる山地は、下に白亜紀後期の泥岩層と礫岩層をもち、黒褐色の泥岩層は砂岩の薄層を挟んでいる。泥岩層の上には雁回山をつくる黄褐色の礫岩層が重なり、それは数枚の砂岩の薄層を挟んでいる。長年の侵食で複雑な侵食谷が生じ、多くの舌状台地を作り出している。また、こうした舌状台地の縁に凝灰岩が露出しており、急峻な崖面を形成している。こうした岩盤の間から湧水している場所も少なくなく、場所によっては湿地と化していることもある。

三方を山地に囲まれた熊本平野の南端に位置し、西方に宇土半島や木原山があるため強風の被害を受けにくく温暖な気候に恵まれている。その一方で梅雨期の降水量が多く、２つの河川沿いでは昔からしばしば河川の氾濫が発生しており、山間部では多量の降雨によって山崩れも多発してきた。ただ、こうした災害が数々の重要遺跡の発見・調査の遠因ともなっているのは、皮肉と言わざるを得ない。

文献

城南町史編纂会編『城南町史』 1965 年

熊本県環境生活部編『熊本県環境基本計画　環境特性図（地図集）』 1995 年



第１図　飛尾横穴群周辺の地質図（S = 1/50,000）

第2節　歴史的環境（第2図）

下益城郡城南町は、前節で述べたように温暖な気候と多量の降水により、肥沃な土地に恵まれた地域である。当然ながら原始より多くの人々がこの地で生活を営み、その痕跡である文化財が数多く残されている。国指定文化財5件、県指定文化財1件、町指定文化財50件の他多くの埋蔵文化財（遺跡）を抱えているが、特に国指定文化財を5件も保有している点は、肥後地域における当該地域の歴史的・文化的重要性を示していると言えよう。

以下に各時代の概要を述べていく。

旧石器時代の遺跡は、あまり確認されていない。沈目遺跡で石核や石器がまとまって出土している他は、上の原遺跡等で数点出土しているくらいである。

縄文時代になると舞原台地や塚原台地の周縁部を始めとして遺跡が点在するようになる。前述の沈目遺跡は縄文時代早期の押型文土器で知られる遺跡でもある。さらに縄文時代中期から後期になると浜戸川沿いに阿高貝塚、黒橋貝塚、御領貝塚といった熊本県を代表する貝塚が出現する。いずれも縄文土器の標式遺跡となっており、全国区の遺跡と言っても過言ではない。縄文海進とその後の海退による環境の変化をこれらの貝塚から読み取ることができ、こうした環境の変化が次の弥生時代の遺跡の分布に大きな影響を与えている。

弥生時代になると舞原台地西端を中心に多くの遺跡が出現する。これは、台地周辺の低湿地が広がることで稲作が普及し、それに伴い集落が形成されていったためと考えられる。なかでも新御堂遺跡は、城南町教育委員会による発掘調査で弥生時代中期から後期の竪穴住居跡539軒を始め、甕棺墓89基、土壙墓252基、環濠2本を検出しており、大規模な環濠集落が舞原台地に存在したことを示している。

古墳時代になると、吉野山周辺や塚原台地とその周縁部に古墳が多く出現するようになる。特に塚原台地に位置する塚原古墳群は、前方後円墳2基、円墳53基、方形周溝墓39基、石棺18基等を誇る首長墓群とも呼ぶべき古墳群である。また、塚原古墳群の北東、浜戸川を挟んだ対岸の台地上には甚九郎山古墳と狐塚古墳の2つの前方後円墳がある。甚九郎山古墳には、石室の石材に線刻と彩色による装飾が施されており、城南町では数少ない装飾古墳である。こうした古墳群の周囲には、当然ながら集落もあったと考えられ、塚原古墳群の南東部には上の原遺跡があり、古墳群の造営時期に重複する時期の竪穴住居跡が多数見つかっている。こうして当該地域は、古墳時代を通じて隆盛を極めていくが、古墳時代後期には、従来の古墳に代わり横穴群が造営されるようになった。これらは、崖面に露呈している凝灰岩を加工して造られ、その数は20群477基以上を数える。これは、熊本県内の横穴数の約13％に及ぶもので、横穴密集地帯とも言える。羨門上縁に円形陽刻があるとされる御領横穴群や鞆の文様がある閉塞石が出土したとされる牛頸横穴群、それに亀甲が出土した阿弥陀尾横穴群等が有名だが、大半の横穴群は未調査であり、その様相は不明のままである。

古代になると陣内廃寺跡や益城国府跡が示すように古代の肥後地域における政治の中心地の一つとして機能していたことが伺える。また中世には、祇園寺や久満寺、能仁寺といった寺院の他に多くの石造物が造られている。

文献

城南町史編纂会編『城南町史』　1965年

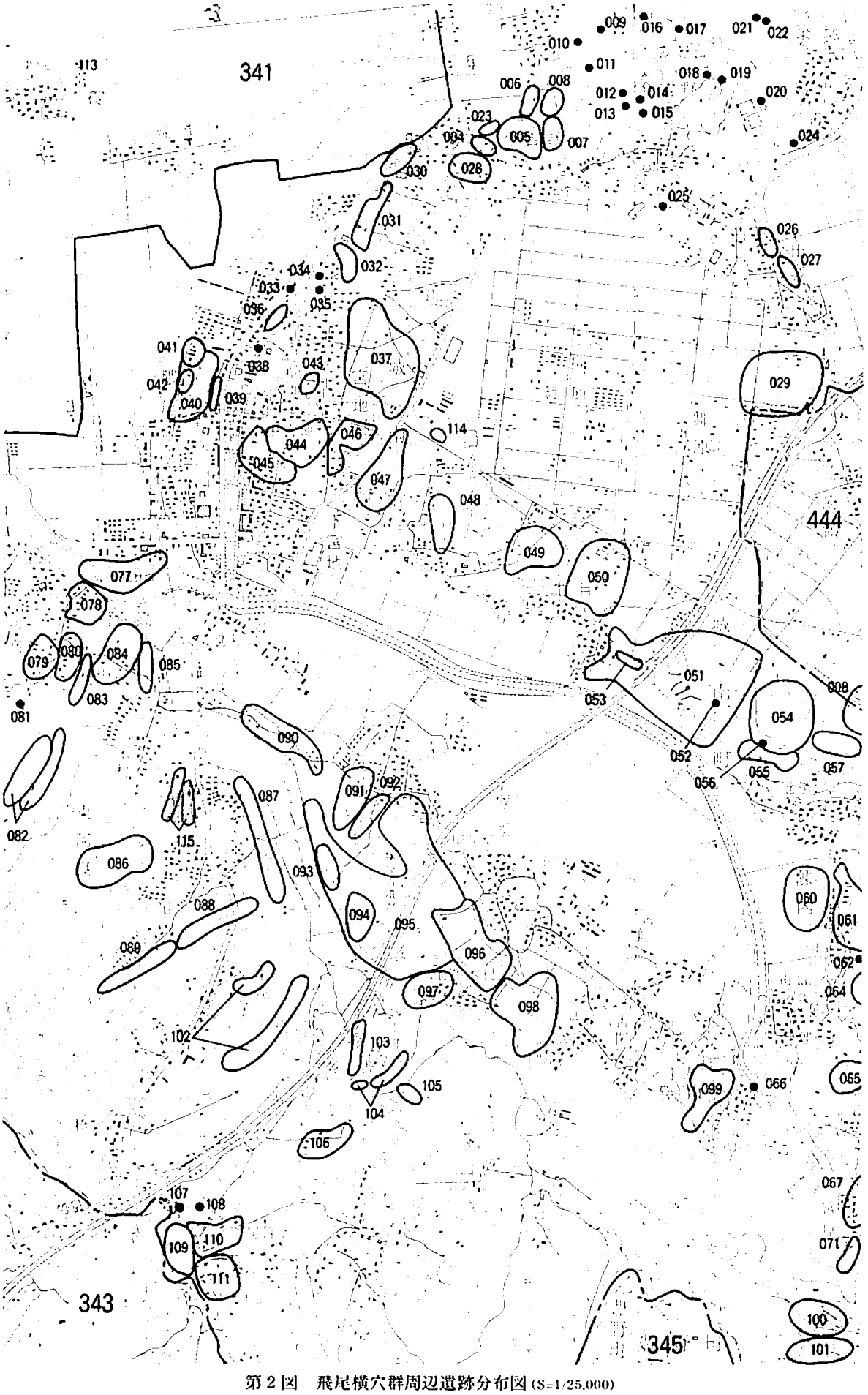
城南町教育委員会編『沈目遺跡』城南町文化財調査報告第12集　2002年

城南町教育委員会編『宮地遺跡群』城南町文化財調査報告第13集　2003年

城南町歴史民俗資料館編『小林コレクションⅡ』城南町歴史民俗資料館収蔵品目録第2集　1987年

熊本県教育委員会編『塚原』熊本県文化財調査報告第16集　1975年

熊本県教育委員会編『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県文化財調査報告第68集　1984年



第２図　飛尾横穴群周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)

表2　周辺遺跡一覧

熊本県(43)　城南町(341)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
004	今村横穴群	今　吉野・東原	古墳	古墳		須恵器片
005	益城郡国推定地	坂野　西天神原	古代	包蔵地	町	
006	西天神原(a)	坂野　西天神原	縄文～古代	包蔵地		
007	西天神原(b)	坂野　西天神原	縄文～古代	包蔵地		
008	東天神原	坂野　東天神原	縄文～古代	包蔵地		
009	東天神原甲古墳	坂野　東天神原	古墳	古墳	町	円墳、土製管玉、東天神原古墳群
010	東天神原乙古墳	坂野　東天神原	古墳	古墳	町	円墳、土製管玉、東天神原古墳群
011	東天神原丙古墳	坂野　東天神原	古墳	古墳	町	土製管玉、東天神原古墳群
012	大塚山西古墳	坂野　東天神原	古墳	古墳	町	円墳、大塚山古墳群
013	大塚山南古墳	坂野　東天神原	古墳	古墳	町	円墳、大塚山古墳群
014	大塚山古墳	坂野　東天神原	古墳	古墳	町	円墳、大塚山古墳群
015	大塚山東古墳	坂野　東天神原	古墳	古墳	町	円墳、大塚山古墳群
016	迫乙古墳	坂野　迫	古墳	古墳	町	
017	迫甲古墳	坂野　迫	古墳	古墳	町	
018	吉野山古墳	坂野　迫	古墳	古墳	町	
019	寺ノ山古墳	坂野　迫	古墳	古墳	町	
020	山畑古墳	坂野　山畑	古墳	古墳	町	
021	坂本古墳	坂野　山畑	古墳	古墳	町	円墳
022	鎧塚古墳	坂野　山畑	古墳	古墳	町	
023	西天神原横穴群	坂野　西天神原	古墳	古墳	町	
024	薬山古墳	薬地　薬山	古墳	古墳		須恵器
025	保生園内古墳	今　吉野・丸山	古墳	古墳		
026	西窪横穴	出水　西窪	古墳	古墳	町	須恵器
027	出水居屋敷横穴	出水　居屋敷	古墳	古墳	町	須恵器
028	今東原	今　吉野・西原	弥生・古墳	包蔵地		
029	山ノ上	出水　居屋敷	縄文・弥生	包蔵地		縄文早・晩期、弥生
030	今村貝塚	今　吉野・西原	縄文	貝塚		縄文晩期土器
031	今西原	今　吉野・西原	弥生	埋葬		弥生中期甕棺
032	西福寺	宮地　宮本	弥生	寺社		弥生中期甕棺
033	熊寺古墳	宮地　宮本	古墳	古墳		
034	熊寺跡	宮地　宮本	中世	寺社	町	文永2年創建、最古の禅寺
035	七社宮の宝塔身	宮地　宮本	中世	石造物	町	天福2年銘
036	宮本横穴群	宮地　宮本	古墳	古墳		
037	新御堂	宮地　新御堂	縄文・弥生	包蔵地		縄文晩期、弥生中期土器、石庖丁
038	祇園寺跡	宮地　祇園寺	中世	寺社	町	隈牟田荘の初期荘寺、須恵器・石造物
039	囲貝塚	宮地　囲	弥生	貝塚	町	弥生後期、須恵土器・石庖丁、出土品のみ町指定
040	隈庄城跡	隈庄　古城	中世	城跡	町	瓦出土
041	城の鼻古墳群	隈庄　古城	古墳	古墳		
042	城の鼻横穴群	隈庄　古城	古墳	古墳		
043	中尾貝塚	宮地　溝口	弥生	貝塚		弥生中期土器、磨石剣・石庖丁
044	溝口	宮地　溝口	弥生	包蔵地		弥生中期土器、石庖丁
045	熊仁寺跡	下宮地　居屋敷	中世	寺社	町	文永2年創建、最古の禅寺
046	上ノ山	隈庄　上ノ山	弥生	埋葬	町	弥生中期甕棺
047	安幕	隈庄　安幕	弥生	包蔵地		弥生後・末期土器
048	向楢現	下宮地　向楢現	弥生	包蔵地		弥生後期土器
049	迎原西・東	沈目　迎原西・東	弥生	包蔵地		弥生土器・石庖丁
050	沈目池頭	沈目　池頭　塚本	縄文	包蔵地		縄文早期土器、押型波状文
051	沈目奥野	沈目　奥野	縄文・古墳	集落	町	県教委調査地、沈目土器出土地
052	甚九郎山古墳	沈目　奥野	古墳	古墳		鉄刀・須恵器
053	沈目横穴群	沈目　奥野	古墳	古墳		土製管玉
054	舞ノ原	陳内　舞ノ原	旧石器～古代	包蔵地		
055	狐塚	陳内　狐塚	古代	包蔵地		
056	狐塚古墳	陳内　狐塚	古墳	古墳		
057	益城国府推定地	陳内　舞ノ原	古代	包蔵地	町	
060	陳内廃寺跡	陳内　道上ほか	古代	寺社	町	伽藍配置、蔵司、礎石
061	道上	陳内　道上	弥生	包蔵地		弥生土器
062	陳内窯跡	陳内　本村	古代	生産	町	平瓦・軒平瓦
064	陳内城跡	陳内　城尾	中世	城跡		
065	照山寺跡	鯛瀬　北口	古代・中世	寺社	町	平安末、豊田荘々寺、石造物
066	楢現尾古墳	鯛瀬　楢現尾	古墳	古墳		
067	鯛瀬	鯛瀬　西南原	縄文	包蔵地		縄文
071	益城郡家跡	鯛瀬　宮の前	古代	包蔵地	町	布目瓦
077	黒橋貝塚	下宮地	縄文・弥生	貝塚	国	縄文・弥生・土器・石器
078	阿高貝塚	阿高　東原	縄文	貝塚	国	縄文中期土器・骨角器・阿高式発生地
079	西原	阿高　西原	弥生	埋葬		弥生甕棺
080	阿高火葬墓跡	東阿高　城山	中世・近世	墓地		骨製斧・蔵骨器
081	影熊古墳	阿高　影熊	古墳	古墳		円墳
082	阿弥陀尾横穴群	阿高　影熊・山口	古墳	古墳	町	須恵器・亀甲人骨
083	御領横穴群	東阿高　八ツ尾	古墳	古墳	町	須恵器

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
084	御領貝塚	東阿高　八ツ尾	縄文	貝塚	国	縄文晩期土器・土偶、御領式本拠
085	アンドン坂横穴群	東阿高　千々屋寺	古墳	古墳	町	亀甲
086	阿高城跡	東阿高　城山	中世	城跡		
087	一位田横穴群	東阿高　一位田	古墳	古墳	町	須恵器
088	ウシクビ横穴群	東阿高　一位田	古墳	古墳	町	須恵器
089	一尾横穴群	東阿高　一尾	古墳	古墳	町	須恵器
090	岸古墳群	東阿高　岸	古墳	古墳		
091	松手	塚原　松手	縄文	包蔵地		縄文後期土器
092	権現社	塚原　砥用	弥生	埋葬		弥生式甕棺
093	日焼古墳裾	塚原	古代・中世	包蔵地		蔵骨器
094	火葬場裏古墳北	塚原　丸山	古代・中世	包蔵地		蔵骨器
095	塚原古墳群					
	丸山第1～4号古墳	塚原　丸尾	古墳	古墳	国	円墳
	りゅうがん塚古墳	塚原　丸尾	古墳	古墳	国	円墳
	将軍塚古墳	塚原　丸尾	古墳	古墳	国	円墳、鏡、玉、短甲など
	くぬぎ塚古墳	塚原　丸尾	古墳	古墳	国	円墳
	日焼塚古墳	塚原　北原	古墳	古墳	国	勾玉、管玉、小玉
	北原第1～2号古墳	塚原　北原	古墳	古墳	国	2号は円墳
	石ノ室古墳	塚原　北原	古墳	古墳	国	円筒状石製品、突起のある家型石棺
	花見塚古墳	塚原　北原	古墳	古墳	国	鉄剣・鉄鏃・金環・銅鏃
	琵琶塚古墳	塚原　丸山	古墳	古墳	国	円筒埴輪
	三段塚古墳	塚原　丸山	古墳	古墳	国	円墳
	丸山第1～5号古墳	塚原　丸山	古墳	古墳	国	円墳
	土取塚古墳	塚原　丸山	古墳	古墳	国	前方後円墳
	塚原	塚原　上ノ原	縄文・古墳	包蔵地	国	
096	上ノ原	塚原　上ノ原	弥生・古墳	包蔵地		
097	尾窪火葬墓跡	藤山　後田	中世	包蔵地		蔵骨器
098	黒木塚	尾窪　黒木塚	弥生	包蔵地		弥生土器・須恵器・土師器
099	山ノ神蔵骨器出土地	鯖瀬　山ノ神	古代・中世	包蔵地	町	蔵骨器
100	志導寺	鯖瀬　志導寺	縄文	包蔵地		縄文晩期土器
101	西菅場	鯖瀬　西菅場	縄文	包蔵地		縄文晩期土器
102	櫨野横穴群	藤山　櫨野	古墳	古墳		須恵器
103	ハシゴダン横穴群	藤山　古川	古墳	古墳	町	須恵器
104	鶴横穴群	藤山　鶴	古墳	古墳		
105	長原横穴群	藤山　長原	古墳	古墳	町	
106	南ハゼノ古墳群	藤山	古墳	古墳		
107	六地蔵第1号古墳	藤山　六地蔵	古墳	古墳		円墳
108	六地蔵第2号古墳	藤山　六地蔵	古墳	古墳		円墳
109	柿田	藤山　柿田	縄文	包蔵地		縄文晩期土器・十字石器
110	星野屋敷跡	藤山　上柿田	縄文	包蔵地		縄文早・晩期土器
111	三石野	藤山　三石野	縄文	包蔵地		縄文晩期土器
113	条里跡		古代・中世	生産		
114	舞原西	舞原	古代	集落		土師器・須恵器
115	阿高・尾窪古墳群(飛尾横穴群)	東阿高　飛尾	古墳	古墳	町	

熊本県(43)　甲佐町(444)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
008	沈目五山遺跡	田原	縄文～中世	包蔵地		

熊本県教育委員会編「上の原遺跡Ⅲ」熊本県文化財調査報告第73集　1985年

熊本県教育委員会編「黒橋貝塚」熊本県文化財調査報告第166集　1998年

熊本県教育委員会編『城の鼻横穴群』熊本県文化財調査報告第221集　2004年

熊本県教育委員会編『阿高貝塚』熊本県文化財調査報告第223集　2005年

藤本貴仁「城南町の横穴墓群」『九州の横穴墓と地下式横穴墓』第4回九州前方後円墳研究会大会発表要旨集－資料編－　2001年

第Ⅲ章　調査の成果

第1節　調査の方法

発掘調査は、まず調査区内において正確な横穴墓の数を把握することから始めた。それぞれの現状を確認し、計20基を横穴墓として認定した。その後、調査終盤に1基発見したので調査区内の横穴墓数は、最終的には21基となった。横穴墓として認定したものは、発見した順に南側から番号を振っていき、「○号墓」として命名した。次にその中から確認調査の結果、埋蔵文化財の存在を確認できなかった擁壁部分を除く工事施工箇所の中で直接影響を受ける横穴墓の数を確認した。その結果、計10基の横穴墓を調査することとし、残りは現況の写真撮影と配置図作成のみ実施した。ただし、16号墓については、崖面に露頭している凝灰岩が非常に脆く、長年の風雨による劣化等で内部の調査が困難と判断したため、安全面を考慮して部分的な調査に留めた。

本遺跡一帯は、もともと侵食谷間の低湿地で足場が悪く居住には不適であったため、1m以上埋め立てており、大半の横穴墓は、一部ないし大半が客土に埋没した状態であった。そこでまず、こうした客土を除去して羨門部及びその前面の検出を試みた。ただし、工事範囲が崖面ぎりぎりに設定してあるため、実質的には玄室内の調査に限定される結果となった。

横穴墓への入り口を確保したら、玄室内に廃棄されたゴミや繁茂した草木竹類を除去して状況を確認した。その後横穴墓の主軸を設定し、各屍床にも土層観察用の軸を設定した。各部位で軸に沿ってトレンチを入れ、状況を確認しながら掘り下げることとした。出土遺物は、原位置を保っているものは記録をとって取り上げるが、流れ込みや後世の撹乱等で原位置を保っていないものについては、一括して取り上げることとした。また、遺物のとりこぼしを防ぐため、掘り上げた土は現地にてふるい（網目幅　3㎜、5㎜）に掛けることとした。掲載した遺物の大半はふるい掛けによるものである。

第2節　遺跡の概要（第3図）

飛尾横穴群は、その名のとおり古墳時代の横穴群を主体とする遺跡である。当然ながら遺構・遺物とも古墳時代のものが主体であるが、横穴群の持つ性格上、他の時代の文物も少なからず見受けられる。

古墳時代の遺構は、横穴墓21基である。本来、谷部の両崖面に分かれて西崖面（東向き）約40基、東崖面（西向き）約29基、計約69基が確認されていたようだが、調査対象となったのは工事が予定されている西崖面のみであった。このうち実際に調査を実施したのは、12号墓から21号墓までの10基であった。

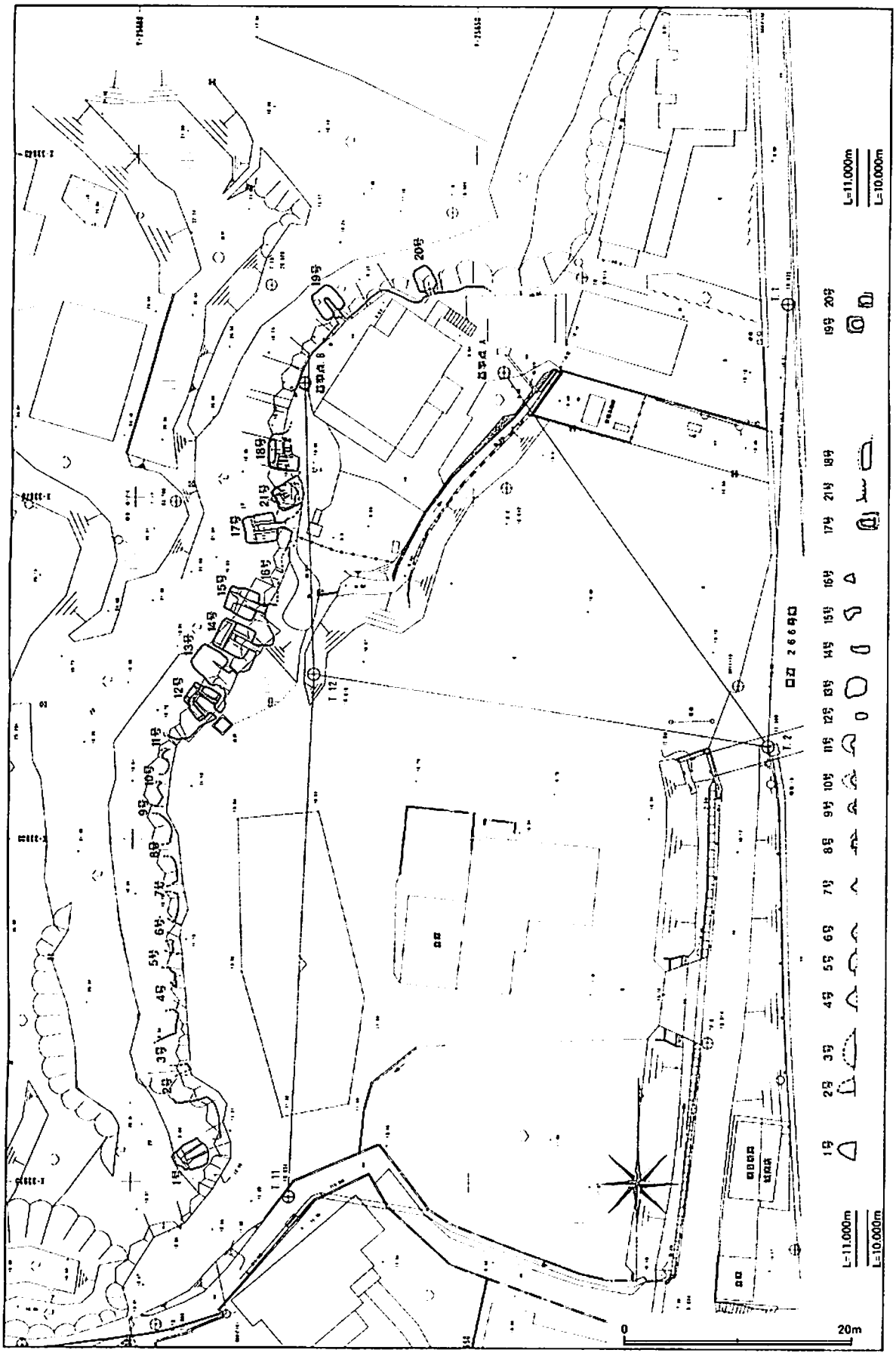
基本的に玄室を中心に残存しているが、羨道部まで確認できるものはほとんどない。羨門部から崖面が鋭角に落ちている上、崖面直下には湧水している箇所も少なくなく、遺構として墓前祭祀の痕跡を確認できなかった。ただ、擁壁工事に伴う掘削作業中に須恵器や土師器がまとまって出土した。

玄室は、平面プランが台形（凸形含む）又は長方形を呈し、コの字形の屍床配置を持つ構造である。後世の改変によって13号墓、19号墓、20号墓では屍床の仕切りがなかったが、壁面の痕跡を見る限り屍床は存在したと考えられる。天井部の形態がある程度判別できるほど残っているのは、18号墓と21号墓を除く8基である。それらを見る限りでは、蒲鉾形又はドーム形を呈している。軒先線は1号墓、12号墓で確認された他、18号墓にもその存在を窺わせる痕跡が確認できた。

なお、現状で確認する限り横穴群は、1段のみである。

その他の時代の遺構としては、太平洋戦争時の防空壕跡がある。

出土遺物は、網コンテナ5箱分を数える。玄室内は、後世の撹乱等によって主だった遺物は失われており、わずかな数量しか確認できなかった。古墳時代の遺物は、耳環、管玉、丸玉、小玉等の装身具を始め、土師



第３図　飛尾横穴群遺構配置図

器、須恵器、鉄鏃、刀子、馬具、弓金具等である。その他の時代の遺物としては、弥生時代の磨製石斧、横穴開口後に入れられた中世以降の土師器、瓦質土器、古銭、さらには近現代の銃剣等がある。
なお、掲載した遺構及び出土遺物については、巻末に観察表としてまとめている。

第3節　古墳時代の調査成果

1　1号墓～11号墓（図版1～3）

崖面を削平しないために破壊を免れた1号墓から11号墓までは、現況の記録に留め本格的な調査は実施していない。しかし調査区南端に位置する1号墓は、開口したままの状態で玄室内部を確認可能であったため、測量のみ実施した。以下にその概要を示す。（第4図）

1号墓は、玄室前壁から手前を破壊されており、羨門部及び羨道部は残っていないが、残存部より主軸方向は、N114°Wで東北東に開口していたと推測される。

玄室は、推定奥壁幅147cm、前壁幅230cm、残存奥行280cm、高さ170cmを測り、平面プランは台形というより凸形を呈する。屍床は奥屍床と左右屍床をコの字形に配置されているが、各仕切りはほぼ完全に削平されている。通路は幅50～80cmでやや末広がりになりながら玄門方向に伸びている。奥壁左側に90cm四方の穴が穿たれている。隣接して防空壕跡があるため、壁面を削りすぎた結果、繋がったように見えるのだろう。

天井部は、原形を留めない部分もあるが蒲鉾形を呈していることが分かる。奥壁側から前壁側に向かって緩やかに高くなっている。天井と側壁の間に軒先線も確認できる。

2　12号墓

遺構（第5図・図版8、9）

調査した横穴群の中央、11号墓の北側に位置する。直前に井戸があり、さらに客土による盛り土のため羨門部前方は完全に埋没していた。そのため調査当初、左前壁に穿たれた盗掘孔を羨門と誤認していた。玄室内には石灰が10cm程堆積しており、かつて倉庫として転用されていたことを物語っている。主軸方向は、N51°Wで南東に開口している。

羨門部は、幅53cm、奥行60cm、高さ104cmを測る。直前の井戸のためほとんど横穴前面を掘削できず、羨道部や前庭部の様子を窺い知ることはできない。ただ、羨門前、つまり井戸直下に板状の石材らしきものが確認されており、閉塞石の可能性もある。

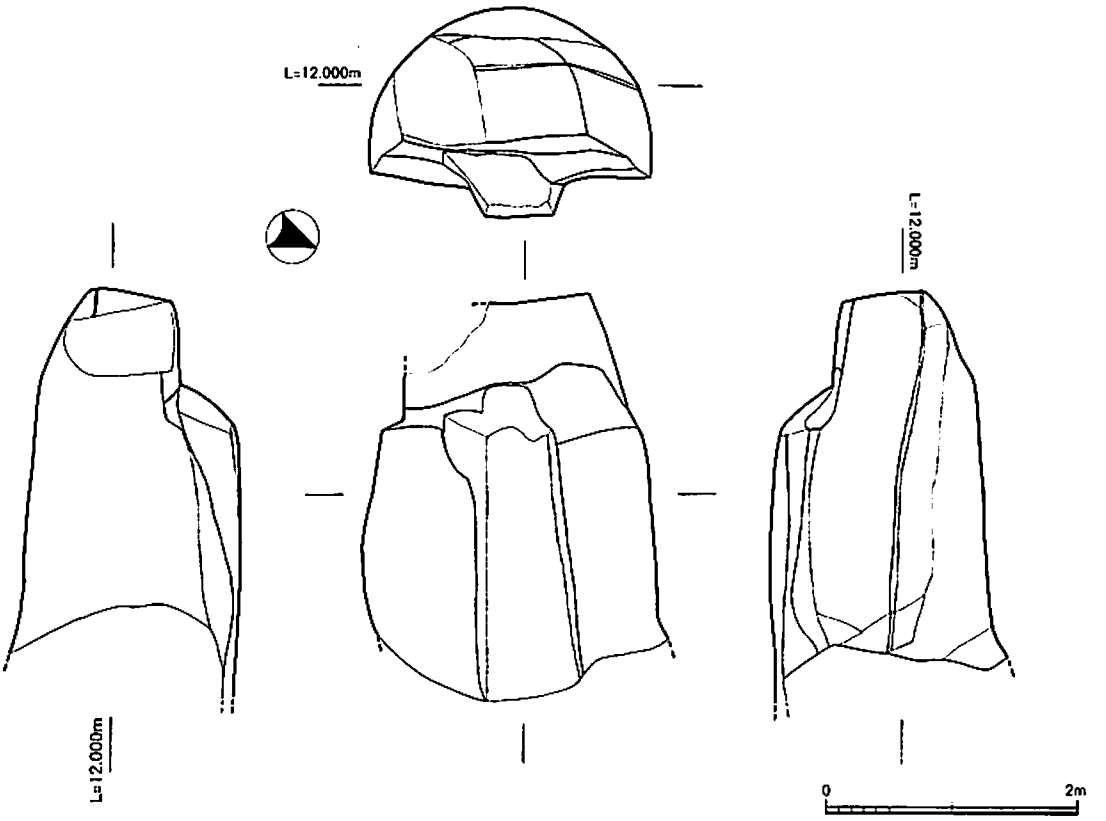
玄室は、奥壁幅180cm、前壁幅280cm、奥行257cm、高さ180cmを測り、平面プランは1号墓同様凸形を呈する。屍床は、奥屍床と左右屍床をコの字形に配置し、各仕切り中央には、排水用の切り込みが入っているが、左右屍床仕切りについてはどちらかと言えば所謂ゴンドラ形を呈している。屍床部には奥屍床では両端、左右屍床では南側に高さ15cm程の段が設けてある。これらの段は、仕切りより低く作り出してあり、その用途は判然としない。通路は幅56～100cmと玄門に向かって幅広になっている。

天井部は、崩落によってやや歪になっているが、やや平坦な蒲鉾形を呈している。側壁との境には、玄室を一周するように軒先線が巡っている。

右奥壁や天井部の一部を欠損しながらも玄室内は、比較的良好な状態で残っていた。本横穴群内では、玄室の構造を最もよく留めていると言える。

出土遺物（第6～8図・図版28）

土器片の他に鉄鏃8点、刀子1点、弓金具3点、耳環1点、丸玉4点、小玉199点が出土した。本横穴



第4図　1号墓実測図

群中で最も多くの玉類が出土した。特に奥屍床からは、12号墓から出土した玉類の85%以上が出土している。土器片は、細片のため図示していない。

奥屍床からは、刀子1点、耳環1点、丸玉3点、小玉171点が出土した。

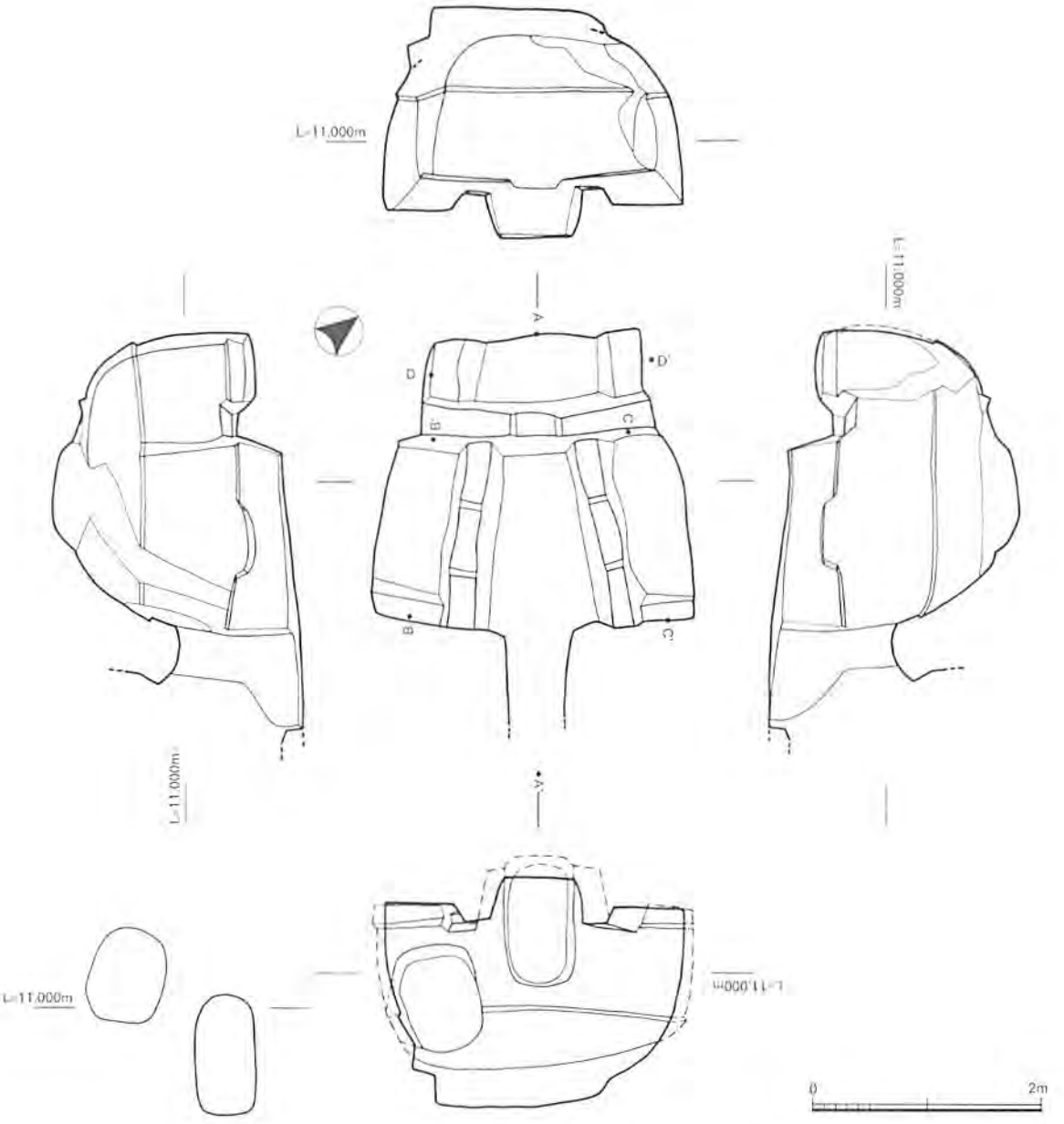
1は刀子である。床面付近にあったと考えられるが竹根に絡んでおり、原位置は不明である。茎部を一部欠損しているが保存状態は良好である。残存長13.5cm、最大幅1.4cm、身部長8.3cm、身部幅1.4cmであるが、茎部の幅に比べ細過ぎる感があり、使用時に身部を研磨した可能性もある。茎部には柄の有機質が残っている。

2は耳環である。表面はほぼ全面に錆で覆われているが、わずかに鍍金の痕跡が見られる。中央で屈折しているが、復元径2.0×1.8cmを測る。重量は0.88gである。

玉類については、大半がガラス製で5のみ水晶製である。色調は、丸玉では赤2点、白濁した透明1点である。小玉では、濃紺2点、紺14点、深緑14点、緑15点、水22点、黄107点である。多彩な色が確認されている中で黄が6割以上を占める。

右屍床からは、小玉1点が出土した。174は、ガラス製で紺色である。径4.0mm、厚さ2.0mm、孔径1.5mmを測る。取り上げ後に破損した。

左屍床からは、鉄鏃8点、弓金具3点が出土した。繁茂する竹根によって掘削時に原位置から動いてしまったが、床付近に位置するものが多かった。175は長頸鏃である。茎部の一部を欠損しているが残存長12.15cm、身部長2.5cm、頸部長8.25cmを測る。刃部は長三角形を呈し片刃造りである。関部は棘関で幅0.9cmを測る。176は身部と茎部の一部を欠くが長頸鏃である。残存長10.3cm、幅0.85cmを測る。ほぼ直線気味に伸びる。177は長頸鏃で頸部と関部の一部のみ残存する。残存長8.1cm、残存幅0.5cmを測る。やや湾曲気味に変形している。178は長頸鏃の身部である。頸部の一部も残存しており、残存長3.4cm、幅1.2cmを測る。刃部は両刃のようだが錆のためはっきりしない。179も長頸鏃の身部である。残存長3.0cm、幅1.3cmを測る。

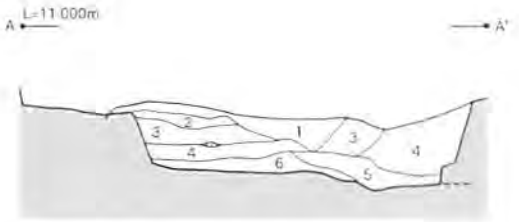


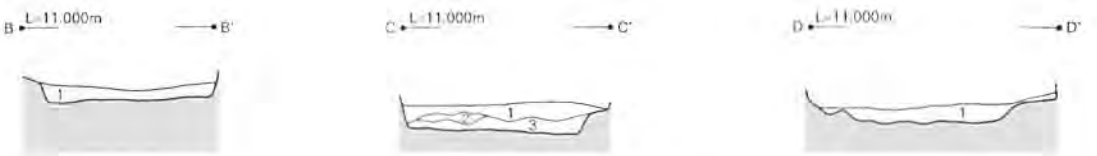
通路（A-A'）
1層：灰黄褐色砂質土（Hue10YR4/2）後世の石灰が多量に混入。
2層：褐灰色砂質土（Hue10YR4/1）天井部崩落による凝灰岩風化土。
3層：にぶい黄褐色砂質土（Hue10YR4/3）同上
4層：暗黄褐色粘質土（Hue10YR6/8）ややしまりあり。後世の客土か。
5層：暗褐色土（Hue10YR3/3）しまりなし。流入土。
6層：黒褐色砂質土（Hue2.5Y3/1）初期の天井部崩落土。

左屍床（B-B'）
1層：灰黄褐色砂質土（Hue10YR4/2）ややしまりあり。後世の石灰を含む。

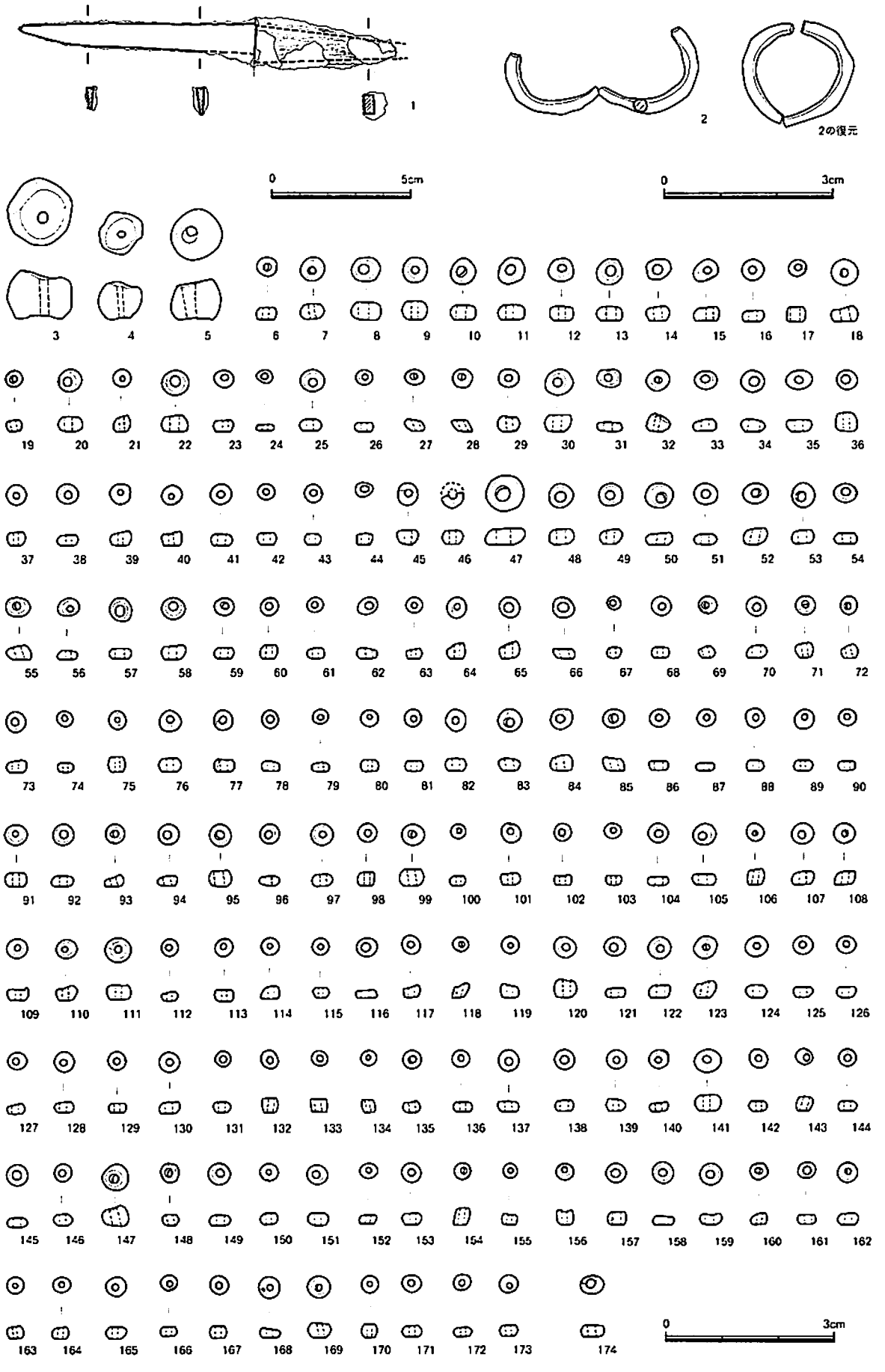
右屍床（C-C'）
1層：灰黄褐色砂質土（Hue10YR4/2）通路1層と同じ。
2層：褐灰色凝灰岩（Hue10YR4/1）天井部崩落による。風化して土壌化。
3層：灰黄褐色砂質土（Hue10YR4/2）右屍床1層と同じ。

奥屍床（D-D'）
1層：灰黄褐色砂質土（Hue10YR4/2）右屍床1層と同じ。

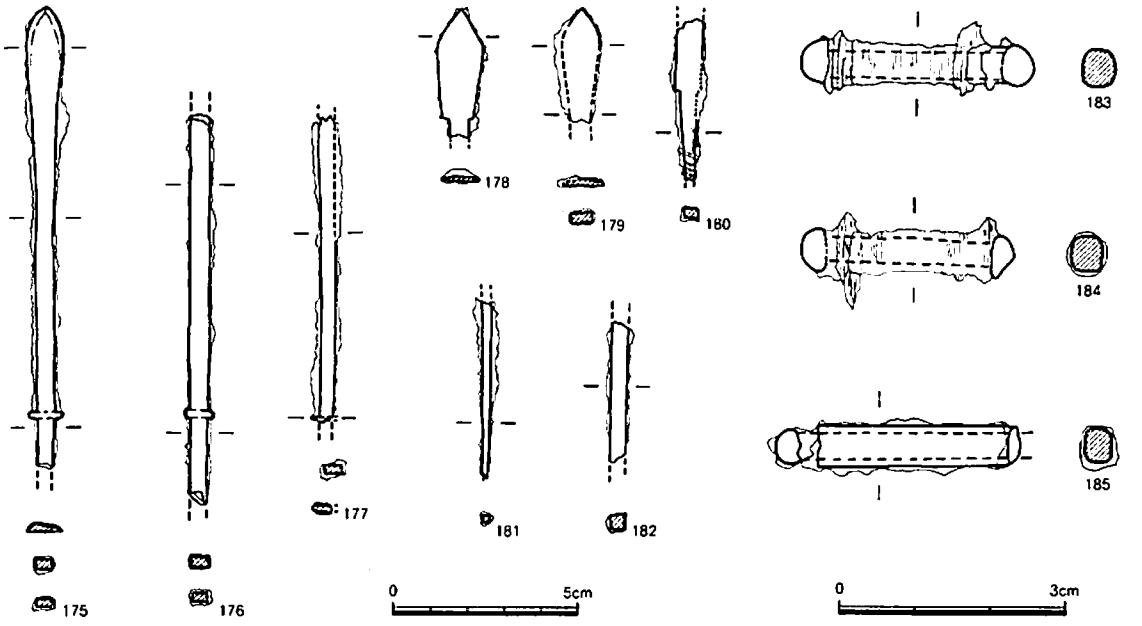




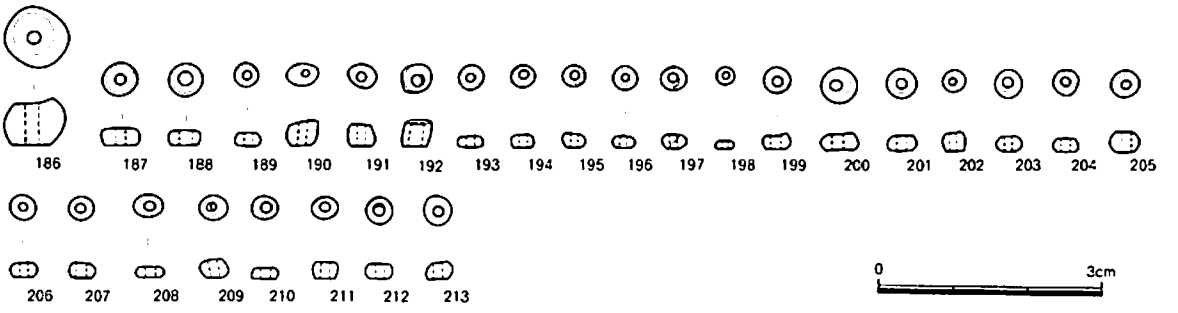
第5図　12号墓実測図



第６図　12号墓出土遺物実測図１



第7図　12号墓出土遺物実測図2



第8図　12号墓出土遺物実測図3

刃部は錆に覆われ形状等ははっきりしない。180は鏃の一部で頸部と茎部のそれぞれ一部が残存している。残存長4.3cm、幅0.7cmを測る。関部は角関であろう。茎部に樹皮状のものを巻きつけた痕跡が残っている。181は茎部のみ残存している。残存長4.8cm、幅0.28cmを測る。鏃の形式は不明である。182は鉄鏃の一部と考えられる。残存長3.7cm、幅0.45cmを測る。頸部もしくは茎部の一部であろう。183～185は弓金具である。両頭金具とも呼称される飾り金具の一種である。183は全長3.1cm、芯金部幅0.48～0.5cmを測る。装着していた弓の木質が残っている。錆に覆われているが両端の鋲頭もきちんと残っている。184は全長2.8cm、芯金部幅0.4～0.45cmを測りやや小ぶりである。装着していた弓の木質が残っている。右側鋲頭がやや潰れている感がある。芯金もやや歪んでいる。185は全長3.3cm、芯金部幅0.38～0.45cmを測る。他の弓金具同様、弓の木質が残っている。右側鋲頭は潰れているか欠損している。

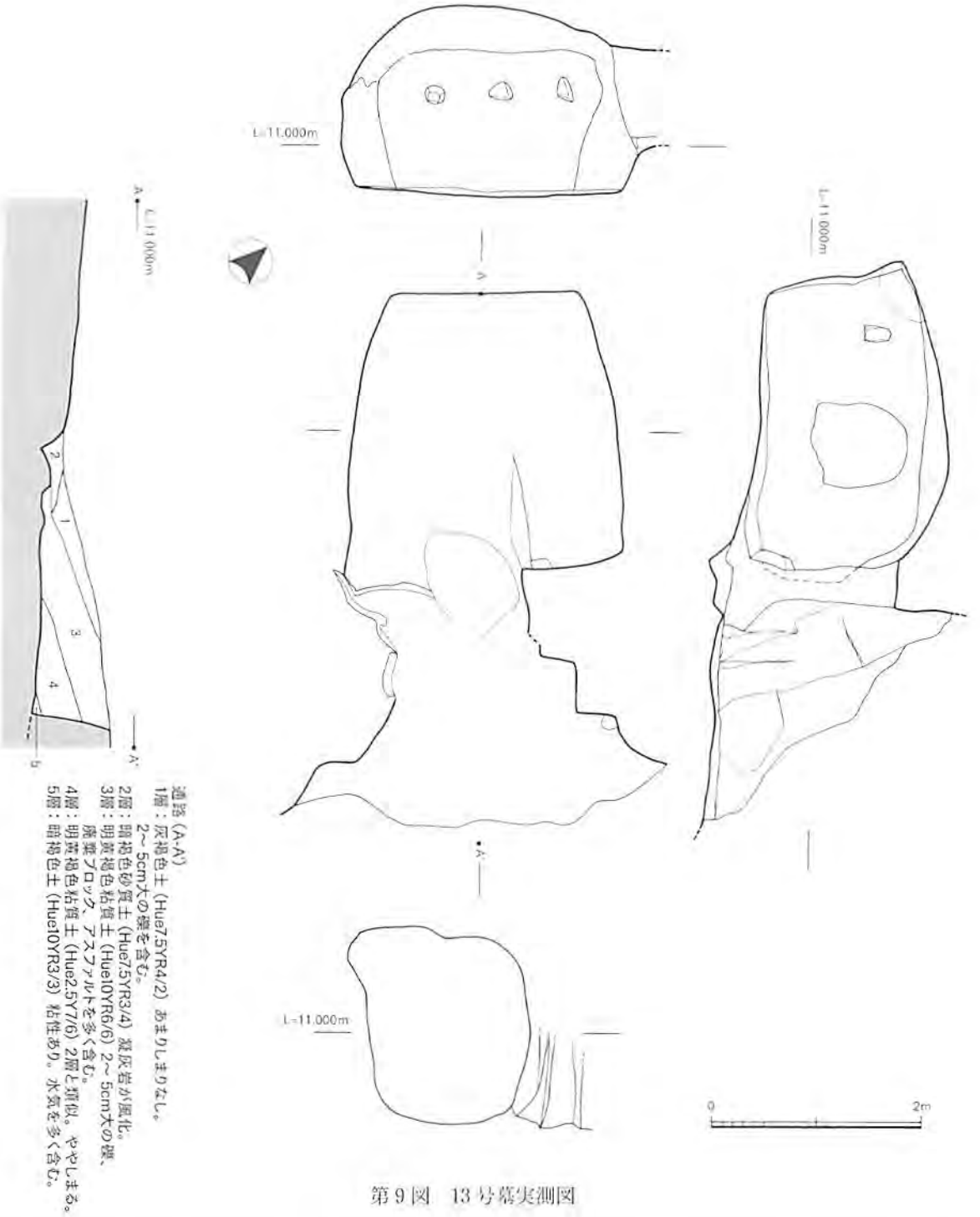
通路からは、丸玉1点、小玉27点が出土した。すべてガラス製である。色調は、丸玉では濃紺、小玉では紺2点、深緑2点、緑1点、水3点、黄19点である。奥屍床同様、黄が多数を占める。

3　13号墓

遺構（第9図・図版10、11）

12号墓の北側に位置する。玄室前壁から手前の大半を破壊されていたが、かろうじて羨道部右側が残っていた。12号墓と同様に客土が玄室の前面を覆っていた。主軸方向は、N49°Wで南東に開口している。

羨道部は、右側しか残っていないが現状では、推定幅170cm、長さ73cmを測る。



第9図　13号墓実測図

羨門部は、奥行66cmを測るが、後世の改変著しく旧状を留めていない。下端に飾縁らしき段も見受けられるが、詳細は不明である。

玄室は、内部を大幅に改変されている。現状では奥壁幅170cm、前壁幅265cm、奥行260cm、高さ177cmを測り、平面プランは長方形を呈するが、屍床は完全に削平され平坦になっている。通路の痕跡が左側にわずかに残るのみである。壁面にも相当後世の改変が及んでおり、ツルハシとおぼしき工具痕がいたるところに見られた。また右側面には、隣接する14号墓へ続く90×80cm大の侵入孔が穿ってある。

天井部は、壁面同様に新しい工具痕や崩落痕がほぼ全面に覆っており形状は定かではないが、周囲の横穴墓の状況から本来は、ドーム形か蒲鉾形を呈していたと推測される。

羨門部を大幅に広げ、床面を平坦に揃えていることから倉庫等に転用していたと考えられる。

遺物

出土していない。

4　14号墓

遺構（第10図・図版12、13）

13号墓の北側に位置する。前述したとおり、13号墓から玄室に入るための侵入孔が穿てる程に接している。羨門部から前方は、急に落ち込んでおり遺構として明確な羨道部は確認できなかった。主軸方向は、N62°Wで東南東に開口している。

羨門部は、幅58cm、奥行74cm、残存高さ150cmを測り、上部を欠損している以外は旧状を留めていると考えられる。地盤が、特に軟弱なため後世の改変か風化による崩落かは定かではない。

玄室は、奥壁幅245cm、前壁幅257cm、奥行316cm、高さ205cmを測り、平面プランは長方形を呈する。屍床は奥屍床と左右屍床をコの字形に配置しているが、仕切りは奥屍床のそれが約1／3残存する他は削平されている。左右屍床に至っては、奥壁側にその痕跡が残るのみで前壁幅は屍床と同じ高さになっている。12号墓で見られた屍床小口部の段は、奥屍床でのみ確認された。奥屍床仕切りには、奥屍床から通路へと抜ける排水用の穿孔が施されている。通路は幅50cmで羨門に向かってやや傾斜している。また奥屍床手前には20cm程の段がついている。

天井部は、部分的に崩落しているが、ドーム形を呈している。軒先線は確認できなかった。中央やや左寄りの部分に径40～50cmの穴が直線的に上方に伸びている。詳細は不明だが、本横穴群の上方には竹林が繁茂しており、軟弱な地盤を貫通して竹が落ちてきた可能性もある。天井部の穴に対応するように左屍床仕切りにも同規模の窪みが見られることはそのことを示唆していると言えよう。

玄室内の撹乱が惜しまれるが、玄室規模は今回調査した中で最大を誇る。排水用の穿孔を有する等、他の横穴墓とは一線を画する感もある。

遺物（第11図・図版29）

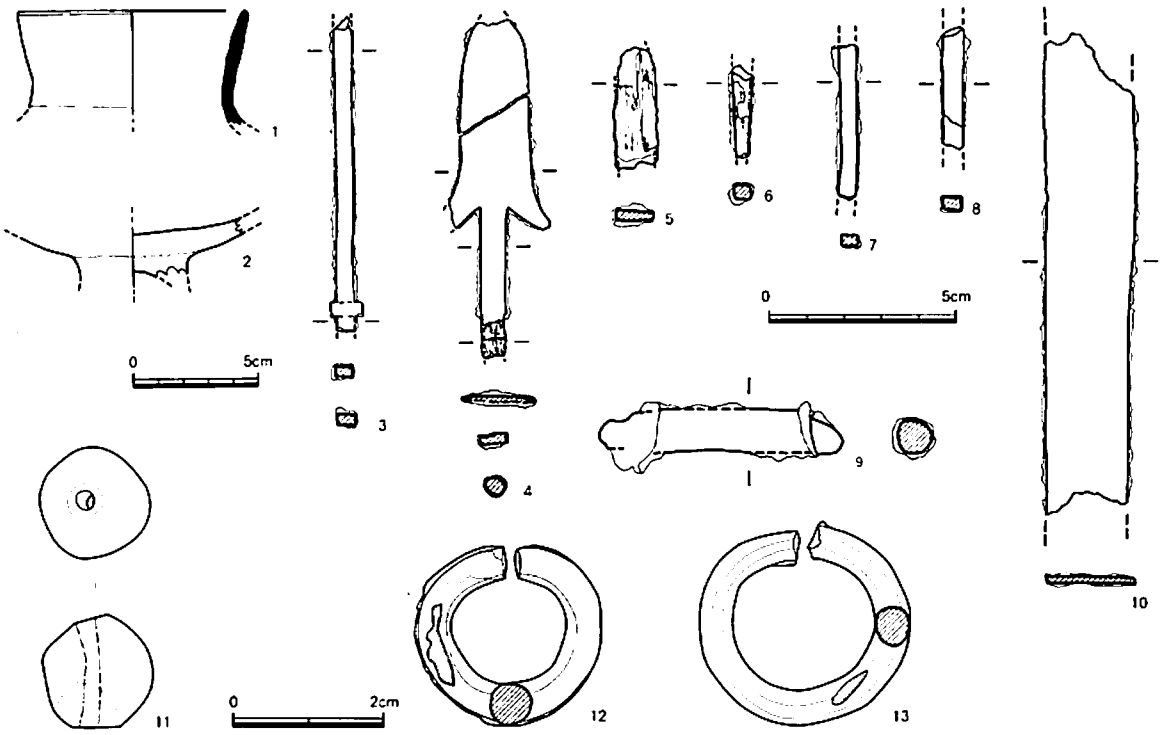
須恵器、白磁片の他に鉄鏃6点、鉄製品1点、弓金具1点、耳環2点、丸玉1点が出土した。

右屍床からは、鉄鏃1点が出土した。3は長頸鏃である。頸部から茎部にかけて残存する。残存長8.35cm、幅0.9cmを測る。

左屍床からは、須恵器1点が出土した。1は須恵器壺である。頸部のみ残存している。口径9.2cm、残存高4.5cm。やや外傾気味に立ち上がる。内外面とも回転横ナデを施す。

通路からは、須恵器1点、鉄鏃5点、弓金具1点、耳環1点、丸玉1点が出土した。左屍床から流入したものもあるが判別は困難である。2は須恵器高坏である。坏身から脚部にかけての一部のみ残存している。器面は赤変している。4は腸抉三角形鏃である。身部の一部と茎部の大半を欠損している。残存長9.0cm、残存身部長5.6cm、頸部長2.9cm、残存幅2.8cmを測る。やや面長の身部で左側の逆刺が欠損している。頸部には木質とそれを巡るように紐状の痕跡が残る。5は方頭の長頸鏃か。身部の一部のみ残存する。残存長3.25cm、残存幅1.0cmを測る。刃部の形状が不明瞭である。表面には木質が残る。6は鉄鏃の茎部の一部である。残存長2.4cm、残存幅0.55cmを測る。表面には木質が残る。7は鉄鏃の頸部の一部である。残存長4.05cm、残存幅0.47cmを測る。8も鉄鏃の頸部の一部であろう。残存長3.2cm、残存幅0.5cmを測る。9は弓金具である。全長3.25cm、芯金部径0.45cmを測る。14号墓では唯一の出土例である。装着していた弓の木質が残っている。錆が厚く覆っており、鋲頭の有無や形状ははっきりしない。

第10図　14号墓実測図



第11図　14号墓出土遺物実測図

11は丸玉である。土製で色調は黒である。径10.5mm、厚さ10.5mm、孔径2.5mmを測る。重量は3.44gである。表面を研磨している。12は耳環である。縦2.4cm、横2.5cm、断面径0.58cmを測る。重量は9.69gである。表面は剥離し、錆が覆っているが本来は金色であったと考えられる。

羨道部に相当する墓前客土からは、鉄製品1点、耳環1点が出土した。ただ客土中のものもあり、本横穴に伴うかは定かではない。10は板状の鉄製品の一部である。残存長12.7cm、幅2.4cmを測る。両端には刃部のような加工は施されていない。

13は耳環である。羨門部直前の地山直上より出土した。縦2.7cm、横2.8cm、断面径0.45～0.65cmを測る。重量は10.16gである。部分的に鍍金が剥離しているが、一見して金環と判別できる。

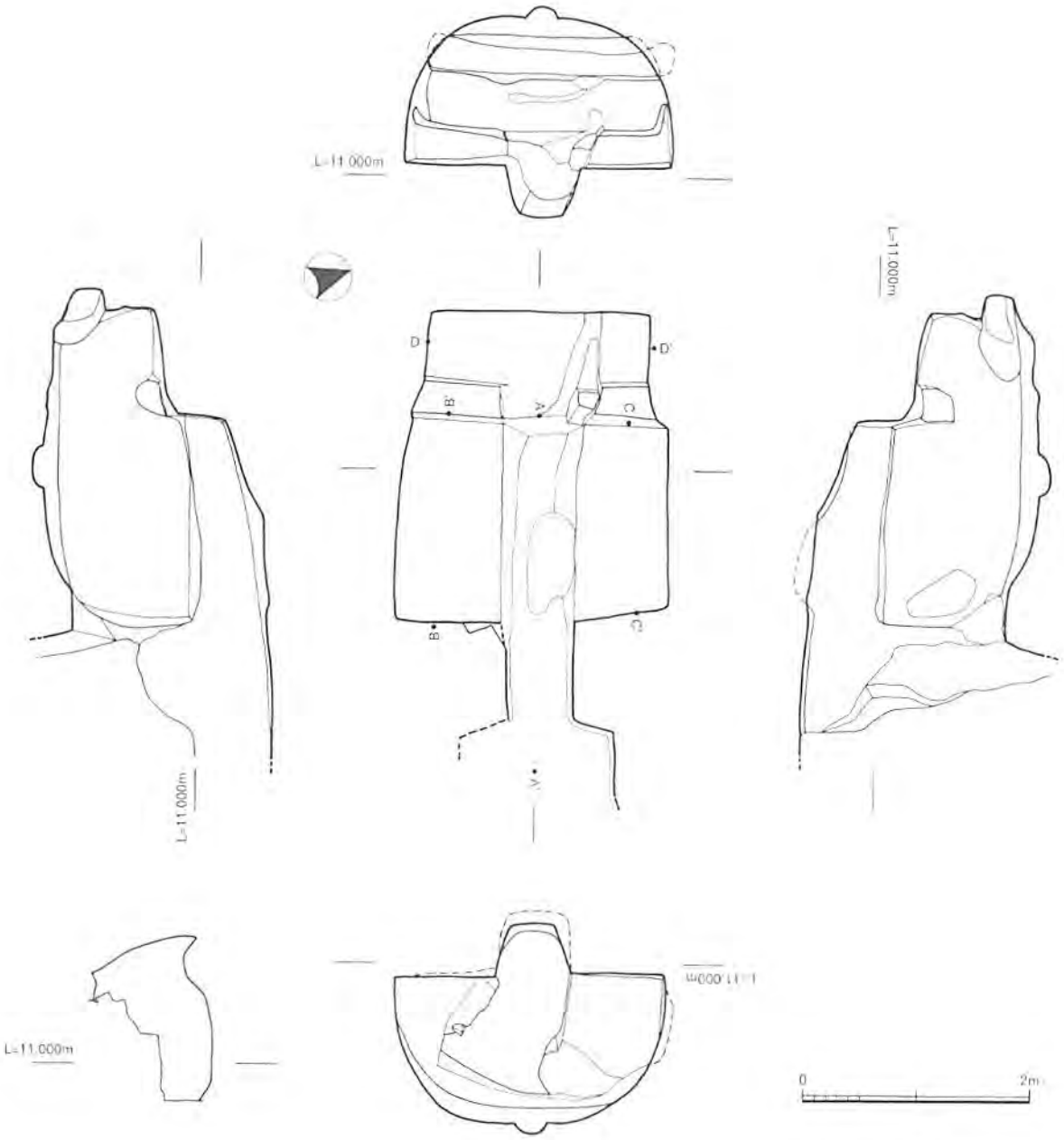
5　15号墓

遺構（第12図・図版14、15）

14号墓の北側に位置する。手前は現在も湧水しており、羨門部前方はほとんど調査不可能であった。また、横穴内外には竹根が繁茂している上、上方からの崩落土が大量に堆積していた。主軸方向は、N71°Wで東南東に開口している。

羨門部は、左側約1／3を失っているが幅67cm、奥行90cm、復元高さ118cmを測る。外面には複数の亀裂が走っており、羨門部の欠損もこうした亀裂による崩落がその一因となっていると考えられる。

玄室は、奥壁幅195cm、前壁幅242cm、奥行272cm、高さ176cmを測り、平面プランは長方形を呈する。やや凸形を呈しているようにも見えるが、全体的には長方形を呈していると判断した。屍床は、奥屍床と左右屍床をコの字形に配置している。奥屍床は中央付近で2つに割れているが、竹根によるものである。仕切りは、奥屍床のみ残存しているが、本来は左右屍床にも仕切りが存在したと考えられる。その奥屍床仕切りも上面を削平されているので、本来の姿を留めているとは言い難い。左右屍床仕切りは、痕跡を見出すのも困難なほどに削平されていた。側壁には渦巻状の黒いものが見られたが、調査の結果、顔料や線刻は確認

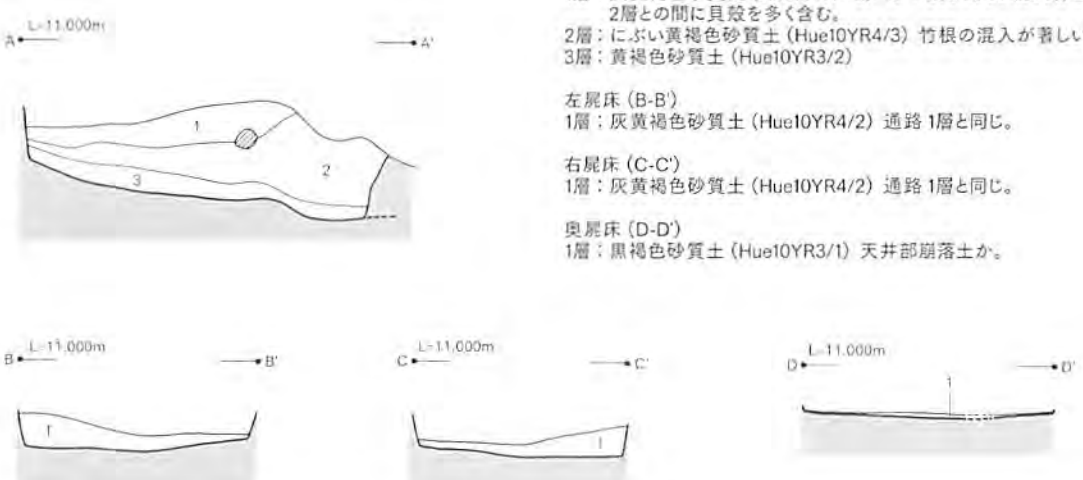


通路（A-A'）
1層：灰黄褐色砂質土（Hue10YR4/2）10～20cm大の凝灰岩を含む。
　　2層との間に貝殻を多く含む。
2層：にぶい黄褐色砂質土（Hue10YR4/3）竹根の混入が著しい。
3層：黄褐色砂質土（Hue10YR3/2）

左屍床（B-B'）
1層：灰黄褐色砂質土（Hue10YR4/2）通路1層と同じ。

右屍床（C-C'）
1層：灰黄褐色砂質土（Hue10YR4/2）通路1層と同じ。

奥屍床（D-D'）
1層：黒褐色砂質土（Hue10YR3/1）天井部崩落土か。



第12図　15号墓実測図

できなかった。奥壁上面には、奥行25cm、高さ20～30cm程の棚状の窪みが見られる。本横穴群では唯一の事例である。これが築造当時のものか、あるいは後世のものかは定かではないが、横穴墓の付随施設としては造りがやや粗雑な感があり、後に設けられた可能性も否定できない。通路は幅30～50cmで奥に行くほど狭くなっており、14号墓と同じく傾斜している。

天井部は、平らなドーム形を呈している。軒先線は見られない。

屍床仕切りや奥壁の様子から玄室内は、相当手を加えられた可能性がある。それは、13号墓のような現代の単なる倉庫としてではなく、別の目的で行われたと推測される。

遺物（第13図・図版30）

土師器、須恵器片、磨製石斧1点の他に刀子1点が出土した。横穴墓築造時の遺物は少ない。

左屍床からは、当時の遺物がほとんどない中で刀子1点が出土した。1は刀子の身部である。残存長8.1cm、身部幅1.4cmを測る。

通路からは、土師器1点が出土した。2は土師器高坏である。脚柱状部のみ残存している。やや内傾気味に立ち上がる。外面はかなり摩滅しており、調整痕を確認し難い。内面は板ナデで坏部との接合の際の支持土の塊が確認できる。内外面とも黒斑が見える。

6　16号墓

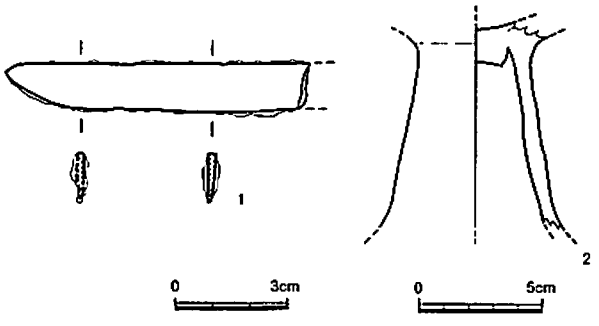
遺構（図版16、17）

15号墓の北側に位置する。直下に湧水地があるうえに崖の中腹に立地しているため、内部の確認も容易ではなかった。主軸方向は不明だが、東南東に開口している。第1節で述べたように15号墓以上に危険な状態であったので、全面調査は実施していない。中央にトレンチを入れて状況確認を行い、写真撮影と簡単な計測を行った。

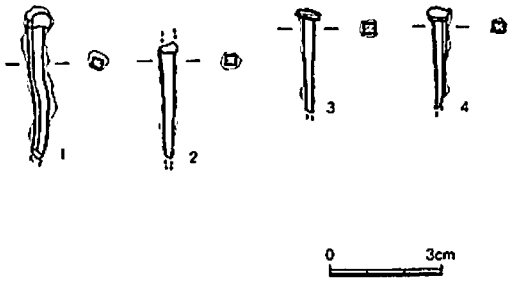
羨門部は、上面にツルハシとおぼしき工具痕が見られる他、左側にも掘り込んだような痕跡があったことから原形を留めていないと判断した。

玄室は、奥壁幅190cm、前壁幅280cm、奥行270cm、高さ180cmを測り、平面プランは台形を呈する。外部から流入した崖の崩落土が大量に堆積しており、床面の状況は不明である。トレンチ内の様子からコの字形の屍床配置で15号墓同様、屍床は少なからず削平されていると推測される。側壁には、20～30cm四方の棚状の掘り込みが複数確認された。また壁面には、玄室を巡るように横方向に走る筋のような線が見られた。詳細な調査はできなかったが、断続的に巡っている印象を受けた。工具痕か岩盤に自然に見られる節理状のものと考えられる。通路は、傾斜はなくほぼ平坦である。

天井部は、部分的に崩落しているが、ドーム形を呈している。軒先線は確認できなかった。



第13図　15号墓出土遺物実測図



第14図　16号墓出土遺物実測図

遺物（第 14 図・図版 31）

トレンチ内から土師器、須恵器、陶磁器片、砥石、古銭、銑剣の他に鉄釘 4 点が出土した。鉄釘以外は、中世以降の所産と考えられる。

1～4 は、鉄釘である。1 は先端が欠損している。残存長 4.05cm を測る。断面は 0.4 × 0.3cm で方形を呈する。頭部は錆のため形状は定かではない。2 は、棒状の鉄器で鉄釘と考えられるが、鉄鏃の茎部の可能性もある。残存長 3.1cm を測る。断面は 0.3 × 0.3cm で方形を呈する。3 は先端が欠損している。残存長 2.8cm を測る。断面は 0.3 × 0.3cm で方形を呈する。頭部は、台形又は半円形を呈し、0.65 × 0.4cm を測る。4 も先端が欠損しており残存長 2.75cm を測る。断面は 0.3 × 0.25cm で方形を呈する。頭部は長方形を呈し、0.6 × 0.35cm を測る。

7　17 号墓

遺構（第 15 図・図版 18、19）

16 号墓の北側、遊水地の真横に位置する。目前に水が溜まっているわけではないが、羨道部検出のため掘り下げたところ地表下 30cm くらいで湧水したため、玄室内の調査に専念した。主軸方向は N96° W で東に開口している。

羨道部は、長さ 74cm を測る。完全に掘削できていないのでその全容は定かではないが、崖面に沿って急激に落ち込んでいると推測される。

羨門部は、幅 56cm、奥行 80cm、高さ 120cm を測る。外面には飾縁が施されている。13 号墓と異なり、上面の一部が欠損しているが全体を確認できる。

玄室は、奥壁幅 200cm、前壁幅 245cm、奥行 283cm、高さ 193cm を測り、平面プランは、長方形あるいは台形を呈する。屍床は奥屍床と左右屍床をコの字形に配置する。左右屍のうち左屍床仕切りはほとんど削平され、右屍床仕切りは東半分が失われている。奥屍床仕切りには排水用の切り込みが入っている。12 号墓で確認したものに比べ屍床面に達するほど深くなっており、より実用的な作りになっている。右屍床仕切りの凹みが同様の切り込みか、単なる欠損かは判然としない。通路は幅 45 ～ 50cm で羨門に向かってやや傾斜している。14 号墓と同様に奥屍床手前には 20cm 程の段がついている。

天井部は、部分的に崩落しているが、ドーム形を呈している。軒先線は確認できなかった。

玄室プランや通路の段等のように、構造的には 14 号墓と類似した要素が見られる。

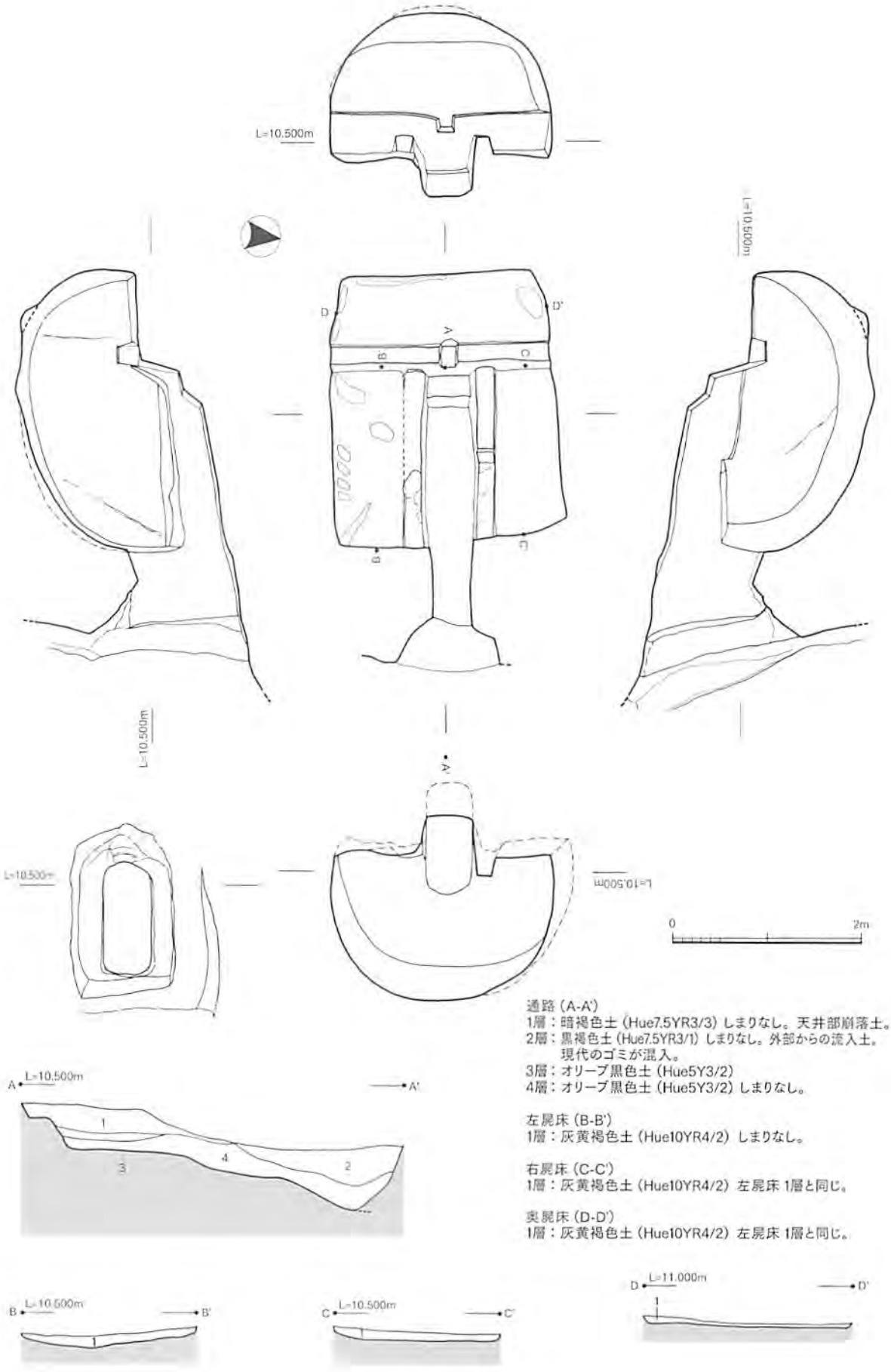
遺物（第 16 ～ 18 図・図版 32）

土師器、須恵器、陶磁器片の他に鉄鏃 4 点、馬具 1 点、耳環 1 点、小玉 24 点が出土した。土師器、須恵器、陶磁器片は細片のため図示していない。他に器種不明の鉄製品が多数出土しているが、図示したもの以外は、小破片が大半である。

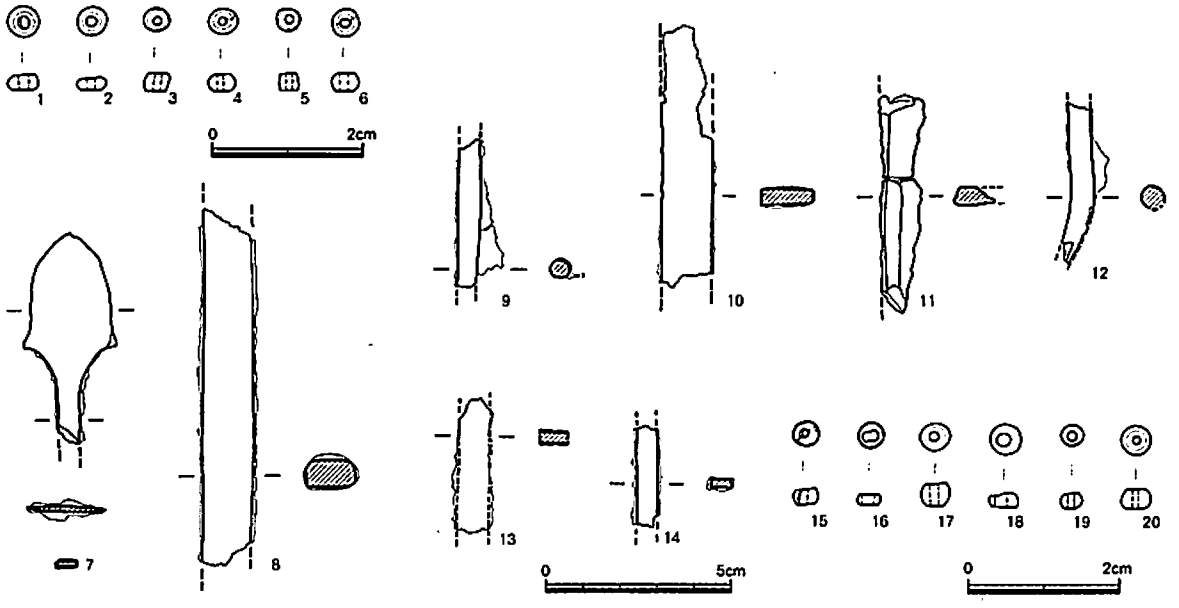
右屍床からは、小玉 6 点が出土した。すべてガラス製で色調は、緑 5 点、黄 1 点である。亀裂や破損が目立つ。6 は、全面に土が癒着しており、一見してもガラス小玉とは判別し難い。

左屍床からは、鉄鏃 1 点、不明鉄製品 7 点、小玉 6 点が出土した。

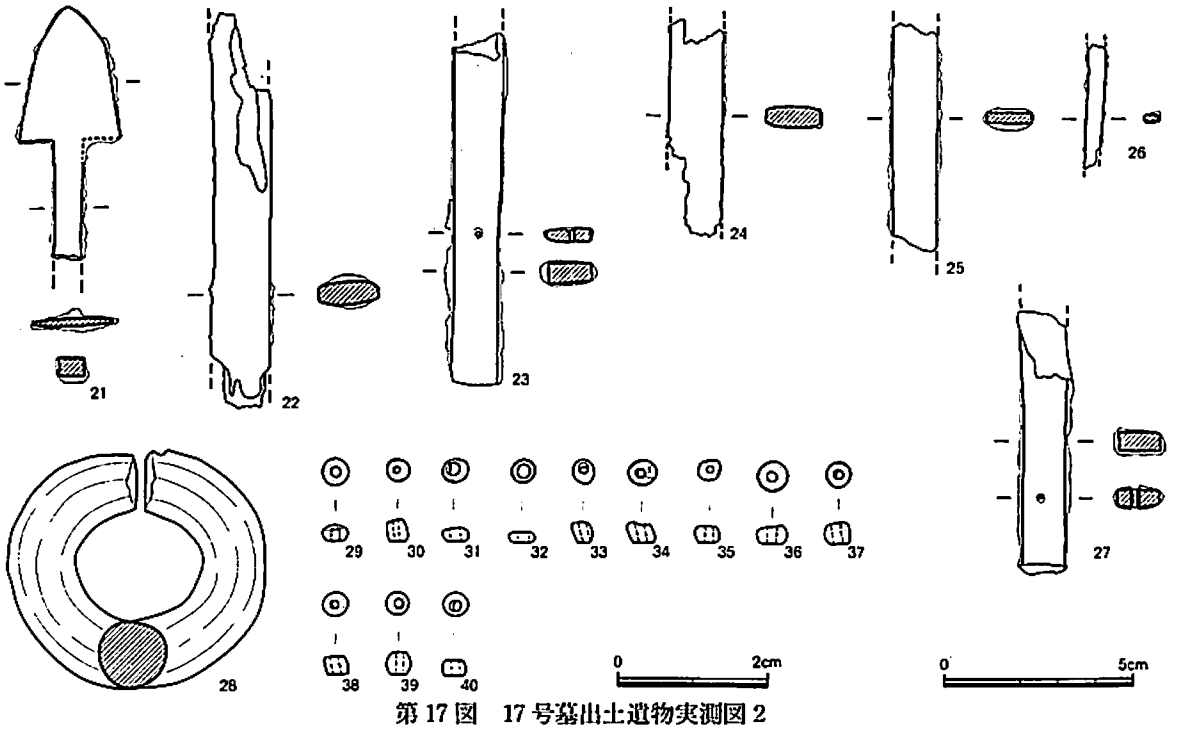
7 は三角形鏃である。身部の大半と頭部の一部が残存している。残存長 5.5cm、身部長 3.0cm、残存頭部長 2.5cm、残存幅 2.4cm を測る。身部は、やや丸みを帯びているが将棋の駒を思わせる五角形状を呈する。8 ～ 14 は器種不明の鉄製品である。やや肉厚な短冊状のもの（8 ～ 12）と棒状のもの（13、14）がある。いずれも破片であり、全体の形状を窺わせるものはない。



第15図　17号墓実測図



第16図　17号墓出土遺物実測図1



第17図　17号墓出土遺物実測図2

第18図　17号墓出土遺物実測図3

小玉は、すべてガラス製で色調は、紺2点、緑3点、黄1点である。16は穿孔を2回行ったのかやや歪な孔になっている。

通路からは、多数の鉄器が出土したが図示できたのは、鉄鏃1点、不明鉄製品6点である。他に耳環1点、小玉12点も出土した。

21は広根系の三角形鏃である。身部と頸部の一部が残存している。残存長6.7cm、身部長3.6cm、残存頸部長3.1cm、身部幅2.8cmを測る。頸部断面は長方形を呈し、刃部は両刃に造り出している。22～27は器種不明の鉄製品である。大きさや形状は、左屍床出土の鉄製品と類似した特徴を持つ。23や27のように穿孔したものもある。26は鉄鏃の茎部かもしれない。

28は耳環である。かなり表面が剥離しているが、残存部から金環と判別できる。縦3.15cm、横3.4cm、断面径0.95cmを測る。重量は32.5gである。本横穴群出土の耳環としては最も重い。

小玉は、すべてガラス製で色調は、緑7点、黄5点である。

羨道部に相当する墓前客土からは、ふるい掛けにより鉄鏃2点、馬具1点、鉄製品1点が出土した。いずれも破片である。

41は鉄鏃の茎部の一部と考えられる。残存長2.3cm、残存幅0.27cmを測る。42も鉄鏃の茎部の一部であろう。残存長3.8cm、残存幅0.4cmを測る。43は鉸具の一部と考えられる。破片であるため詳細は定かではない。残存長3.4cm、残存幅3.6cm、断面径0.45×0.55cmを測る。44は器種不明の鉄製品である。残存長3.95cm、幅1.4cmを測る。左屍床や通路で出土している器種不明の鉄製品の一部の可能性もある。

8　18号墓

遺構（第19図・図版20）

21号墓の北側に位置する。民家の裏にあり、庭の客土に埋没して天井部の一部のみ露出していた。掘削すると地表下80cmくらいから玄室の床面が検出された。調査区の制約上、玄室相当部分しか調査できなかった。主軸方向は、N84°Wで東に開口していたと推測される。

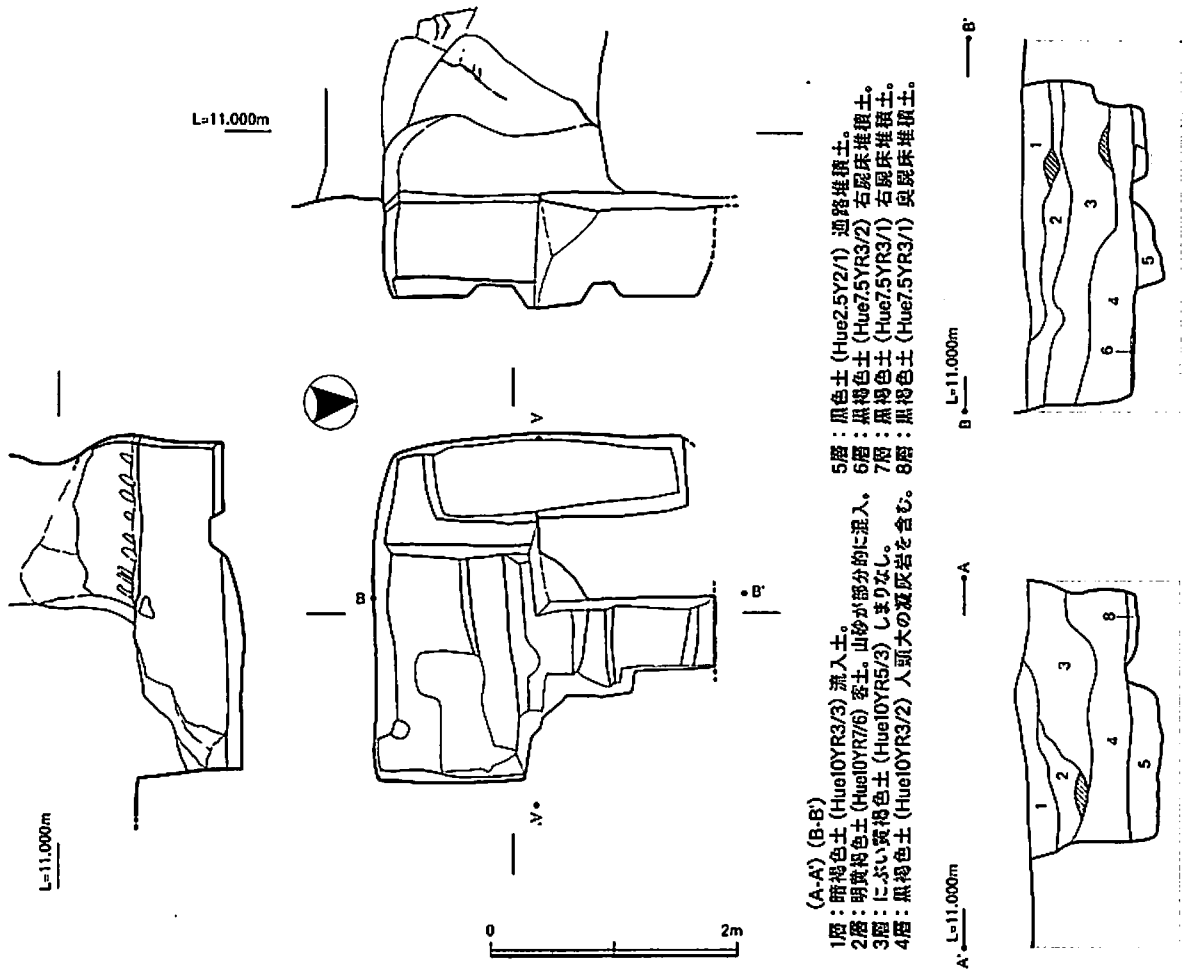
玄室は、残存幅258cm、残存奥行264cm、残存高さ110cmを測る。平面プランは、台形か長方形を呈すると考えられるが、詳細は不明である。屍床は奥屍床と左右屍床をコの字形に配置していたようだが、地山である凝灰岩が風化しており、検出した屍床仕切りや床面が本来のラインかどうかはっきりしない。壁面で残っているのは、奥壁と左側壁の西側のみである。通路は、幅40cmだが未調査の部分が多いためそれ以上のことは分からない。

天井部は、当初から露出していた部分のみ残存している。形態は不明である。奥壁と左側壁に軒先線らしき段が見られたが、1号墓や12号墓のそれに比べて粗雑な感がある。

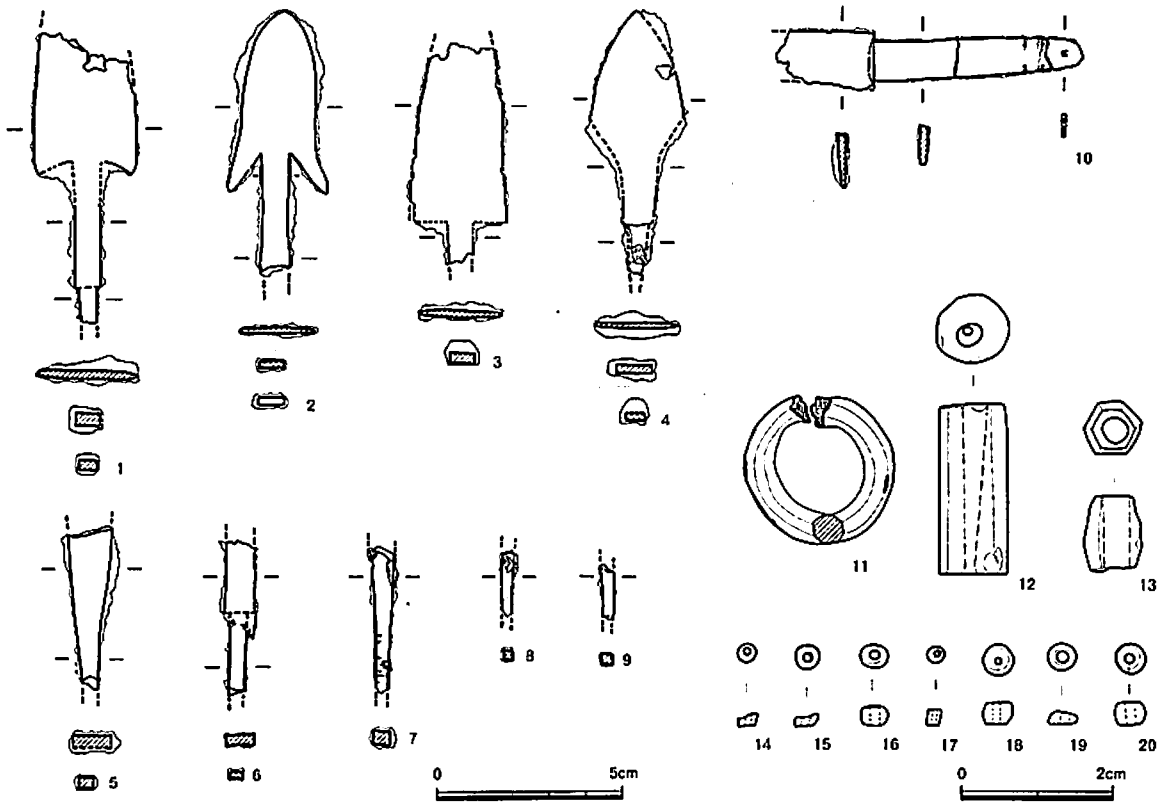
遺物（第20図・図版33）

土師器、須恵器片の他に鉄鏃9点、刀子1点、耳環1点、管玉1点、切子玉1点、小玉7点が出土した。大半は、崩落土中より出土したものである。

1は腸抉三角形鏃である。身部の1/2と頸部、及び茎部の一部が残存している。残存長7.65cm、残存身部長3.75cm、頸部長3.3cm、身部幅2.8cmを測る。身部の錆ではっきりしないが、X線写真によりわずかに逆刺が入っていることが確認された。関部は角関である。2も腸抉三角形鏃である。逆刺がより明瞭になっている。身部と頸部の大半が残存している。残存長7.0cm、身部長4.8cm、残存頸部長3.2cm、身部幅2.7cmを測る。錆が進行しており、頸部の一部が空洞化している。3は三角形鏃である。身部の大半と頸部の一部が残存している。残存長5.8cm、残存身部長4.85cm、身部幅2.6cmを測る。身部は、面長な長三角形を呈すると考えられるが先端を欠損しているため、詳細な形状は定かではない。錆の進行が進んでいる。4も三角形鏃である。茎部の一部を欠損している。残存長6.9cm、身部長2.8cm、頸部長2.8cm、残存茎部長1.4cm、身部幅2.6cmを測る。身部には錆が厚く付着しており、やや形状が不明瞭である。茎部には矢柄の木質が残っている。5は片刃鏃か。身部から頸部にかけての一部が残存していると考えられる。残存長4.3cm、残存幅



第19図　18号墓実測図



第20図　18号墓出土遺物実測図

0.9cmを測る。あるいは刀子の身部になるかもしれないがここでは鏃としておきたい。6は鏃の一部である。残存長4.05cm、残存幅0.9cmを測る。頸部から茎部にかけての一部である。茎部には木質が残っている。7～9はいずれも鏃の一部と考えられる。7は残存長3.9cm、残存幅0.5cm、8は残存長1.72cm、残存幅0.35cm、9は残存長1.45cm、残存幅0.35cmをそれぞれ測る。7と8には表面に木質が残っている。10は刀子である。身部の大半が欠損している。残存長8.15cm、残存身部長2.65cm、茎部長5.5cm、残存身部幅1.5cmを測る。茎部には有機質の物体が巻かれていた痕跡があり、端部には径1.5mm程度の穿孔が1ヶ所確認できる。

11は耳環である。縦2.0cm、横2.0cm、断面径0.4cmを測る。重量は4.45gである。端部は表面の金が剥離しているがそれ以外は概ねよく残っている。

玉類については、管玉は碧玉と考えられるが他はガラス製である。ただ赤色を呈する小玉（14、15）はややガラス質とは異なる印象を受ける。色調は、管玉では深緑、切子玉では水、小玉では水1点、赤2点、黄4点である。切子玉は、6角形にカットされているが器面の風化・摩滅によって明瞭さを欠く。本横穴群唯一の出土例である。

9　19号墓

遺構（第21図・図版21、22）

18号墓の北側に位置する。これまで数m程度の間隔で見られた横穴墓がここにきて10m以上離れて立地している。もっとも18号墓と19号墓の間には防空壕跡の横穴が複数掘り込まれており、防空壕造営に伴って消滅した可能性も否めない。崖面中腹にあり、羨門部より手前は残存していない。主軸方向は、N39°Wで南東に開口している。

羨門部は、幅66cm、奥行58cm、高さ100cmを測る。羨門の周りには、羨道か飾縁らしきラインが残っているが、部位の特定や計測には至らない。左側を欠損しているが概ね原形を留めている。

玄室は、奥壁幅166cm、前壁幅214cm、奥行246cm、高さ145cmを測り、平面プランは台形を呈する。屍床は、完全に削平されているが、残存状況から判断すると他横穴墓と同様に奥屍床と左右屍床をコの字形に配置していたと推測される。通路は幅30～40cmで羨門に向かってやや傾斜している。

天井部は、やや平らな蒲鉾形を呈している。軒先線は見られない。

玄室規模は、本横穴群の中で小さい部類に入る。

遺物（第22図・図版34）

須恵器片が数点出土したのみである。いずれも甕の胴部とおぼしきものである。また、古銭も1点出土したが、後世の文物であることは明らかである。

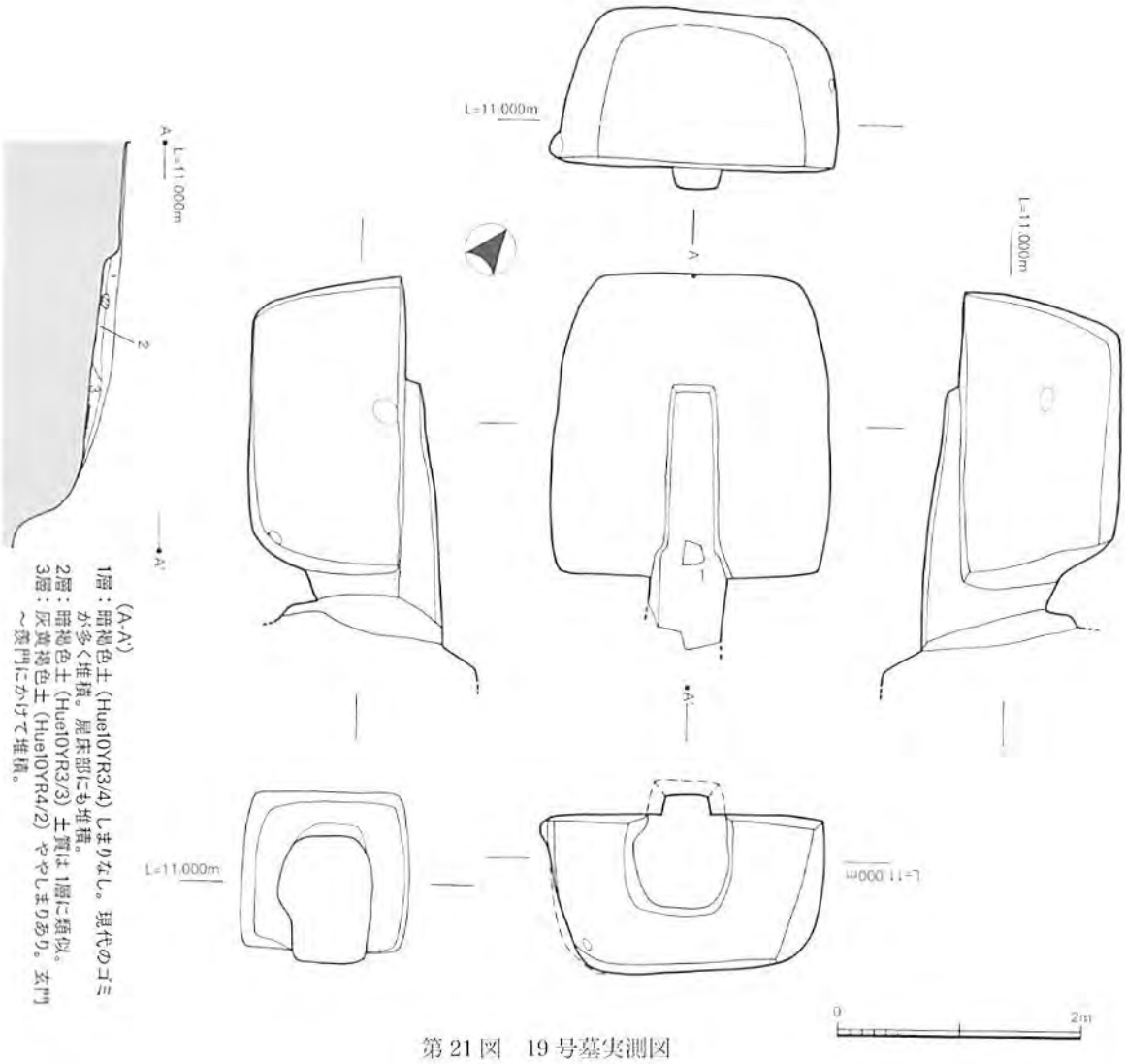
1は須恵器甕である。胴部下半部の一部のみ残存している。外面は平行条線タタキ（擬格子状）、内面は同心円当て具痕が確認できる。内外面とも黄灰色を呈し、焼成は良好である。

10　20号墓

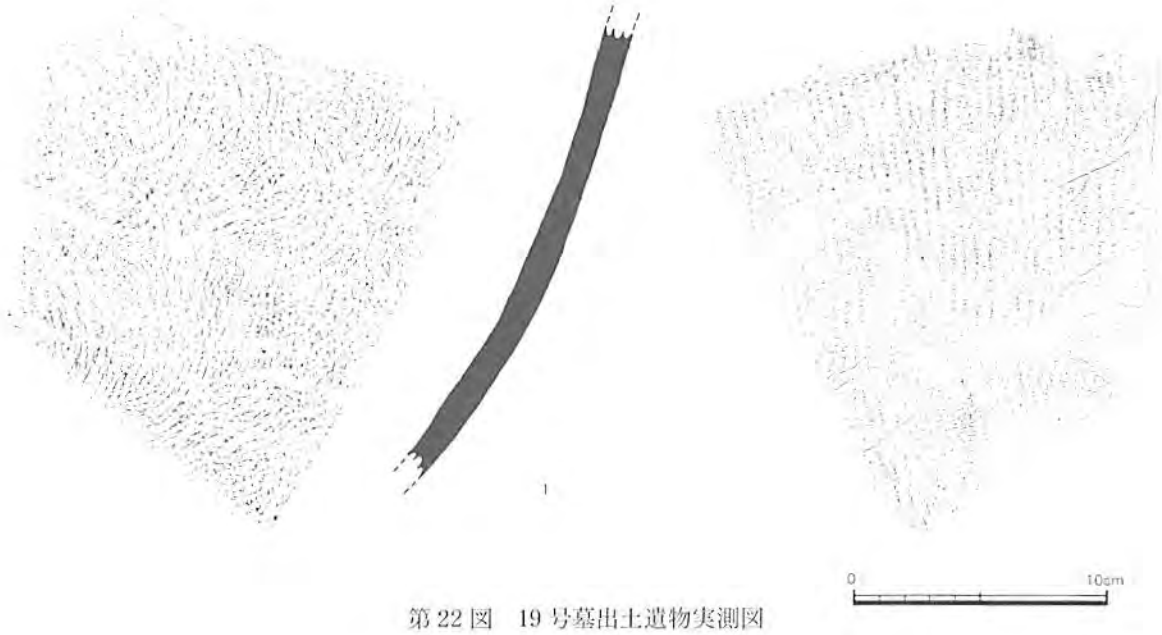
遺構（第23図・図版23、24）

19号墓の北側、調査区北端に位置する。19号墓と共に民家の真裏にあるうえに羨門部前方はコンクリートで固められており、玄室以外の調査はできなかった。主軸方向は、N29°Wで南南東に開口している。

羨門部は、幅60cm、奥行43cm、高さ115cmを測る。外面には飾縁が施されている。上部には方形の段が掘り込まれているが、痕跡を見る限り築造時のものではなく後世の改変によるものと考えられる。



第21図　19号墓実測図



第22図　19号墓出土遺物実測図

玄室は、奥壁幅117cm、前壁幅162cm、奥行204cm、残存高さ150cmを測り、平面プランは、台形を呈する。13号墓以上に内部は削平されており、通路の痕跡さえ確認できないほど平坦にされていた。床面には、粘質の強い土が堆積していたが、こうした土は本横穴群では他に類を見ない。12号墓や13号墓にように倉庫として転用しているものもあるので、意図的に敷き詰めた可能性もある。奥壁及び側壁には、現床面から65cm程のところに切り込みのような作り出した面の痕跡が確認された。高さはほぼ揃っており、位置的に見て奥屍床の名残ではないかと推測される。

天井部は、19号墓同様、やや平らな蒲鉾形を呈している。軒先線は見られない。

19号墓をさらに一回り小さくした大きさで、本横穴群最小である。

遺物（第23図・図版35）

土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器片の他に馬具1点が出土している。出土状況から横穴に伴うものはほとんどないと推測される。

1は鉸具の一部と考えられる。全長4.9cm、幅0.85cmを測る。かなり錆が進行しており、一部内部が空洞化している。

11　21号墓

遺構（第24図・図版25）

17号墓と18号墓の間に位置する。調査終盤に発見して「21号墓」と命名、調査に入った経緯がある。18号墓以上に残存状況が悪く、原形を留める部分を見出すのが困難なほどであった。天井部と壁面の大半と玄室前壁より手前を失っていた。主軸も判然としないが、残存部よりN118°W、東に開口していたと推測される。

玄室は、幅205cm、残存奥行190cm、残存高さ130cmを測る。平面プランは、台形か長方形を呈すると考えられるが、詳細は不明である。地山の風化によって本来の遺構面を検出することが困難であったが、奥屍床と右屍床の存在を確認できた。また左屍床も明確な仕切りは検出できなかったが、屍床面らしき平坦な部分を玄室左側で検出したので本来は、他の横穴墓同様、コの字形に配置されていたと推測される。通路もあったようだが、幅や長さは判然としなかった。

天井部は、残存していないため形態は不明である。

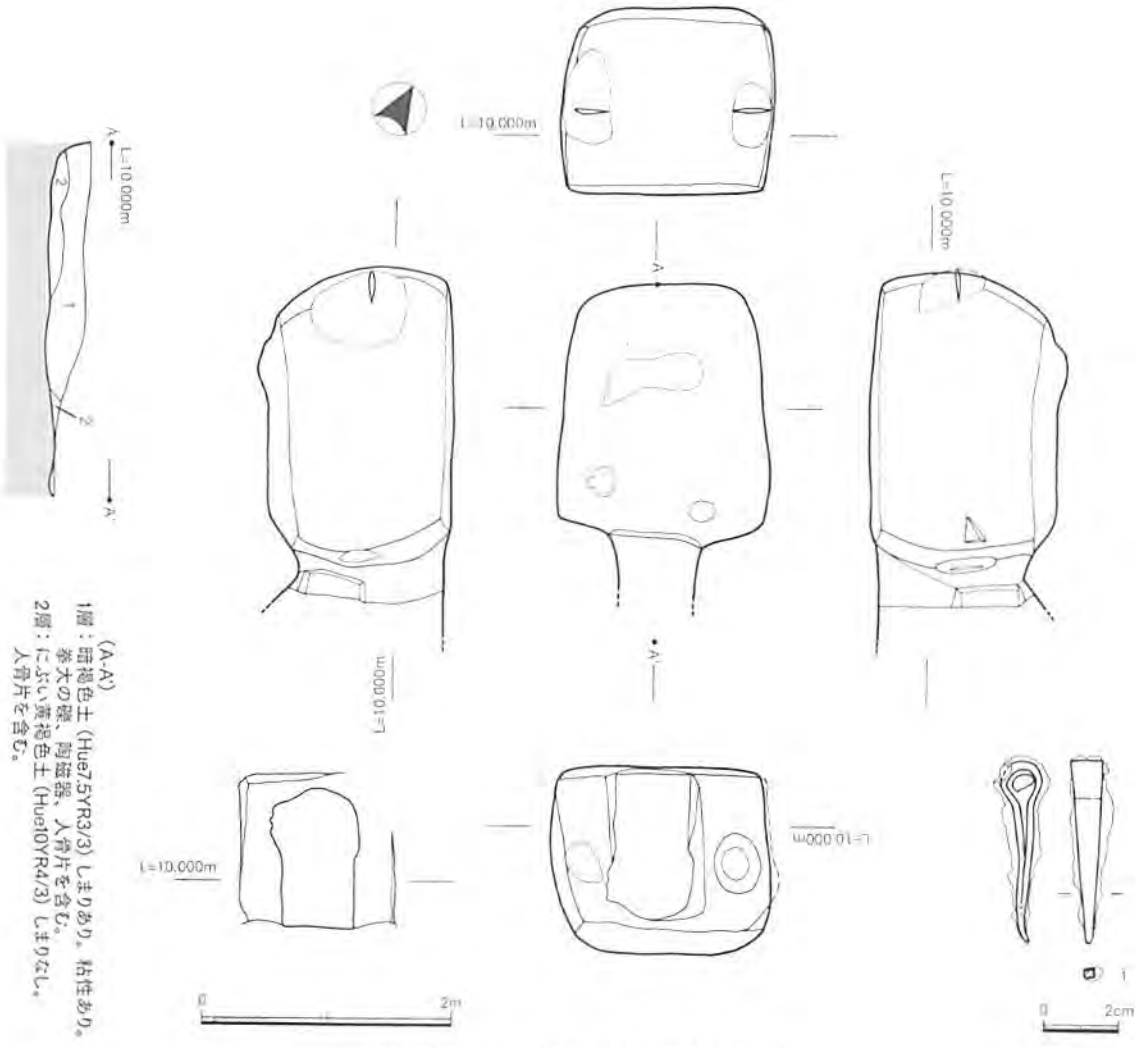
遺物（第25図・図版35）

遺構確認のためのトレンチより鉄鏃1点、刀子1点、鉄鏃1点、刀子1点、管玉2点、算盤玉1点、丸玉1点、小玉35点が出土している。遺構の残り具合に反して、床面付近から玉類を始めとして遺物が多く出土している。

なお、18号墓との間の客土を掘削中に出土した須恵器については、「12　その他」で取り扱う。

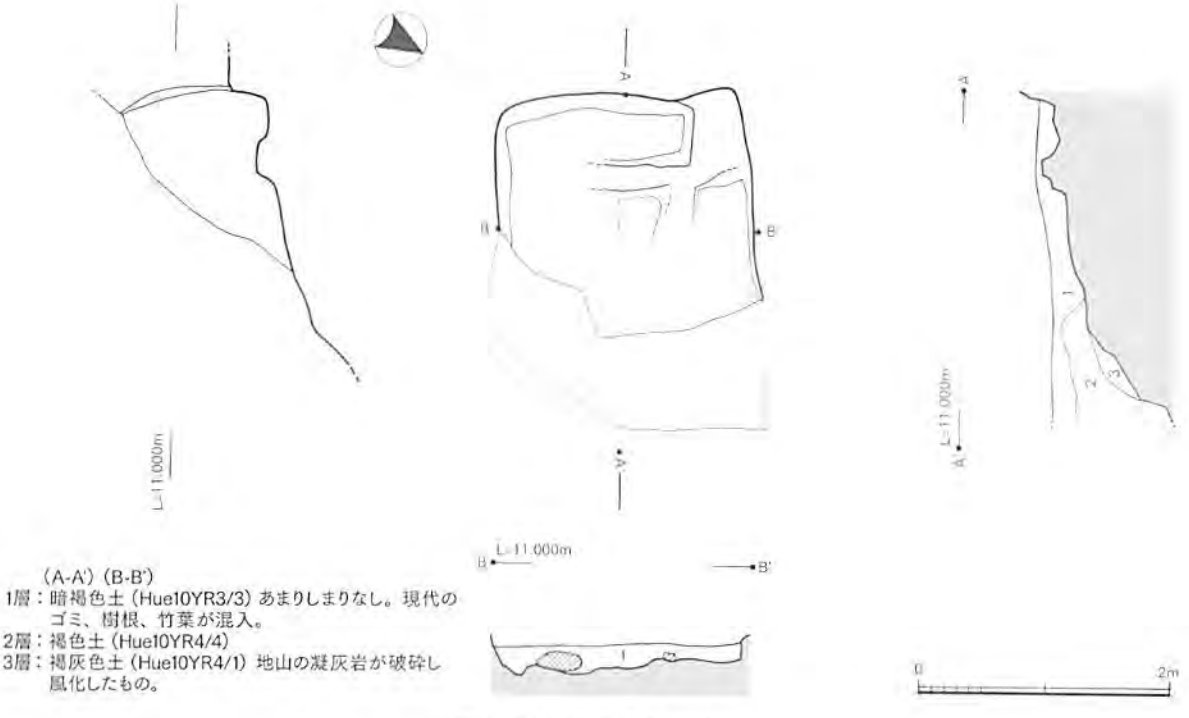
1は三角形鏃である。茎部の一部を欠損している。残存長7.0cm、身部長3.0cm、身部幅2.9cm、頸部長2.7cm、残存茎部長1.0cmを測る。身部はやや面長ながら均整のとれた三角形を呈する。茎部には矢柄とそれを巻きつけた樹皮状の有機物が残っている。2は刀子である。身部の途中から破損したのであろうか、身部の一部のみ残存している。残存長4.9cm、身部幅1.6cmを測る。

玉類については、管玉は碧玉、算盤玉は水晶製と考えられるが他はガラス製である。色調は、管玉では深緑2、算盤玉では透明、丸玉では紺、小玉では青黒1点、紺4点、青9点、緑3点、水17点、黄1点である。



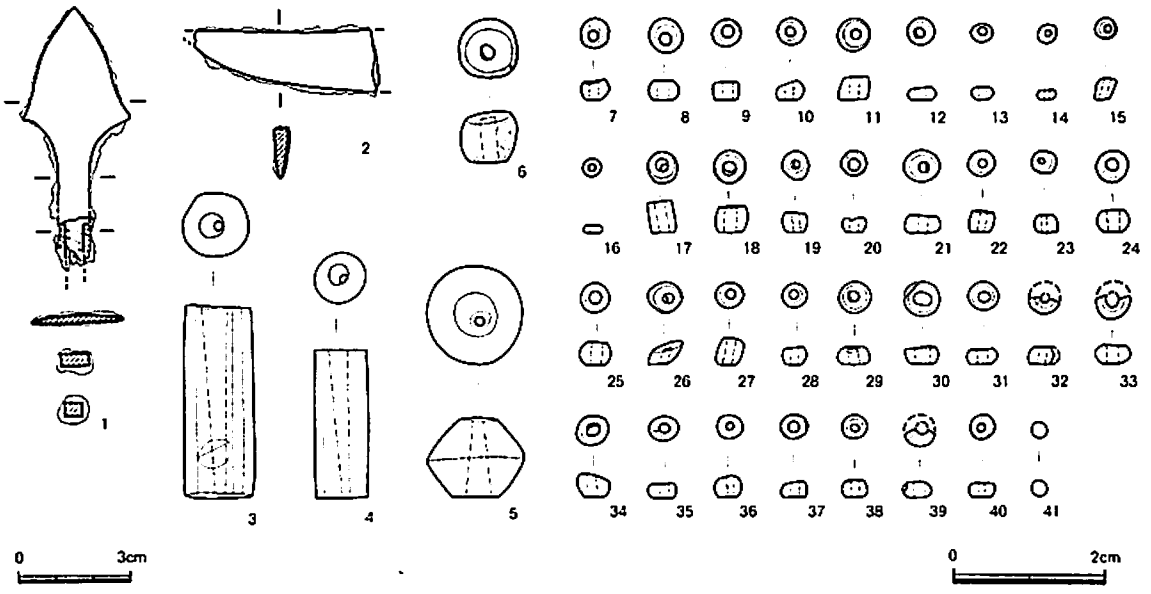
（A-A'）
1層：暗褐色土（Hue7.5YR3/3）しまりあり。粘性あり。巻大の礫、陶器器、人骨片を含む。
2層：にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）しまりなし。人骨片を含む。

第23図　20号墓及び出土遺物実測図



（A-A'）（B-B'）
1層：暗褐色土（Hue10YR3/3）あまりしまりなし。現代のゴミ、樹根、竹葉が混入。
2層：褐色土（Hue10YR4/4）
3層：褐灰色土（Hue10YR4/1）地山の凝灰岩が破砕し風化したもの。

第24図　21号墓実測図



第25図　21号墓出土遺物実測図

12　その他（第26～28図・図版37）

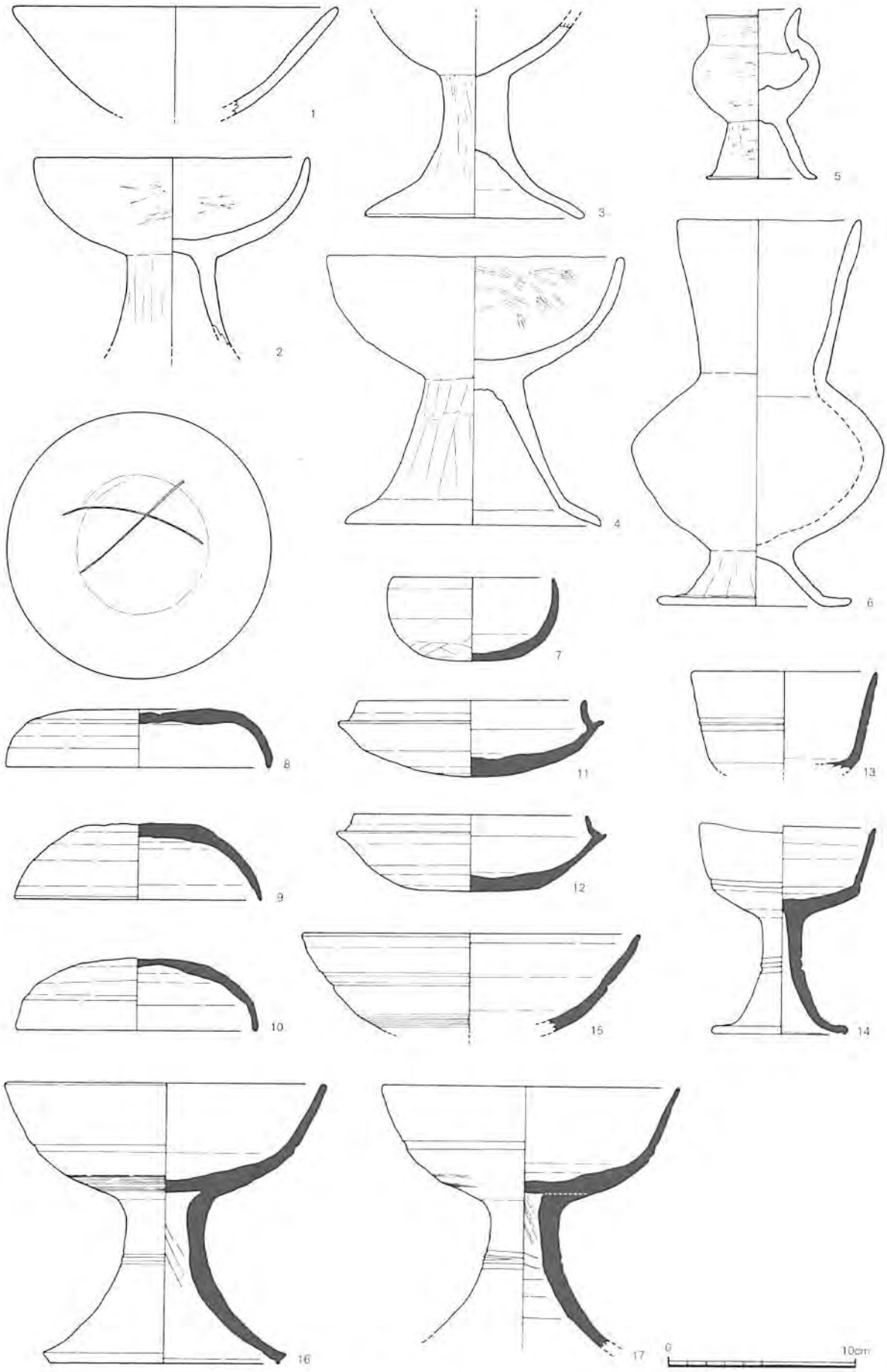
第2節で述べたように遺構自体は検出できなかったが、その存在を窺わせるような遺物が工事現場から出土している。ここでは、主にそれらについて取り上げていく。

出土したのは、調査当時に施工していた擁壁工事部分からである。遺物を確認した時点で既に掘削作業は終了しており、出土状況の記録には至らなかった。しかし、発見した工事関係者の話によれば、特に擁壁工事部分の北端で多く出土したとのことである。そこは、ちょうど9号墓から11号墓にかけての前方部に位置し、前庭部か墓道に相当する部分でもある。網コンテナ約3箱分の土師器、須恵器がここから出土しており、墓前祭祀に用いられた土器群の可能性が高い。ここでは、残りのよいものと特徴的なものを図示している。紙面の都合上、概略のみだが法量等については巻末の観察表を参照されたい。

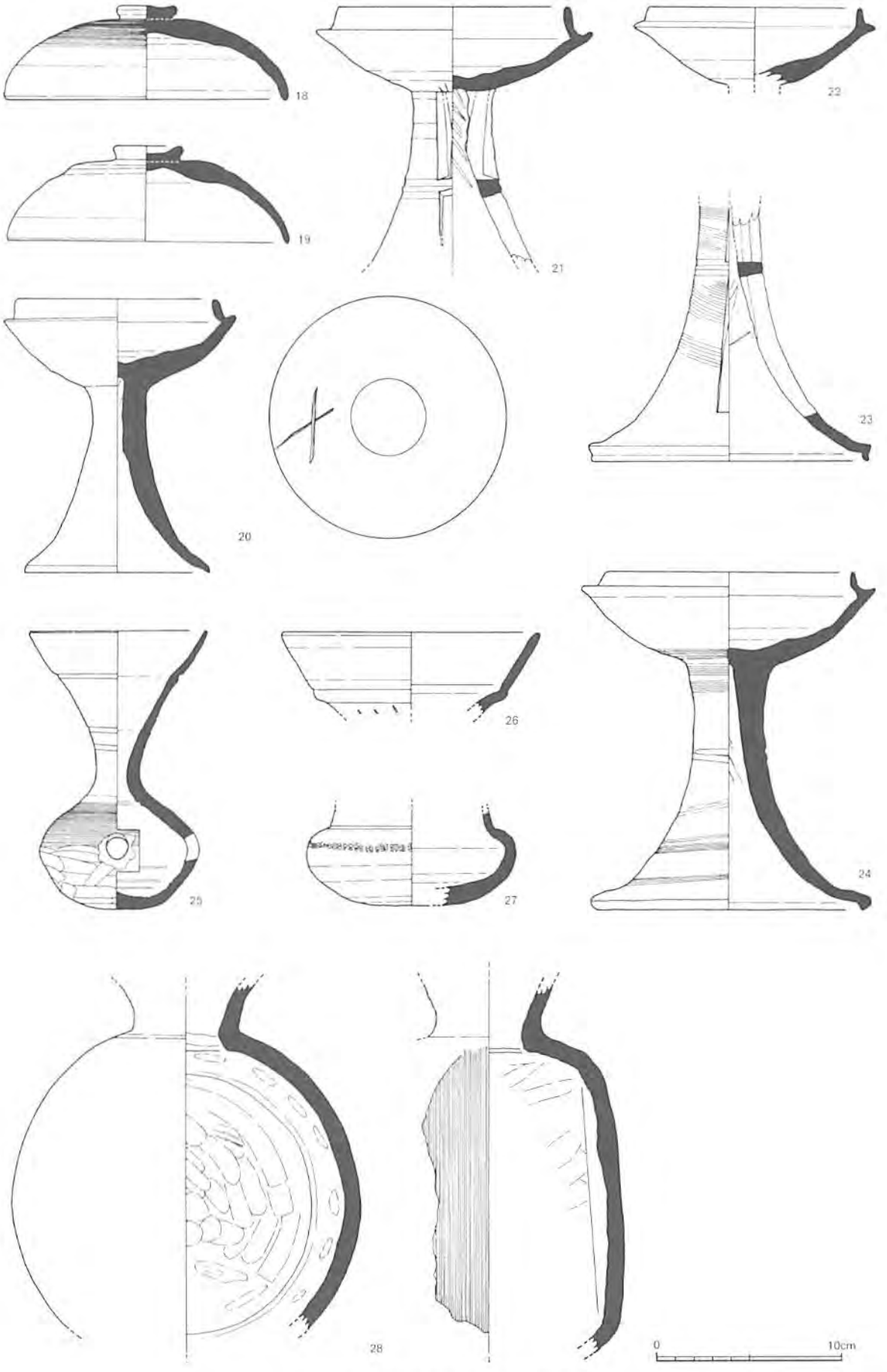
出土したのは、土師器（1～6）と須恵器（7～31）である。点数としては須恵器が多数を占める。

土師器は、高坏（1～4）、壷（5・6）といった供献用のものが出土している。1・3以外は、器面に赤色顔料が塗布されているのが確認できた。高坏は、坏部が丸底なものが目立つが、1のような口縁が外反するタイプもある。壷は大小2点あるが、どちらも外面を赤彩し、丁寧に磨き上げている。

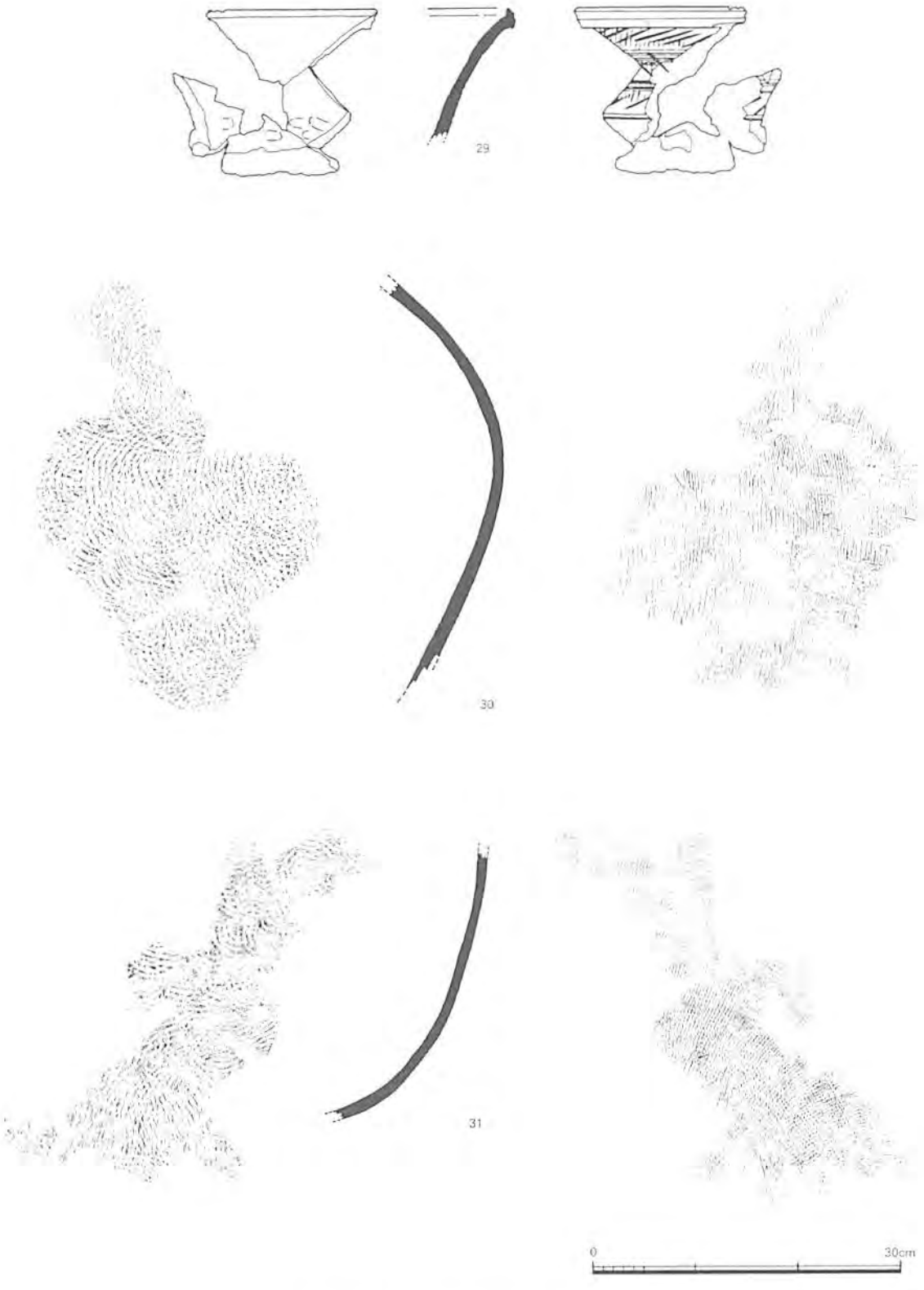
須恵器は、椀（7）、蓋坏（8～12）、高坏（13～24）、甕（25・26）、壷（27）提瓶（28）、甕（29～31）が出土している。蓋坏は、蓋（8～10）と坏（11・12）とがあるが、8には天井部外面にヘラ記号が刻まれている。また11は、有蓋高坏の蓋（18）とセットで出土している。高坏は、無蓋高坏（13～17）と有蓋高坏（18～24）とがあり、うち蓋は2点（18・19）である。無蓋高坏では、14以外は所謂「赤焼け土器」である。有蓋高坏では、長脚2段透かしがあるもの（21・23）とないもの（20・24）が見られるが、残存状況が芳しくないため、透かし孔の形状等は定かではない。20は、坏部外面にヘラ記号がある。甕は、全体の形状が分かるものは25のみで、文様は入っていない。26は、口縁部のみ残存しており、わずかにヘラ描き斜行文が確認できる。壷は、27のみで短頸壷と推測されるが、詳細は定かではない。胴部外面に刺突文が入る。提瓶は、同じく1点のみ（28）で口縁部や胴部がかなり欠損している。甕は、口縁部（29）と胴部（30・31）を掲載した。29は、1・2条の沈線で文様帯を形成して、ヘラ描きの斜行文を各段方向を変えながら刻んで



第 26 図　調査区外出土遺物実測図 1



第27図　調査区外出土遺物実測図2



第28図　調査区外出土遺物実測図3

いる。胴部については、平行文タタキを基調としながら部位によって周りと異なる調整を施している(30：肩部に周りより細い溝幅の平行タタキ。31：底部に格子状タタキ)。

第4節　その他の時代の調査成果

1　横穴墓内出土遺物（第29図・図版36）

横穴墓内から出土した遺物で古墳時代以外の所産と考えられるものの中から特徴的なものを取り上げたい。紙面の都合上、概略のみだが法量等については巻末の観察表を参照されたい。

1は、太型蛤刃石斧である。途中で欠損しているが、刃部には使用痕も見られる。器面調整のための敲打痕が多く残る。2は砥石である。4面に使用痕が残る。

3～6は、土師器で皿（3・4）と坏（5・6）である。皿は口径8.9cm前後、器高1.1～2.2cmを測り、底部にはヘラ切り痕が残る。坏は口径11.8～13.5cm、器高3.2cm前後を測り、底部には糸切り痕が残る。

7は、白磁椀の破片である。発色にややムラがある。

8・9は、瓦質土器の羽釜である。どちらも内外面は丁寧にナデ調整を施す。8は口縁から体部の破片のみだが、9は全体の約1／2残存している。体部に菊花文が押印されている。

10・11は、当初鉄刀と考えていたが、観察した結果、その形状から旧日本陸軍で使用されていた「三十年式銃剣」と判断した。本来の剣身長は40cmあったそうだが、2本ともその5～6割程度残存している。彫溝も比較的よく残っているが、反対側は錆で覆われよく見えない。

12～14は、いずれも寛永通宝である。初鋳年代は1626年である。今回の調査では計6枚の古銭が出土したが、掲載できたのは3枚のみである。

2　防空壕跡（図版26）

本横穴群が所在する下益城郡城南町には、かつて旧日本陸軍の飛行場（隈庄飛行場）があったことから軍関係の施設が多く建設された。その多くは、解体・撤去されており、当時の様子を窺い知ることは困難になっている。

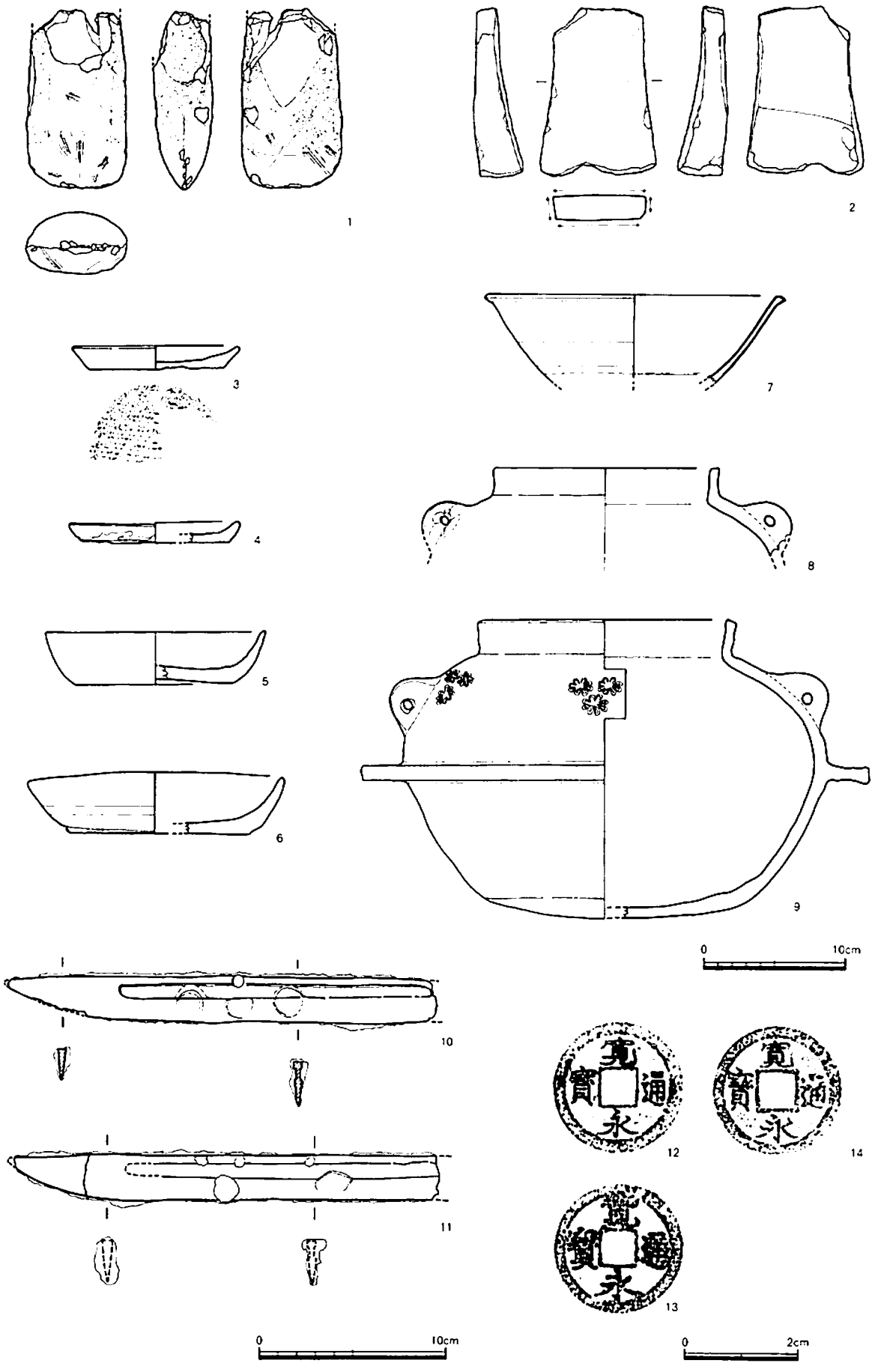
そうした中で本横穴群内にある防空壕跡は、城南町に現存する数少ない戦争遺跡と言える。残念ながら諸般の事情により詳細な調査には至らなかったが、以下に概要をまとめたのでこれをもって報告としたい。

確認した防空壕跡は、21号墓から19号墓の間に位置している。当初4基と考えられたが内部で連結しており、実は1基であることが判明した。民家の真裏にあるため物置として長年使用されていたらしく、内部は雑然と物が置かれており、足の踏み場もないほどであった。

4つある入り口は、幅290～320cm、高さ200～220cmを測り、アーチ状を呈する。北端のものがわずかに小さいが、全体としては規模も形態もほぼ同じである。直線的に300cm程掘り込んであり、そこからそれらを繋ぐように南北方向に横穴が通っている。内部も北端の穴のみやや狭いが、それ以外は幅300cm前後で統一されている。壁面には、縦方向に走る幅10cm程度の工具痕が断続的に確認できた。一見すると一定間隔で筋が入っているようにも見える。

側面には、計4箇所で対となるような窪みが見られた。床面から高さ70～90cmの所に縦10～20×横10×高さ10cmの臍穴のようなもので、南端入り口にあるものは、上下2つずつ彫られている。また同じ南端入り口右側面には、文字らしき線刻も確認できた。かすれていてすべてを判読できないが「立人○○（○は不明部分）」とも読める。もっともこれが当時の所産かどうかは定かではない。

前述のとおり、内部は物置として長い間使用されているため、当時の遺物を見つけることはできなかった。



第29図　横穴墓内出土遺物実測図

第Ⅳ章　自然科学分析

熊本県城南町飛尾横穴群出土の古墳人骨

松下孝幸*・松下真実**

【キーワード】：熊本県、古墳人骨、横穴墓、男性、大腿骨、刀創

はじめに

熊本県下益城郡城南町大字東阿高字飛尾に所在する飛尾横穴群の発掘調査が、急傾斜地崩壊対策事業に伴って2007年度（平成19年度）におこなわれ、2基の横穴墓から人骨が出土した。

筆者が調査に携わったり報告書を書いた熊本県内の古墳時代人骨については、益城町の福原横穴墓群（松下・他、1985a）、玉名市小路石棺（松下、1985b）、熊本市の古城横穴墓群（松下・他、1985c）、御幸木部遺跡群（松下、2006c）および北岡横穴群、鹿本町津袋大塚東側1号石棺（松下・他、1986a）、山鹿市湯の口横穴墓群（松下・他、1986b、1988a）と舞野遺跡（松下・他、1989c）、七城町瀬戸口横穴墓（松下・他、1989a）、中央町四十八塚5号墳（松下・他、1989b）、宇土市西潤野2号墳（松下・他、1992）、熊本市五丁中原遺跡群（松下、1997）、鹿央町広諏訪原遺跡（松下、2004a）、益城町城の本2号墳（松下、2006b）、合志町豊岡宮本横穴群（松下、2006a）があるが、横穴墓は盗掘を受けているものが多く、人骨の保存状態はあまりよくなかった。この中で保存状態が比較的よかったのは、津袋大塚東側1号石棺、中央町四十八塚5号墳、西潤野2号墳、豊岡宮本横穴群から出土した人骨である。このほかに、八代市清水1号古墳（内藤・他、1980）、城南町丸尾5号墳（内藤、1975）からも古墳人骨が出土しているが、保存状態はよくない。

一般的に熊本県内の横穴墓から出土する人骨の保存状態はよくない。これまで筆者らが調査に携わった横穴群で比較的保存状態がよかったのは、合志町の豊岡宮本横穴群と熊本市の北岡横穴群である。後者からは計測ができる四肢骨や埋葬姿勢がわかる人骨が出土した。

本横穴墓から出土した人骨は骨質が硬く、計測や観察に十分耐えうる資料で、古墳人骨としては貴重である。人類学的観察や計測をおこない、県内の資料と比較検討してみたので、その結果を報告しておきたい。

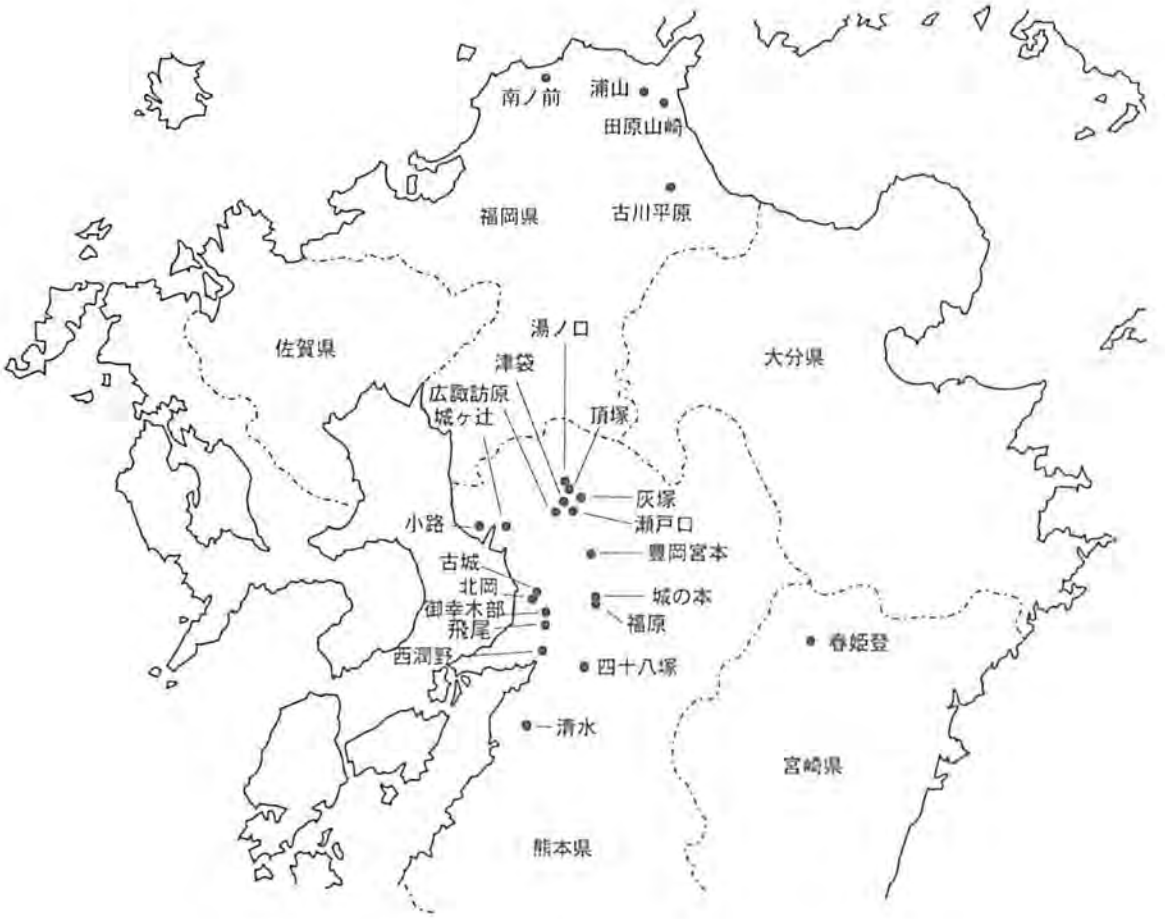
資　料

表1　出土人骨一覧（Table 1. List of skeletons）

遺構番号	人骨番号	性別	年齢	備　　考
14号墓	14-FE-1	男性	不明	右側大腿骨
19号墓	19-FE-1	男性	不明	左側大腿骨

今回の調査で人骨が検出されたのは、14号墓と19号墓の2基の横穴墓からで、それぞれ大腿骨が1本ずつ出土した。14号墓では通路の覆土から、19号墓では玄室内の清掃中に発見されたもので、いずれも埋葬状態を示していない。表1のとおり、後述している所見からこの2本の大腿骨は男性の大腿骨

* Takayuki　MATSUSHITA、** Masami　MATSUSHITA
The Doigahama Site Anthropological Museum〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕



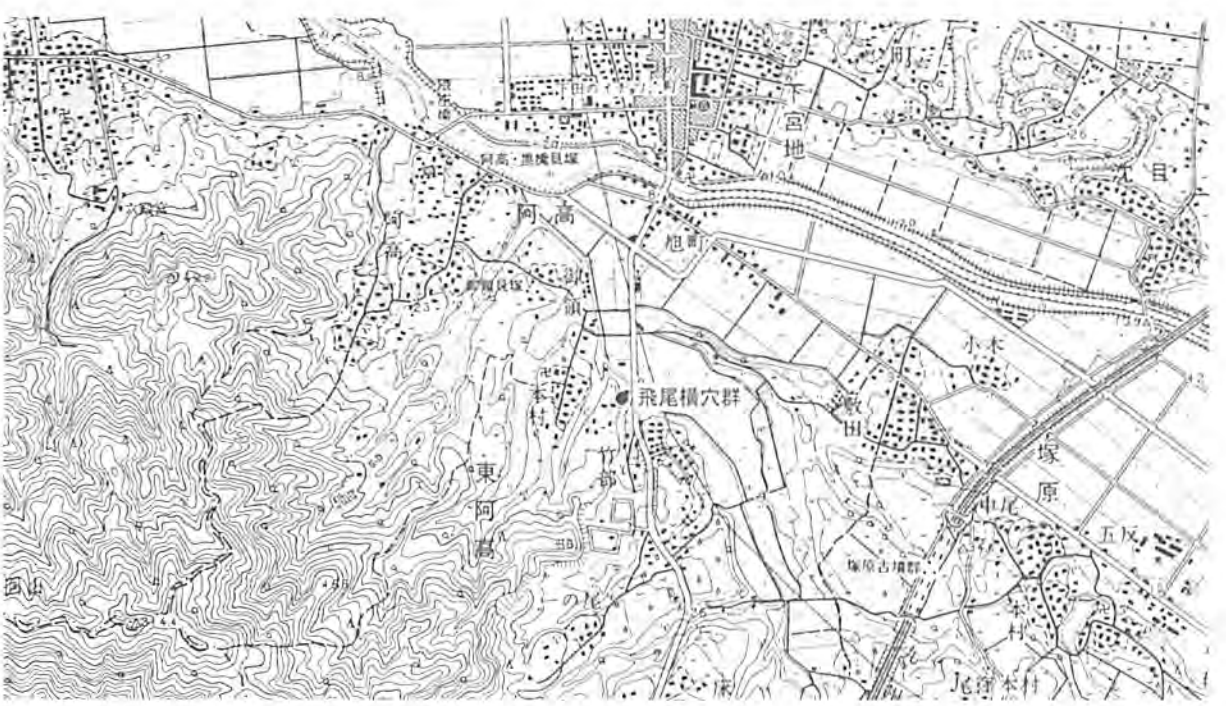


図１　遺跡の位置 (1/25,000)
(Fig.1 Location of the Tobinoo tunnel tumuli, Jonan Cho, Kumamoto Prefecture)

と思われる。年齢は推測できないが、参考までに年齢区分を表２に示した。

この２本の大腿骨は、考古学的所見より、古墳時代に属する人骨と推測されている。計測方法は、Martin-Saller(1957) によった。

表２　年齢区分　(Table 2. Division of age)

	年齢区分	年　　齢
未成人	乳児	１歳未満
	幼児	１歳～５歳　（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	６歳～15歳　（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳　（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳　(40歳未満)
	熟年	40歳～59歳　(60歳未満)
	老年	60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

所　見

各人骨の残存部は図2に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

14号墓

14号墓から検出されたのは右側大腿骨のみである。

14－FE－1（大腿骨・男性・年令不明）

長さはそれほど長くはないようである。骨体上部は扁平で、粗線の発達はきわめて悪い。

計測値は、骨体中央矢状径が28mm(右)、骨体中央横径は30mm(右)で、骨体中央断面示数は93.33(右)となり、骨体両側面の後方への発達は悪い。骨体中央周は88mm(右)で、骨体は太い。また、上骨体断面示数は70.59(右)となり、骨体上部は扁平である。

大腿骨体が太いことから、性別を男性と推測した。年令は不明である。

19号墓

１９号墓から検出されたのは左側大腿骨のみである。

19－FE－1（大腿骨・男性・年令不明）

長さはそれほど長くはないようであるが、粗線の発達は良好で、骨体両側面の後方への発達もきわめて良好である。

計測値は、骨体中央矢状径が31mm(左)、骨体中央横径は26mm(左)で、骨体中央断面示数は119.23(左)となり、粗線や骨体両側面は後方へ発達しており、柱状を呈している。骨体中央周は91mm(左)で、骨体は太い。また、上骨体断面示数は80.65(左)となり、骨体上部の扁平性は弱い。

大腿骨体の径が著しく大きく、粗線や骨体両側面の後方への発達も良好なので、性別を男性と推定した。年令は不明である。

≪利器による傷≫

外側面に刃器によるものと思われる明瞭な傷がみられる。骨体中央部の外側面に認められる傷は４ヶ所あ

る。この傷は骨体を横断する方向に線状に走っており、４条の傷跡は平行である。一番上の傷は長さ約 8mmで浅く、傷口は鋭くない。２番目の傷は長さが約７ mmと短く、傷口は浅い。３番目はもっとも傷跡が大きく、長さは約 27mmもあり、傷は粗線にまで及んでいる。断面はV字形であるが、近位部が鋭く遠位部は粗造である。これは刃がやや上方から入ったことを物語っている。４番目の傷跡は長さが約 24mmあり、これも粗線にまで達している。深さは浅く、幅も狭いが、明らかにやや上方から刃が鋭く入っている。傷が大腿部の外側にみられることから、刀などのかなりの破壊力を持った武器の使用が予想される。筆者らは、古墳人骨でこれほど鮮明な傷をこれまで見たことがない。

考　察

大腿骨の計測値を熊本県内の古墳人と比較してみた。表3 (3-1、3-2)は大腿骨の比較表である。骨体中央周は、14-FE-1が 88mm、19-FE-1は 91mmで、いずれも骨体は太い。前者は表3に掲げた 25例中大きい方から8番目に、後者は7番目に大きい。ちなみに 25例の平均値は 88.00mmとなり、この平均値も古墳人大腿骨としては大きい方に属する。骨体中央断面示数は 14-FE-1が 93.33で、この示数値は表3では、西潤野2号、福原D、古城、福原C、小路に次いで小さいが、19-FE-1では 119.23と大きく、四十八塚2号に次いで大きい。上骨体断面示数は 14-FE-1が 70.59となり、この示数値は西潤野2号、福原A、北岡 14-FE-1に次いで小さく、14-FE-1の骨体上部は扁平である。19-FE-1では 80.65となり、北岡 14-Y-02、御幸木部、四十八塚6号、津袋1号、四十八塚5号、福原Bに次いで大きな値となり、骨体上部の扁平性は弱い。

要　約

熊本県下益城郡城南町大字東阿高字飛尾(とびのお)に所在する飛尾横穴群の発掘調査がおこなわれ、2基の横穴墓から人骨が出土した。検出されたのは2本の大腿骨だけだったが、保存状態は良好で、人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 今回の調査で人骨が検出されたのは 14 号墓と 19 号墓の2基の横穴墓で、それぞれ大腿骨が1本ずつ出土した。
2. 2例とも男性大腿骨である。この大腿骨は考古学的所見から、古墳時代の大腿骨と推測されている。
3. 2例とも大腿骨体は大きい。1例は粗線と骨体両側面の発達が悪く、骨体上部が扁平である。もう1例は粗線がよく発達し、骨体両側面も後方へ伸びており、柱状を呈しているが、骨体上部の扁平性は弱い大腿骨である。長さは2例とも不明である。
4. 1例の大腿骨の外側面に刃器による傷が4ヶ所 (4条) 認められた。
5. 熊本県では、最近古墳人骨の出土例が増えるに従って、大腿骨などの四肢骨が太くて頑丈な例が目につくようになってきた。結論を出すにはまだ例数が不足しているが、これまでの資料から推測すれば、熊本県の男性古墳人は屈強だった可能性が強い。

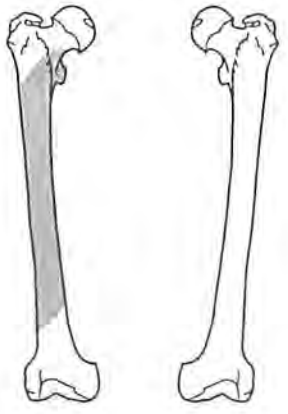
謝辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育庁文化課の皆様に感謝致します。

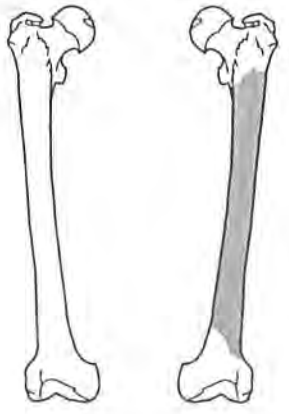
≪参考文献≫

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fischer Verlag, Stuttugart: 429-597.
2. 松下孝幸・他、1985a: 熊本県益城町福原横穴墓群出土の古墳時代人骨。福原横穴墓群 (熊本県文化財調査報告第 77集): 29-42.

3. 松下孝幸、1985b: 玉名市小路石棺出土の古墳時代人骨。滑石小路箱式石棺 ・本堂山遺跡（玉名市文化財調査報告　第6集）: 32-48,57-61.
4. 松下孝幸・他、1985c: 熊本市古城横穴墓群出土の古墳時代人骨。古城横穴墓群（熊本県文化財調査報告第74集）: 129-146.
5. 松下孝幸・他、1986a: 熊本県鹿本町津袋大塚東側1号石棺出土の古墳時代人骨。津袋大塚東側1号石棺出土人骨研究報告書（鹿本町文化財調査研究報告第2集）: 5-33.
6. 松下孝幸・他、1986b: 熊本県山鹿市湯の口横穴群出土の古墳時代人骨。湯の口横穴群菊池川中流域古墳・横穴群総合調査報告書 (1)(山鹿市立博物館調査報告書第5集）: 111-122.
7. 松下孝幸・他、1988a: 熊本県山鹿市湯の口横穴群出土の古墳時代人骨。湯の口横穴群（II）菊池川中流域古墳・横穴群総合調査報告書 (3)(山鹿市立博物館調査報告書第8集）: 53-63.
8. 松下孝幸・他、1989a: 熊本県七城町瀬戸口横穴墓出土の古墳時代人骨。北上原古墳・瀬戸口横穴墓群（熊本県文化財調査報告第 104集）: 97-107.
9. 松下孝幸・他、1989b: 熊本県下益城郡中央町四十八塚5号墳出土の古墳時代人骨。堅志他城跡・四十八塚古墳（熊本県下益城郡中央町文化財調査報告第1集）: 77-114.
10. 松下孝幸・他、1989c: 熊本県山鹿市舞野遺跡出土の古墳時代人骨。銭亀塚古墳ほか（菊池川中流域古墳・横穴群総合調査報告書 (4))(山鹿市立博物館調査報告書第9集）: 71-82.
11. 松下孝幸・他、1992: 熊本県宇土市西潤野2号墳出土の古墳時代人骨。立岡古墳群（宇土市埋蔵文化財調査報告書第 19集）: 71-84.
12. 松下孝幸、1993: 広島県本郷町陣開遺跡出土の古墳時代人骨。陣開遺跡（本郷町教育委員会文化財調査報告書第2集）付篇: 1-5.
13. 松下孝幸、1997: 熊本市五丁中原遺跡群第1次調査区3号墳周溝内墓壙出土の古墳時代人骨。五丁中原遺跡（五丁中原遺跡第1次調査区発掘調査概要報告書）: 25-26.
14. 松下孝幸、2004a: 熊本県鹿央町広諏訪原遺跡出土の古墳人骨。鹿央町文化財報告書広諏訪原遺跡（町民テニスコート新設工事及び農村総合整備事業農道7号工事に伴う埋蔵文化財調査報告書）: 27-34.
15. 松下孝幸、2004b:「自然人類学」「環境考古学ハンドブック」: 444-454. 朝倉書店
16. 松下孝幸、2006a: 熊本県合志町豊岡宮本横穴群出土の古墳人骨。豊岡宮本横穴群（熊本県合志町文化財調査報告第2集）: 57-84.
17. 松下孝幸、2006b: 熊本県益城町「城の本2号墳」出土の古墳人骨。城の本2号墳（益城町文化財調査報告第 20集）: 37-42.
18. 松下孝幸、2006c: 熊本市御幸木部遺跡群出土の古墳人骨。御幸木部遺跡群（国土交通省熊本河川国道事務所加勢川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査）(熊本県文化財調査報告第 233集）: 81-90.
19. 松下孝幸、松下真実、熊本市北岡横穴群出土の古墳人骨。（投稿中）
20. 内藤芳篤、1975: 塚原中世墳墓・丸尾5号墳出土の人骨について。塚原（熊本県文化財調査報告第 16集）: 317-322.
21. 内藤芳篤・他、1980: 清水1号古墳出土の人骨。清水古墳・野寺遺跡・林源衛門墓（熊本県文化財調査報告書第 41集）: 22-28.
22. 分部哲秋・他、1991: 熊本県菊鹿町灰塚古墳出土の人骨。灰塚古墳（県営畑地帯総合土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査）(熊本県文化財調査報告第 114集）: 49-59.



飛尾横穴群・14号墓出土人骨 FE-14-1
（男性・年令不明）



飛尾横穴群・19号墓出土人骨 FE-19-1
（男性・年令不明）

図２　人骨の残存図（アミかけ部分）
(Fig.2 Regions of preservasion of the skeleton. Shaded areas are preserved)

表４　大腿骨（㎜）(Femur)

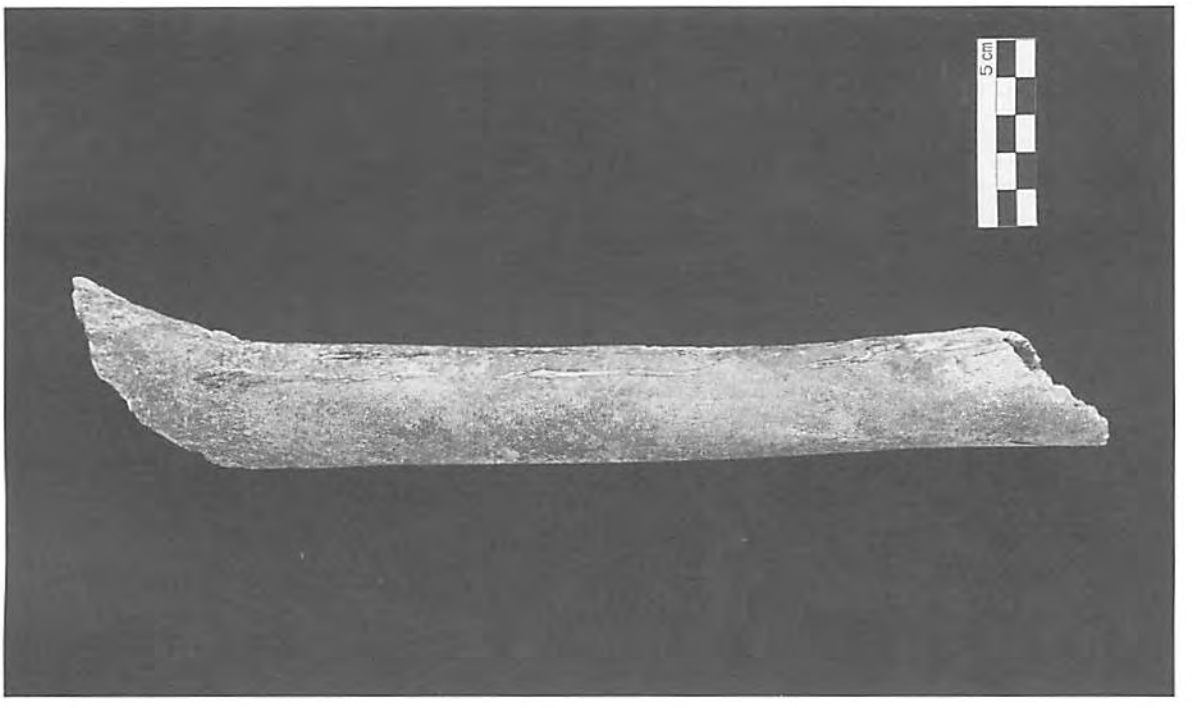
		飛　尾 14-FE-1 男性 右	飛　尾 19-FE-1 男性 左
1.	最大長	-	-
2.	自然位全長	-	-
3.	最大転子長	-	-
4.	自然位転子長	-	-
6.	骨体中央矢状径	28	31
7.	骨体中央横径	30	26
8.	骨体中央周	88	91
9.	骨体上横径	34	31
10.	骨体上矢状径	24	25
15.	頚垂直径	-	-
16.	頚矢状径	-	-
17.	頚周	-	-
18.	頭垂直径	-	-
19.	頭横径	-	-
20.	頭周	-	-
21.	上顆幅	-	-
8/2	長厚示数	-	-
6/7	骨体中央断面示数	93.33	119.23
10/9	上骨体断面示数	70.59	80.65

表３－１　大腿骨計測値（男性、右、mm）(Table 3-1. Comparison of measurements and indices of male right femora)

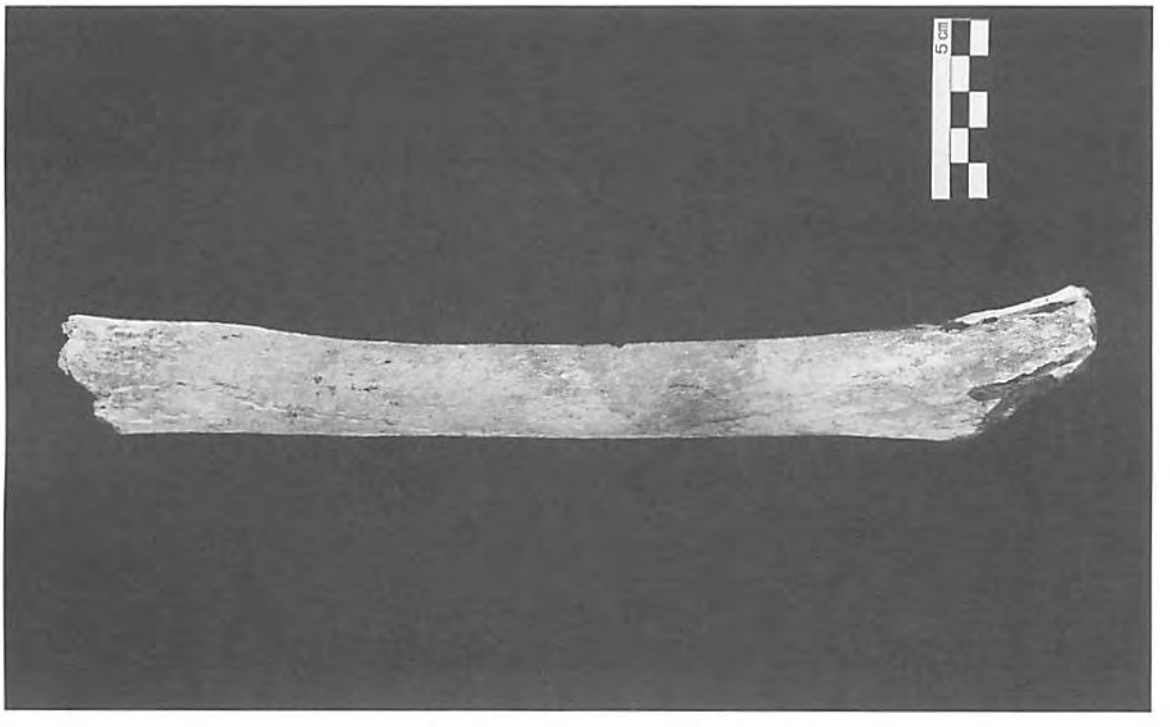
		飛尾			北岡横穴群					御幸木部	豊岡宮本			四十八塚				
		古墳人			古墳人					古墳人	古墳人			古墳人				
		熊本県			熊本県					熊本県	熊本県			熊本県				
		城南町			熊本市					熊本市	合志町			中央町				
					(松下・他)					(松下)	(松下)			(松下・他)				
		14-FE-1	19-FE-1		14-Y-01		14-Y-02	14-FE-1		S-004	3-FE-2	9-Y-1	11-FE-3	2号		4号	5号		6号
6.	骨体中央矢状径	28	31	(左)	27	(左)	32	28	(左)	32	31	31	29	31	(左)	28	28	(左)	26
7.	骨体中央横径	30	26	(左)	27	(左)	27	29	(左)	31	30	28	26	25	(左)	25	25	(左)	25
8.	骨体中央周	88	91	(左)	85	(左)	95	88	(左)	98	95	92	86	90	(左)	84	83	(左)	81
9.	骨体上横径	34	31		31	(左)	30	33	(左)	32	33	32	31	–		–	28	(左)	27
10.	骨体上矢状径	24	25		24	(左)	28	23	(左)	29	25	27	23	–		–	24	(左)	24
6/7	骨体中央断面示数	93.33	119.23	(左)	100.00	(左)	118.52	96.55	(左)	103.23	103.33	110.71	111.54	124.00	(左)	112.00	112.00	(左)	108.00
10/9	上骨体断面示数	70.59	80.65	(左)	77.42	(左)	93.33	69.70	(左)	90.63	75.76	84.38	74.19	–		–	85.71	(左)	88.89

表３－２　大腿骨計測値（男性、右、mm）(Table 3-2. Comparison of measurements and indices of male right femora)

		飛尾			福原					湯の口	古城	西洞野2号	津袋1号	小路	清水		
		古墳人			古墳人					古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳人	古墳		
		熊本県			熊本県					熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県		
		城南町			益城町					山鹿市	熊本市	宇土市	鹿本町	玉名市	八代市		
					(松下・他)					(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(松下)	(内藤・他)		
		14-FE-1	19-FE-1		A	B	C	D		53.2-B	37-1-1号	1号人骨	1号	1号	①	②	③
6.	骨体中央矢状径	28	31	(左)	28	30	25	25	(左)	–	26	27	(左)	27	26	32	28	26
7.	骨体中央横径	30	26	(左)	25	26	29	30	(左)	–	31	33	(左)	25	28	30	24	25
8.	骨体中央周	88	91	(左)	84	87	84	88	(左)	–	–	(93)	(左)	81	86	97	85	83
9.	骨体上横径	34	31		33	32	32	–		34	(左)	–	39	(左)	27	32	–	32	–
10.	骨体上矢状径	24	25		23	26	23	–		26	(左)	–	23	(左)	24	24	–	25	–
6/7	骨体中央断面示数	93.33	119.23	(左)	112.00	115.38	86.21	83.33	(左)	–	83.87	81.82	(左)	108.00	92.86	106.67	116.67	104.00
10/9	上骨体断面示数	70.59	80.65	(左)	69.70	81.25	71.83	–		76.47	(左)	–	58.97	(左)	88.89	75.00	–	78.13	–

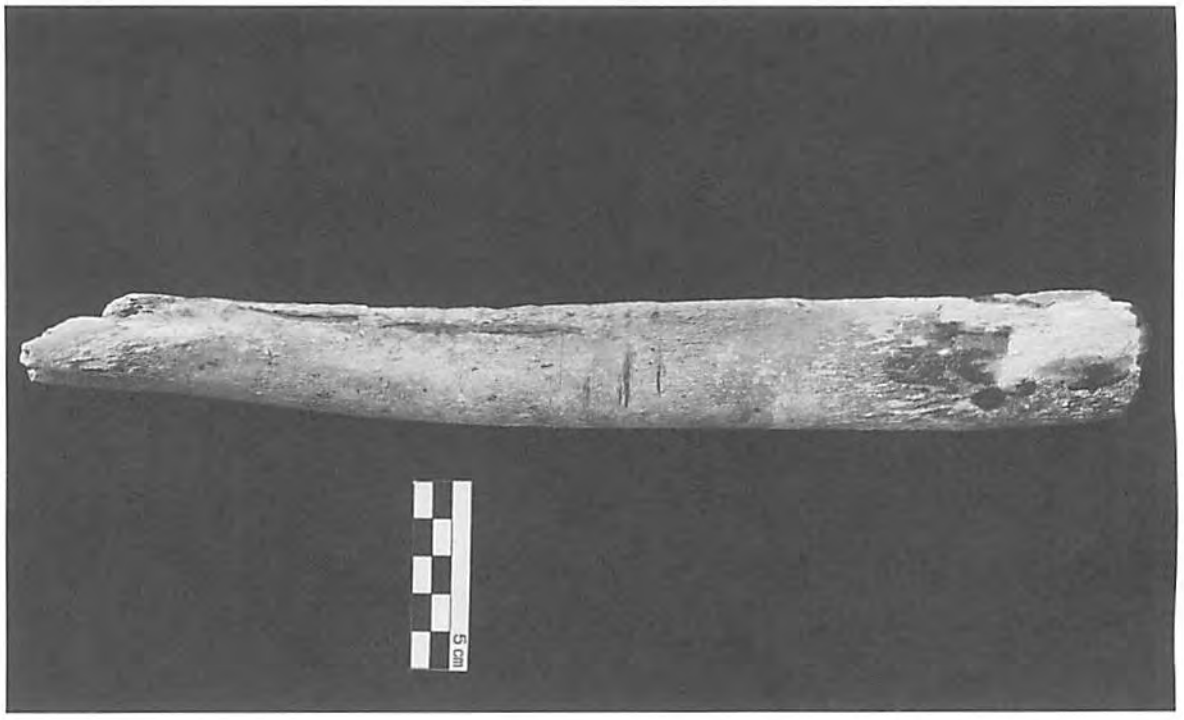


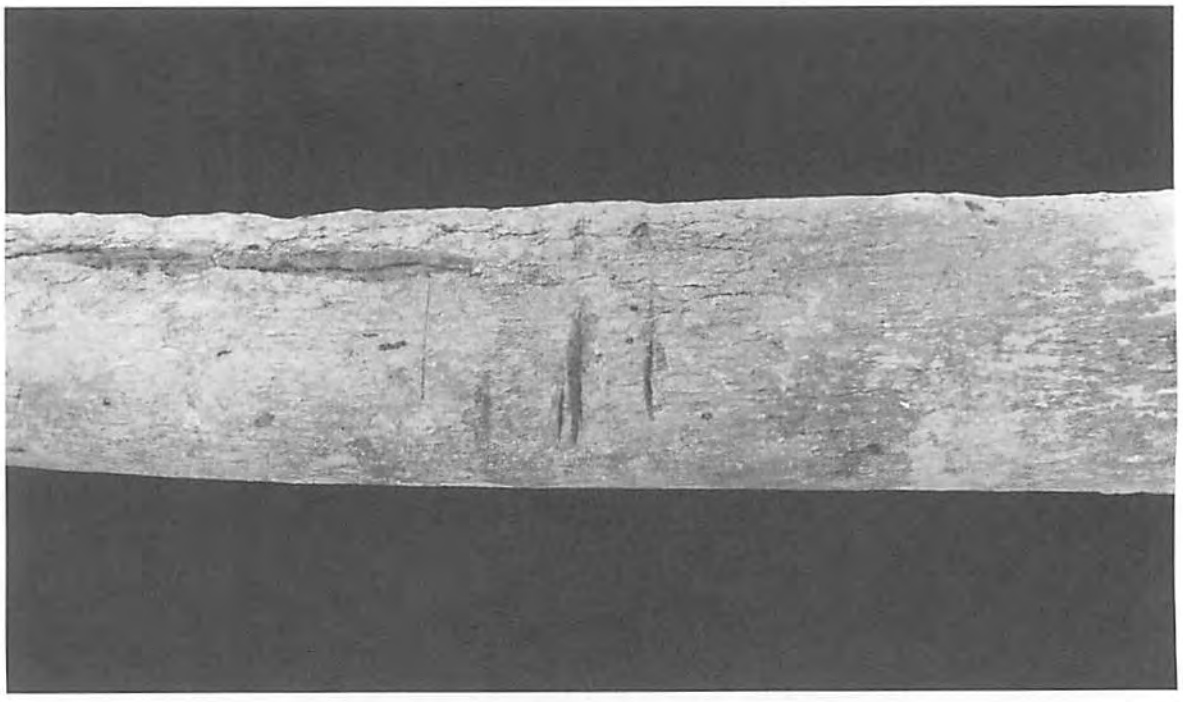
右側大腿骨（14-FE-1、男性）
（The right femur, male）



左側大腿骨（19-FE-1、男性）
（The left femur, male）

飛尾横穴群
（The Tobinoo tunnel-tumuli）





大腿骨にみられる刃器による傷跡（19-FE-1、男性）
(The femur with the wound by the weapon, 19-FE-1, male)

飛尾横穴群
(The Tobinoo tunnel-tumuli)

飛尾横穴群における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．自然科学分析の概要

飛尾横穴群の発掘調査では、9号墓から10号墓前の工事現場において、地表下約1.3 mの青灰色粘質層から須恵器坏（身と蓋が合わさった形）が出土し、内部には土壌（試料1）や炭化した植物遺体（試料2）が残っていた。そこで、試料の年代や須恵器坏の内容物について情報を得る目的で、両試料について放射性炭素年代測定を試みた。

Ⅱ．放射性炭素年代測定

1．はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（^{14}C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

2．試料と方法

試料No.	地点・層準	種類	前処理	測定法
No.1	9･10号墓前，須恵器坏内の土壌	土壌	湿式篩分，酸洗浄	AMS
No.2	9･10号墓前，須恵器坏内の炭化物	炭化物	超音波洗浄，酸-アルカリ-酸処理	AMS

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

3．測定結果

試料No.	測定No.（PED-）	$\delta^{13}C$（‰）	^{14}C年代（年BP）	暦年代（較正年代）	
				1σ（68.2%確率）	2σ（95.4%確率）
No.1	10823	-21.98±0.19	1520±20	AD535-595(68.2%)	AD430-490(18.1%) AD510-610(77.3%)
No.2	10824	-27.01±0.20	170±20	AD1660-1690(12.7%) AD1730-1810(47.1%) AD1930-1950(8.4%)	AD1660-1700(17.8%) AD1720-1820(57.9%) AD1910-1960(19.7%)

BP：Before Physics（Present），BC：紀元前，AD：紀元後

（1）$\delta^{13}C$測定値

試料の測定^{14}C / ^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C / ^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料のδ ^{13}C値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正する。

（2）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C /^{12}C比から、現在（AD1950年基点）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を用いた。

（3）暦年代（Calendar Age）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中^{14}C濃度の変動および^{14}Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な^{14}C測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線データはIntCal 04、較正プログラムはOxCal 3.1である。

暦年代は、^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で示し、OxCal 3.1の確率法により1σ（68.2%確率）と2σ（95.4%確率）で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。()内の%表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4．所見

加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定の結果、№1の土壌では1520±20年BP（1σの暦年代でAD535～595年）、№2の炭化物では170±20年BP（AD1660～1690, 1730～1810, 1930～1950年）の年代値が得られた。

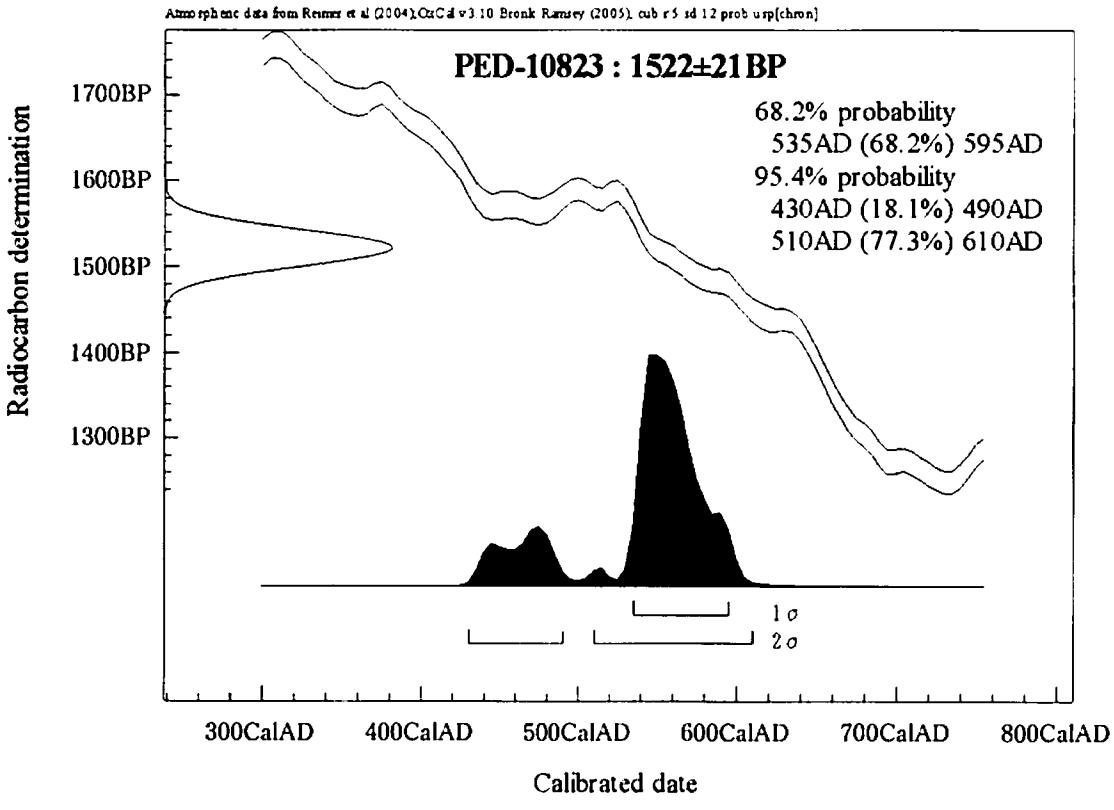
文献

Bronk Ramsey C. (1995)Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy,The OxCal Program,Radiocarbon,37(2), p.425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), 355-363.

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal 04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46,p.1029-1058.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の14C年代，p.3-20.


Atmospheric data from Reimer et al (2004),OxCal v3.10 Bronk Ramsey (2005), cub r:5 sd:12 prob usp[chron]
PED-10823 : 1522±21BP
68.2% probability
535AD (68.2%) 595AD
95.4% probability
430AD (18.1%) 490AD
510AD (77.3%) 610AD
1700BP
1600BP
1500BP
1400BP
1300BP
Radiocarbon determination
1σ
2σ
300CalAD
400CalAD
500CalAD
600CalAD
700CalAD
800CalAD
Calibrated date

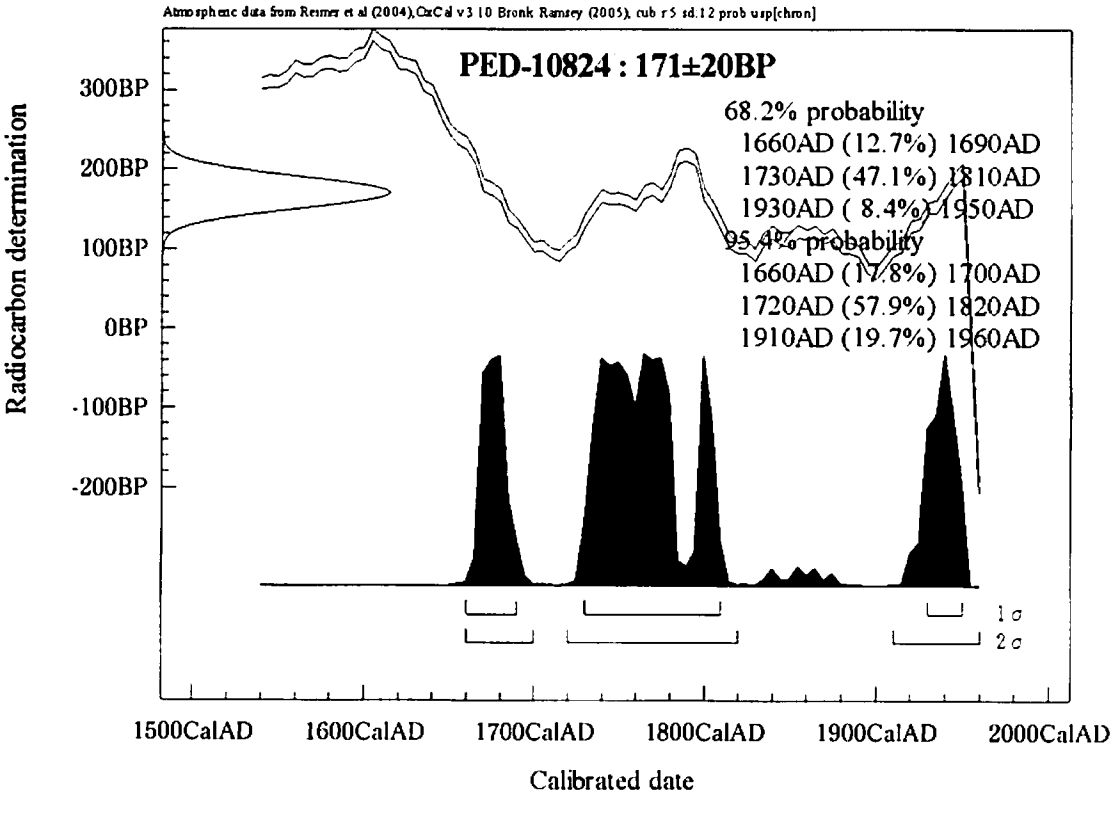

Atmospheric data from Reimer et al (2004),OxCal v3.10 Bronk Ramsey (2005), cub r:5 sd:12 prob usp[chron]
PED-10824 : 171±20BP
68.2% probability
1660AD (12.7%) 1690AD
1730AD (47.1%) 1810AD
1930AD (8.4%) 1950AD
95.4% probability
1660AD (17.8%) 1700AD
1720AD (57.9%) 1820AD
1910AD (19.7%) 1960AD
300BP
200BP
100BP
0BP
-100BP
-200BP
Radiocarbon determination
1σ
2σ
1500CalAD
1600CalAD
1700CalAD
1800CalAD
1900CalAD
2000CalAD
Calibrated date

図1　暦年較正結果

第V章　総括

第1節　古墳時代

今回の調査では、調査区内に分布する21基のうち計10基の横穴墓の内部調査と1基の玄室の実測を行った。しかし、これは本来存在するとされる横穴墓の15%に満たない数である。したがって今回の調査結果がそのまま本横穴群の全容となることはありえないが、その一端を垣間見ることができたのは間違いない。本横穴群を含めた城南町、ひいては緑川流域における古墳時代後期の古墳文化解明の一助となることを願いつつ、調査結果のまとめと多少の考察をもって総括に代えたい。

遺構については、玄室内の構造が明らかになった11基から見ていく。今回の調査では、前庭部や羨道部、さらに墓道といった葬送儀礼の場として機能していたであろう遺構がほとんど調査できなかった。そのため主に玄室規模やその構造から判断することになる。

全体的な特徴としては、屍床区画を有するということが挙げられる。現在は消失していても仕切りや屍床の痕跡が確認できるものを含めると調査対象10基すべてで何らかの屍床区画の存在を確認した。また、現存する屍床区画を確認する限りではいずれもコの字形を呈しているが、これは美濃口雅朗氏の分類におけるⅣ類に相当するものである。このことがただちに緑川流域におけるⅣ類主体説を証明するものかは分からないが、Ⅳ類のある程度の優位性を裏付けていると言えよう。そして天井部の形態が他地域で見られるような屋根形を表現したものはなく、蒲鉾形やドーム形であることも全体的な特徴の一つである。もっとも同町内に所在する城の鼻横穴群では、ドーム形の他に寄棟形も確認されているので、本横穴群でも未調査の部分に他形態の天井部が存在する可能性も否定できない。類例の増加を待つ他ない。

次に本横穴群における玄室の分析を行う。玄室構造は、玄室の平面形や天井部の形態、各部の構造等から現状では以下の3つに分類できる。

1類：平面プランは凸形で天井部は蒲鉾形、壁と天井の境には軒先線が巡る。通路は平坦気味。(1号、12号)

2類：平面プランは長方形で天井部はドーム形、軒先線はなし。通路は細長気味で羨門部に向かって傾斜。(14号、15号、17号)

3類：平面プランは台形で天井部は蒲鉾形、軒先線はなし。1、2類に比べ小型の玄室。(19号、20号)

13号、16号、18号、21号墓については、玄室構造に不明な点も多いため除外しているが、上記の分類に含まれると推測される。軒先線の有無や通路の傾斜を見る限りでは、1類→2類という時間的変遷が窺えなくもないが、両者の間で明確な時期差があるかは不明である。3類については、玄室内部を削平されており、1、2類との構造的な比較が難しいが規模的に小型である点は、何らかの相違があることを物語っている。

3者は、構造的な相違の他にもその分布域にも違いが見られる。1類は今回の調査区の南～中央部に位置するのに対して2類は中央部、3類は北部に位置している。3類が位置的にやや離れているが、1、2類は近接しており連綿と築造されている感がある。3類の特異性が分布域からも窺えるわけだが、こうした差異が時期的なものなのか、それとも系統的なものなのかは、今回の調査では明らかにできなかった。ただ1号墓と12号墓の間がまったく玄室内部の調査が行われていないため、果たしてこうした分布が適当かどうかは今後の調査を待つ他ない。

遺物については、開口して久しく埋葬当時の遺物はあまり確認できなかった。それでも土師器、須恵器、

鉄鏃、刀子、弓金具、耳環、管玉、算盤玉、切子玉、丸玉、小玉等が出土したことは大きな成果であった。特に12号墓では、奥屍床から170点近い玉類が出土しており、予想外の出土数である。一方で工事現場から出土した土器群は、遺構としては確認できなかったものの、その出土状況から前庭部か墓道の存在を窺わせるもので、一括品の可能性が高い。以下、種別毎に述べていく。

土師器、須恵器の土器類は、その大半が工事現場からの一括品である。蓋坏、高坏、壺、甕と言った供献品が多数を占めるのは、葬送儀礼に用いられたことを示している。須恵器の中には所謂「赤焼け土器」が含まれるが、いずれも無蓋高坏である。出土した須恵器の多くが宇城産のようだが、中には胎土や焼成が異なるものもあり、搬入品の可能性もある。有蓋高坏の蓋と蓋坏の坏身がセットで出土したが（第26図11、第27図18)、これは本来別個体の蓋と身を1個体として利用していたことを示すものである。これを転用又は再利用と呼称できるかは定かではないが、当時の葬送儀礼における容器利用の様相の一端を垣間見せるものと言える。そしてこの坏の土壌を年代測定した結果、6世紀前半～末という数値が得られている。安易にこの結果をもって本横穴群の年代を特定するのは早計であろうが、出土した須恵器が陶邑編年のII型式5段階～6段階相当であることを考慮すると興味深い数値である。

鉄鏃や刀子を始めとする鉄器は、器種不明なものを除くと12号、14号、18号墓で比較的多く出土している。鉄鏃は長頸鏃、三角形鏃、腸抉三角形鏃を確認している。12号墓では長頸鏃のみ、それ以外では三角形鏃や腸抉三角形鏃も確認している。本来の埋葬状況を保っていないため、こうした傾向が各横穴墓の時間的、階層的差異を示すものかは断言できないが、注意しておく必要がある。また弓矢関係では、弓金具が4点出土した。うち3点は、12号墓左屍床からの出土でしかも同じ屍床からは、鉄鏃も出土しており、これらがセットで納められた可能性も示唆している。弓金具にはいずれも木質が付着しており、弓に装着されていたことは間違いないが、山鹿市湯の口横穴群第129号墓出土例のように弓金具が装着された弓自体が出土していないため、どのように装着されていたかは不明である。馬具とおぼしき鉸具も2点出土したが、横穴墓に伴うものかは、出土状況等から疑わしい。

装身具としては、耳環と玉類が出土したがほとんどがふるいがけにおいて見つけたものである。前述したとおり12号墓からの出土が最も多い。他は14号、17号、18号、21号墓から少量出土している。詳細な出土地点は分からないものの、各屍床や通路毎でふるいがけを実施したものについては、大まかな出土状況を窺い知ることは可能である。その中で興味深いのは12号墓の出土状況で、奥屍床から耳環1点、玉類174点、右屍床から玉類1点、通路から玉類28点が出土しているが、左屍床からはまったく出土していない。その一方で左屍床からは、鉄鏃と弓金具が出土するが、他の屍床や通路では出土していない。装身具が主体の奥屍床と武器が主体の左屍床、それぞれに埋葬された被葬者の性格の差か、副葬品の埋納場所の違いなのか、あるいは単なる偶然の産物かは、現時点では結論づけることはできない。玉類の種類は、丸玉や小玉が主体で管玉、切子玉、算盤玉が1～3点見られる程度である。色調的には黄色が全体の半分近く（138点）に上り、他に青黒、濃紺、紺、青、深緑、緑、水、赤といったものが確認された。担当者の主観によるところが大きいため、実際にはもう少し絞られるのだろうが、少なくとも黄色の優位性は間違いない。玉類の多くがガラス製のようだが、詳細な科学分析を行っていないため、その材質についてははっきりしない。耳環についても詳細は未確認だが、肉眼観察ではいずれも金環と推測される。

今後、科学分析により材質や構造等が明らかになれば、本横穴群の性格等がさらに解明されるだろう。

なお、本横穴群からは、14号、19号墓から男性の大腿骨が出土している。古墳時代の人骨であるとのことだが、開口して久しく埋葬の状況等詳細は不明である。しかしながら、倉庫やゴミ捨て場に転用されながらも貴重な人類学的資料が得られたことは、当時の人々の生活を考える上で重要な発見と言える。

以上、古墳時代の遺構・遺物について私見を交えて述べてみた。最後に城南町（緑川流域）における本横穴群の位置づけや今回の調査の意義について触れてみたい。城南町の古墳時代を代表する遺跡と言えば塚原古墳群であるが、塚原古墳群の築造が終焉を迎える6世紀末を境に近隣の横穴群へと墓制が変化していった可能性が高いことを松本健郎氏が指摘している。本横穴群の築造時期については、断定できるような根拠はないものの、出土遺物や年代測定から類推すると6世紀末から7世紀前半という時期が有力である。仮にこの時期が適当であるとすると松本氏の見解を裏付けることになり、緑川流域における塚原古墳群以後の古墳（横穴群）の動向が少しではあるが明らかになったと言える。周辺の横穴群との関係については、資料不足のため今後の課題となるが、公開されている玄室の形態や出土遺物の資料を見る限りでは、本横穴群と類似しており、時期的に大きく外れるものではないと推測される。

城南町では、県内有数の横穴群分布地域であるにもかかわらずこれまで調査の実施された例が少なく、その内容もほとんど明らかになっていなかった。今回の調査は、一部ながら横穴群の内容を明らかにできた点において有意義なものであったと言える。横穴群の配置やその内部構造、副葬品について資料化することで今後の調査・研究だけでなく、当該地域の文化財保護・活用事業にも寄与しうると期待される。

第2節　その他の時代

古墳時代以外の遺物も多く出土したわけだが、多くが流れ込んだものであり、原位置を留めるものはほとんどない。したがって遺構（横穴墓）との関係を示すようなものは少ない。わずかに中世の土師器が出土していることから当該時期における横穴墓の再利用を窺わせるくらいである。底部調整にヘラ切り（15号墓出土分）と糸切り（16号墓出土分）があることから、再利用の時期差も想定できる。しかしどのような形で再利用されたのかまでは明らかにできなかった。

近世の遺物としては、寛永通宝が6枚確認できた。うち5枚は、16号墓から出土している。

他にも太平洋戦争に関係する資料も確認できた。16号墓から出土した30年式銃剣と防空壕跡である。銃剣は、2点とも同じような長さで欠損した状態で出土しているが、これは30年式銃剣が剣身の長さから途中で折損しやすいという性質に起因するのではないかと推測される。本来、刺突を目的としていながら細長い刀剣型を呈している30年式銃剣の構造的欠陥を物語っていると言える。

防空壕跡は、個人のものにしては規模が大きすぎるため、軍事用ではないかと推測される。第Ⅲ章で述べたように城南町には、終戦まで隈庄飛行場が存在していた。ここには、昭和16年に大刀洗陸軍飛行学校隈庄教育隊が開設されて以来、旧日本陸軍の軍事施設として機能していた。昭和20年には教育隊に変わり飛行第110戦隊が配置され、沖縄戦線にも出撃していたそうである。その頃から米軍の空襲に備えて基地の施設を周辺の山林に移転する作業が行われており、そうした作業の一環として本横穴群域内に防空壕を建設した可能性もある。地元の方の話によると戦時中に車両が防空壕を出入りしていたとのことで(註)、こうした証言からも本施設の性格が窺い知ることができるだろう。ちなみにこうした防空壕跡は、調査区外にも複数存在することが確認されているが、地盤の軟弱さもあって崩壊しているものも少なくない。第Ⅲ章で述べたように1号墓の隣にもこうした防空壕跡が確認されている。管見の限りでは構造的に共通点が多いことから同様の施設であったと推測されるが、崩壊が進んでいるうえに廃棄物が放置されていたため、未調査である。

古墳時代に埋葬が行われた後も中世以降の文物が連綿と確認されているが、利用のされ方はともかく本横穴群が当時の人々と共に歴史を刻んできたことは間違いない。

註：清田禎一氏（城南町教育委員会）の教示による

参考・引用文献一覧

・佐田　茂「九州における横穴墓研究の現状と課題」「九州の横穴墓と地下式横穴墓」第4回九州前方後円墳研究会大会発表要旨集－資料編－　2001年

・松本健郎「中九州の横穴」「森貞次郎博士古稀記念古文化論集」下巻　1982年

・美濃口雅朗「地域の概要―肥後―」「九州の横穴墓と地下式横穴墓」第4回九州前方後円墳研究会大会発表要旨集－資料編－　2001年

・中村　浩「和泉陶邑窯の研究―須恵器生産の基礎的考察―」　1981年

・大阪府立近つ飛鳥博物館編「年代のものさし―陶邑の須恵器―」大阪府立近つ飛鳥博物館図録40　平成17年度冬季企画展　重要文化財指定記念　2006年

・市毛　勲「古墳出土の鉄製留金形小品について―その名称と用途をめぐって―」「古代学研究」第87号　1978年

・比佐陽一郎「弓金具の再検討」「月刊　考古学ジャーナル」12月号　№496　2002年

・橋本達也「有機質製甲冑・盾・鞆・胡簶・弓」「考古資料大観」第7巻　2003年

・杉山秀宏「古墳時代の鉄鏃について」「橿原考古学研究所論集」第8　1988年

・網田龍生「肥後における回転台土師器の成立と展開」「中近世土器の基礎研究」X　1994年

・美濃口雅朗「熊本県における中世前期の土師器について」「中近世土器の基礎研究」X　1994年

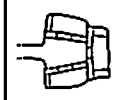
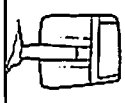
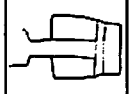
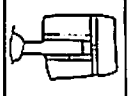
・山本信夫「統計上の土器―歴史時代土師器の編年研究によせて―」「乙益重隆先生古稀記念　九州上代文化論集」　1990年

・中世土器研究会編「概説　中世の土器・陶磁器」　1995年

・上村文男「第2章　下益城地区」「子どもと歩く戦争遺跡」III　2007年

上記の文献の他にも第II章で掲載した文献を始め数多くの報告書等を参考にさせてもらったが、ここでは割愛している。

表3　横穴墓一覧

番号	平面模式図	羨道部規模(cm)		羨門部規模(cm)			玄室規模(cm)			天井の形態	主軸方向	出土遺物					備考
												羨道部	玄室				
		幅	長さ	幅	奥行	高さ	幅	奥行	高さ				土器	武器武具	装身具	その他	
1		–	–	–	–	–	147? – 230	(315)	170	蒲鉾形	N114°W	–	–	–	–	–	実測のみ 現地保存
2												–	–	–	–	–	現地保存
3												–	–	–	–	–	現地保存
4												–	–	–	–	–	現地保存
5												–	–	–	–	–	現地保存
6												–	–	–	–	–	現地保存
7												–	–	–	–	–	現地保存
8												–	–	–	–	–	現地保存
9												–	–	–	–	–	現地保存
10												–	–	–	–	–	現地保存
11												–	–	–	–	–	現地保存
12		–	–	53	60	104	180 – 280	257	180	蒲鉾形	N51°W	–	土師器	鉄鏃 8 刀子 1 弓金具 3	耳環 1 丸玉 4 小玉 199	–	
13		170?	73	–	66	–	(170) – 265	(260)	(177)	不明 (蒲鉾形or ドーム 形?)	N49°W	–	–	–	–	–	
14		–	–	58	74	(150)	245 – 257	316	205	ドーム形	N62°W	耳環 1 鉄製品 1	須恵器 白磁	鉄鏃 6 弓金具 1	耳環 1 丸玉 1	–	
15		–	–	67	90	118?	195 – 242	272	176	ドーム形	N71°W	磨製石斧 1	土師器 須恵器	刀子 1	–	–	
16		–	–	–	–	–	190 – 280	270	180	ドーム形	–	–	土師器 須恵器 陶磁器	–	–	鉄釘 4 古銭 5 砥石 1 銃剣 2	玄室内 未調査
17		–	74	56	80	120	200 – 245	283	193	ドーム形	N96°W	鉄鏃 2 馬具?1 鉄製品 1	須恵器 陶磁器	鉄鏃 2	耳環 1 小玉 24	鉄製品 13	
18		–	–	–	–	–	(258)	(264)	(110)	不明	N84°W	–	土師器 須恵器	鉄鏃 9 刀子 1	耳環 1 管玉 1 切子玉 1 小玉 7	–	
19		–	–	66	58	100	166 – 214	246	145	蒲鉾形	N39°W	–	須恵器	–	–	古銭 1	
20		–	–	60	43	115	117 – 162	204	(150)	蒲鉾形	N29°W	–	土師器 須恵器 瓦質土器	馬具?1	–	–	
21		–	–	–	–	–	205	(190)	(130)	不明	N118°W	–	–	鉄鏃 1 刀子 1	管玉 2 算盤玉 1 丸玉 1 小玉 35	–	

※カッコ内は現存値。数値の後に？がつくものは推定値。

表4　出土土器観察表

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	器種 器形	残存度	口径 (cm)	器高 (cm)	胴部径 (cm)	底部径 (cm)	色調		調整		焼成	胎土	備考
										外面	内面	外面	内面			
11	1	14号墓	左屍床埋1	須恵器 壺	口縁:7/8	9.2	4.5+			灰色	灰色	回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	1mm以下の長石、砂粒	外面に灰釉
11	2	14号墓	通路	須恵器 高坏	坏:一部		2.3+			明赤褐色	橙色	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良好	1mm程度の長石、砂粒	
13	2	15号墓	通路	土師器 高坏	脚柱		8.3+			橙色	橙色	不明	板ﾅﾃﾞ	良	5mm以下の長石、石英	黒斑
22	1	19号墓		須恵器 甕	胴部:一部		17.5+			黄灰色	黄灰色	平行ﾀﾀｷ	同心円当具痕	良好	1mm程の砂粒	
26	1	工事一括		土師器 高坏	坏:1/3	(17.2)	5.7+			明赤褐色	明赤褐色	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良好	3mm以下の長石、 雲母、褐色粒	
26	2	工事一括		土師器 高坏	坏:3/4 脚:脚柱	14.7	9.9+			明赤褐色	橙色	坏:ﾐｶﾞｷ 脚:ｹｽﾞﾘ　ﾐｶﾞｷ	坏:ﾐｶﾞｷ 脚:ﾅﾃﾞ	良好	3mm以下の長石、石英	外面に赤色顔料
26	3	工事一括		土師器 高坏	坏:一部 脚:大半		10.3+		11.5	明赤褐色	明赤褐色	ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ　ﾅﾃﾞ	良	3mm以下の石英、角閃 石、黒色粒、赤色粒	
26	4	工事一括		土師器 高坏	全体:1/3	(15.7)	14.2		(13.7)	赤色	赤色	坏:ｹｽﾞﾘ　横ﾐｶﾞｷ 脚:ｹｽﾞﾘ　横ﾐｶﾞｷ	坏:横ﾐｶﾞｷ 脚:ｹｽﾞﾘ	良	2mm以下の石英、 赤色粒、黒色粒	外面に赤色顔料
26	5	工事一括		土師器 小型台付壺	大半	5.0	8.8	6.7	5.8	橙色	橙色	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良好	1mm程の長石、石英	外面に赤色顔料
26	6	工事一括		土師器 台付長頸壺	大半	9.6	20.5	13.3	(9.8)	赤褐色	橙色	口頸:横ﾐｶﾞｷ 胴:ﾊｹorｹｽﾞﾘ　横ﾐｶﾞｷ 台:ﾊｹ　横ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	良好	3mm以下の角閃石、 石英、黒色粒	外面に赤色顔料
26	7	工事一括		須恵器 椀?	全体:1/2	(8.8)	4.3			灰白色	黄灰色	回転横ﾅﾃﾞ ｹｽﾞﾘ　ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ　不定ﾅﾃﾞ	良好	1mm程の長石、黒色粒	
26	8	工事一括		須恵器 坏蓋	大半	14.0	3.1			灰色	灰色	ﾍﾗ切　ｹｽﾞﾘ　回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	3mm以下の長石、 石英、砂粒	ヘラ記号
26	9	工事一括		須恵器 坏蓋	全体:2/3	(13.0)	4.0			灰色	灰色	ﾍﾗ切　回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	2mm程の長石、砂粒	
26	10	工事一括		須恵器 坏蓋	大半	12.7	3.9			灰色	灰色	ｹｽﾞﾘ　回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ　不定ﾅﾃﾞ	良好	2mm以下の石英、 黒色粒、砂粒	
26	11	工事一括		須恵器 坏身	大半	12.2	4.0			灰白色	灰白色	回転横ﾅﾃﾞ　ｹｽﾞﾘ	回転横ﾅﾃﾞ　不定ﾅﾃﾞ	良	3mm以下の長石、雲母	中に有機物
26	12	工事一括		須恵器 坏身	大半	12.6	4.1			灰白色	黄灰色	回転横ﾅﾃﾞ　ｹｽﾞﾘ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	2mm以下の長石、 黒色粒	外面に自然釉
26	13	工事一括		須恵器 高坏	坏:1/4	(9.8)	5.2+			橙色	橙色	回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ	やや良	1mm程の長石	赤焼け
26	14	工事一括		須恵器 高坏	坏:1/3 脚:2/3	(9.2)	11.0		7.0	灰色	褐灰色	回転横ﾅﾃﾞ	坏:回転横ﾅﾃﾞ 脚:ｹｽﾞﾘ回転横ﾅﾃﾞ	良好	2mm以下の長石、雲母	
26	15	工事一括		須恵器 高坏	坏:1/4	(18.2)	5.2+			橙色	橙色	回転横ﾅﾃﾞ　カキ目	回転横ﾅﾃﾞ	良	1mm程の褐色粒	赤焼け
26	16	工事一括		須恵器 高坏	坏:口縁一部 脚:1/2	(17.0)	14.9		(12.2)	橙色	橙色	坏:回転横ﾅﾃﾞ　カキ目 脚:回転横ﾅﾃﾞ	坏:回転横ﾅﾃﾞ　不定ﾅﾃﾞ 脚:回転横ﾅﾃﾞ　ﾍﾗ削り	良	5mm以下の長石、 石英、雲母	赤焼け
26	17	工事一括		須恵器 高坏	坏:2/3 脚:脚柱	(15.9)	13.8+			橙色	橙色	坏:回転横ﾅﾃﾞ　カキ目 脚:回転横ﾅﾃﾞ	坏:回転横ﾅﾃﾞ　不定ﾅﾃﾞ 脚:回転横ﾅﾃﾞ　ﾍﾗ削り	良	5mm以下の長石、 石英、雲母	赤焼け
27	18	工事一括		須恵器 高坏蓋	大半	15.0	4.9			灰色	灰色	カキ目　回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	3mm以下の長石、石英	
27	19	工事一括		須恵器 高坏蓋	口縁:1/4 天井:3/4	(15.0)	5.1			灰白色	灰白色	ｹｽﾞﾘ　回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ　ﾅﾃﾞ	やや良	3mm程の砂粒	
27	20	工事一括		須恵器 高坏	大半	10.6	14.5		(12.5)	緑灰色	明緑灰色	坏:回転横ﾅﾃﾞ 脚:ｹｽﾞﾘ回転横ﾅﾃﾞ	坏:回転横ﾅﾃﾞ 脚:ｹｽﾞﾘ　回転横ﾅﾃﾞ	良好	2mm以下の石英、 黒色粒、砂粒	ヘラ記号
27	21	工事一括		須恵器 高坏	坏:大半 脚:1/2	12.4	13.4+			灰白色	灰黄色	回転横ﾅﾃﾞ	坏:回転横ﾅﾃﾞ　不定ﾅﾃﾞ 脚:ﾅﾃﾞ	良好	2mm以下の長石、 黒色粒	長脚2段透かし
27	22	工事一括		須恵器 高坏	坏:2/3	(11.2)	4.1+			明青灰色	明オリーブ灰色	回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	2mm以下の砂粒	

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	器種 器形	残存度	口径 (cm)	器高 (cm)	胴部径 (cm)	底部径 (cm)	色調		調整		焼成	胎土	備考
										外面	内面	外面	内面			
27	23	工事一括		須恵器 高坏	脚:1/2		13.5+		(14.6)	灰色	灰色	回転横ﾅﾃﾞ　ｶｷ目	ｹｽﾞﾘ　回転横ﾅﾃﾞ	良好	1mm以下の砂粒	長脚2段透かし
27	24	工事一括		須恵器 高坏	坏:大半 脚:1/3	13.2	17.8		15.0	灰白色	明褐灰色	坏:回転横ﾅﾃﾞ　ｶｷ目 脚:回転横ﾅﾃﾞ　ｶｷ目	坏:回転横ﾅﾃﾞ　不定ﾅﾃﾞ 脚:回転横ﾅﾃﾞ	良	1mm程の長石、石英、黒色粒	
27	25	工事一括		須恵器 甕	全体:1/2	(9.4)	14.7	(8.5)		黄灰色	黄灰色	口頸:回転横ﾅﾃﾞ 体:ｶｷ目　ｹｽﾞﾘ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	1mm以下の砂粒	
27	26	工事一括		須恵器 甕	口縁:一部	(13.8)	4.3+			灰色	灰色	回転横ﾅﾃﾞ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	1mm以下の長石、黒色粒	
27	27		18号墓と21号墓の間	須恵器 壺?	頸～胴:一部		5.0+	(11.4)		黄灰色	灰白色	頸:回転横ﾅﾃﾞ 体:ｹｽﾞﾘ	回転横ﾅﾃﾞ	良好	1mm以下の長石、砂粒	外面に自然釉
27	28	工事一括		須恵器 提瓶	全体:1/2		19.7+			灰色	灰色	口縁:回転横ﾅﾃﾞ 胴:ｶｷ目　ｹｽﾞﾘ　ﾅﾃﾞ	口縁:回転横ﾅﾃﾞ 胴:ﾅﾃﾞ	良好	3mm以下の長石、石英、黒色粒	
28	29	工事一括		須恵器 甕	口縁:一部		12.8+			灰色	灰色	縦ﾊｹ　横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	良好	5mm以下の黒色粒、砂粒	
28	30	工事一括		須恵器 甕	胴:一部		39.5+			灰色	灰色	平行ﾀﾀｷ	同心円当具痕	良好	1mm程の砂粒	
28	31	工事一括		須恵器 甕	胴～底:一部		25.9+			胴:褐灰色 底:明黄褐色	にぶい黄橙色	胴:平行文ﾀﾀｷ　ｶｷ目 底:格子状ﾀﾀｷ	同心円当具痕	良	3mm以下の長石、石英、雲母	
29	3	15号墓	通路	土師器 皿	全体:2/5	(8.8)	2.2		(7.0)	にぶい橙色	にぶい橙色	回転横ﾅﾃﾞ ﾍﾗ切	回転横ﾅﾃﾞ 不定ﾅﾃﾞ	良好	1mm程度の長石、雲母	
29	4	15号墓	通路	土師器 皿	全体:2/3	8.9	1.1		8.0	にぶい橙色	にぶい橙色	回転横ﾅﾃﾞ ﾍﾗ切	回転横ﾅﾃﾞ 不定ﾅﾃﾞ	良好	2mm程度の砂粒	
29	5	16号墓	通路	土師器 坏	全体:1/6	(11.8)	3.3		(8.3)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	回転横ﾅﾃﾞ 糸切	回転横ﾅﾃﾞ 不定ﾅﾃﾞ	良	1mm以下の石英、砂粒	
29	6	18号墓	奥屍床トレンチ	土師器 坏	全体:3/5	13.5	3.2		9.6	橙色	橙色	回転横ﾅﾃﾞ 糸切	回転横ﾅﾃﾞ 不定ﾅﾃﾞ	良	1mm以下の長石、雲母	
29	7	14号墓	通路	白磁 椀	口縁:1/5	(15.6)	4.6+			灰白色	灰白色	回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	良好	精緻	
29	8	20号墓	玄室	瓦質土器 羽釜	口縁～肩:一部	(16.0)	6.1+			灰褐色	にぶい褐色	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良好	3mm以下の長石、石英、黒色粒	
29	9	20号墓	玄室　通路	瓦質土器 羽釜	全体:1/2	18.3	21.0	36.7	18.6	黒褐色	黒褐色	ﾅﾃﾞ 底:ｹｽﾞﾘ　ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	良好	1mm以下の砂粒	

※カッコ書きは復元値、数値の後に＋がつくものは残存値

表5　出土鉄器等観察表

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	遺物			長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	残存度	備考
				器種	形式	部位					
6	1	12号墓	奥屍床	刀子		身、茎	(13.5)	1.4	(24.91)	大半	有機質残る
7	175	12号墓	左屍床	鏃	長頸	身、頸、茎	(12.15)	1.0	(11.83)	大半	
7	176	12号墓	左屍床	鏃	長頸	頸、茎	(10.3)	0.8	(9.25)	1/2	
7	177	12号墓	左屍床	鏃	長頸	頸	(8.1)	(0.5)	(5.0)	1/2	
7	178	12号墓	左屍床	鏃	長頸	身、茎	(3.4)	1.2	(2.92)	一部	
7	179	12号墓	左屍床	鏃	長頸	身	(3.0)	1.3	(1.96)	一部	
7	180	12号墓	左屍床	鏃		頸、茎	(4.3)	(0.7)	(2.86)	一部	茎部にまき付け痕
7	181	12号墓	左屍床	鏃		茎	(4.8)	(0.28)	(1.63)	一部	
7	182	12号墓	左屍床	鏃		茎	(3.7)	(0.45)	(2.18)	一部	
7	183	12号墓	左屍床	弓金具			3.1	0.48-0.5	2.14	完形	木質残る
7	184	12号墓	左屍床	弓金具			2.8	0.4-0.45	2.01	完形	木質残る
7	185	12号墓	左屍床	弓金具			3.3	0.38-0.45	2.44	完形	木質残る
11	3	14号墓	右屍床	鏃	長頸	頸、茎	(8.35)	(0.9)	(6.73)	1/2	
11	4	14号墓	通路	鏃	鍬抉三角形	身、頸、茎	(9.0)	(2.8)	(15.64)	2/3	茎部に木質・紐痕
11	5	14号墓	通路	鏃	長頸方頭？	身	(3.25)	(1.0)	(3.85)	一部	表面に木質
11	6	14号墓	通路	鏃		茎	(2.4)	(0.55)	(1.74)	一部	木質残る
11	7	14号墓	通路	鏃		頸	(4.05)	(0.47)	(2.85)	一部	
11	8	14号墓	通路	鏃		頸	(3.2)	(0.5)	(2.82)	一部	
11	9	14号墓	通路	弓金具			3.25	0.45	2.54	完形	木質残る
11	10	14号墓	客土	不明			(12.7)	2.4	41.71	一部	板状
13	1	15号墓	左屍床	刀子		身	(8.1)	1.4	(10.18)	1/2	
14	1	16号墓	通路	釘	方		(4.05)	0.65	(2.8)	大半	
14	2	16号墓	通路	釘？	方		(3.1)	0.4	(1.3)	大半	鏃茎部か
14	3	16号墓	通路	釘	方		(2.8)	0.65	(0.8)	大半	
14	4	16号墓	通路	釘	方		(2.75)	0.6	(1.0)	大半	
16	7	17号墓	左屍床	鏃	三角形	身、頸	(5.5)	(2.4)	(6.77)	2/3	
16	8	17号墓	左屍床	不明			(9.4)	1.5	(23.56)	一部	
16	9	17号墓	左屍床	不明			(3.9)	(1.3)	(3.89)	一部	
16	10	17号墓	左屍床	不明			(6.9)	1.4	(9.71)	一部	
16	11	17号墓	左屍床	不明			(5.8)	(1.1)	(5.61)	一部	
16	12	17号墓	左屍床	不明			(4.3)	0.65	(3.63)	一部	
16	13	17号墓	左屍床	不明			(3.6)	(0.9)	(2.55)	一部	
16	14	17号墓	左屍床	不明			(2.7)	(0.75)	(1.39)	一部	
17	21	17号墓	通路	鏃	三角形	身、頸	(6.7)	2.8	(12.85)	1/2	
17	22	17号墓	通路	不明			(10.4)	1.7	(23.15)	一部	
17	23	17号墓	通路	不明			(9.3)	1.4	(21.69)	一部	穿孔
17	24	17号墓	通路	不明			(5.65)	1.45	(12.12)	一部	
17	25	17号墓	通路	不明			(6.0)	1.2	(11.56)	一部	
17	26	17号墓	通路	不明			(3.3)	(0.55)	(0.79)	一部	鏃茎部か
17	27	17号墓	通路	不明			(6.9)	1.1	(12.54)	一部	穿孔
18	41	17号墓	羨道	鏃		茎	(2.3)	(0.27)	(1.17)	一部	
18	42	17号墓	羨道	鏃		茎	(3.8)	(0.4)	(2.11)	一部	
18	43	17号墓	羨道	馬具？	鋲具		(3.4)	(3.6)	(5.71)	一部	
18	44	17号墓	羨道	不明			(3.95)	1.4	(7.3)	一部	
20	1	18号墓	崩落土	鏃	鍬抉三角形	身、頸、茎	(7.65)	(2.8)	(12.69)	1/2	
20	2	18号墓	崩落土	鏃	鍬抉三角形	身、頸	(7.0)	2.7	(10.91)	1/2	
20	3	18号墓	崩落土	鏃	三角形	身、頸	(5.8)	2.6	(10.83)	1/2	
20	4	18号墓	崩落土	鏃	三角形	身、頸、茎	(6.9)	2.6	(10.37)	2/3	木質残る
20	5	18号墓	崩落土	鏃	片刃	身、頸	(4.3)	(1.0)	(4.85)	一部	刀子か
20	6	18号墓	崩落土	鏃		頸、茎	(4.05)	(0.9)	(3.27)	一部	木質残る
20	7	18号墓	崩落土	鏃		茎	(3.9)	(0.5)	(2.35)	一部	木質残る
20	8	18号墓	崩落土	鏃		茎	(1.72)	(0.35)	(0.44)	一部	木質残る
20	9	18号墓	崩落土	鏃		茎	(1.45)	(0.35)	(0.36)	一部	
20	10	18号墓	崩落土	刀子		身、茎	(8.15)	(1.5)	(7.49)	1/2	茎部に孔
23	1	20号墓	玄室	馬具？	鋲具		4.9	0.85	7.1	大半	
25	1	21号墓	北西トレンチ	鏃	三角形	身、頸、茎	(7.0)	2.9	(8.8)	2/3	茎部に木質・巻き付け痕
25	2	21号墓	南東トレンチ	刀子		身	(4.9)	(1.6)	(9.3)	一部	
29	10	16号墓	トレンチ	銃剣	30年式？	身	(22.8)	2.5	(106.4)	2/5	旧日本陸軍
29	11	16号墓	トレンチ	銃剣	30年式？	身	(22.7)	2.4	(133.0)	2/5	旧日本陸軍

古銭

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	遺物種類	初鋳年	径 (cm)	重量 (g)	残存度	備考
29	12	16号墓	通路	寛永通宝	1626年	2.35	2.3	完形	
29	13	16号墓	通路	寛永通宝	1626年	2.35	3.6	完形	
29	14	19号墓	玄室	寛永通宝	1626年	2.3	2.8	完形	

※カッコ書きは残存値

表6　出土装身具観察表

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	遺物種類	材質	色調	径 (mm)	長さ (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	残存度	備考
6	3	12号墳	奥屍床	丸玉	ガラス	赤	11.5		8.0	2.0	1.74	完形	土壌着
6	4	12号墳	奥屍床	丸玉	ガラス	赤	8.0		7.0	1.0	0.50	完形	
6	5	12号墳	奥屍床	丸玉	水晶	白濁した透明	9.0		7.0	3.0	0.59	完形	孔周辺に凹み
6	6	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	濃紺	3.5		2.5	1.0	0.03	完形	
6	7	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	濃紺	4.0		3.0	1.0	0.04	完形	
6	8	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	5.1		3.0	2.0	0.08	完形	土壌着
6	9	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	4.5		3.5	1.5	0.09	完形	
6	10	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	4.0		2.8	2.0	0.07	完形	
6	11	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	5.0		2.8	1.5	0.08	完形	亀裂有
6	12	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	4.0		2.8	1.5	0.09	完形	
6	13	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	4.5		2.5	2.0	0.04	完形	
6	14	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	4.5		3.0	1.5	0.05	完形	土壌着
6	15	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	4.5		2.5	1.5	0.05	完形	
6	16	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	4.1		2.0	1.5	0.04	完形	
6	17	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	3.0		2.5	1.5	0.01	完形	
6	18	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	紺	5.0		3.0	1.5	0.07	完形	斜めに切断
6	19	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	3.0		2.0	1.0	0.01	完形	
6	20	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	4.2		2.8	1.5	0.04	完形	
6	21	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	3.0		3.0	1.0	0.01	完形	斜めに切断
6	22	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	5.0		2.9	1.5	0.03	完形	表面に凹み
6	23	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	4.0		2.0	1.3	0.04	完形	
6	24	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	3.0		1.3	1.2	0.01	完形	不整形
6	25	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	4.0		2.0	1.2	0.02	完形	
6	26	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	3.2		1.8	1.0	0.01	完形	
6	27	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	3.5		2.3	1.5	0.01	完形	斜めに切断
6	28	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	3.7		2.1	1.5	0.02	完形	斜めに切断
6	29	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	4.0		2.9	1.2	0.03	完形	
6	30	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	5.0		3.0	1.3	0.05	完形	
6	31	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	4.3		1.9	2.0	0.02	完形	
6	32	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	深緑	4.0		3.0	1.0	0.02	完形	
6	33	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	4.0		2.1	1.7	0.05	完形	
6	34	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	4.1		2.2	2.0	0.05	完形	
6	35	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	4.8		2.1	2.0	0.06	完形	
6	36	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	3.9		3.2	1.5	0.04	完形	
6	37	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	3.5		2.4	1.2	0.04	完形	
6	38	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	3.9		1.8	1.2	0.02	完形	
6	39	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	3.9		2.8	1.0	0.02	完形	
6	40	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	4.0		2.8	1.0	0.03	完形	
6	41	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	3.7		2.0	1.2	0.01	完形	
6	42	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	3.0		2.1	1.0	0.01	完形	
6	43	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	3.0		2.0	1.1	0.01	完形	
6	44	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	3.0		2.0	1.5	0.01	完形	楕円形
6	45	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	4.0		2.8	1.2	0.05	完形	2つに破損
6	46	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	緑	4.0		2.4	1.5	—	1/2	小破片有
6	47	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	7.0		3.0	2.5	0.14	完形	土壌着
6	48	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.5		3.0	2.0	0.02	完形	
6	49	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.0		2.5	1.5	0.02	完形	
6	50	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	5.0		2.5	2.0	0.06	完形	
6	51	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.0		2.0	1.5	0.02	完形	
6	52	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.0		3.0	2.0	0.03	完形	
6	53	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.0		2.5	2.0	0.03	完形	
6	54	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.0		2.0	1.5	0.01	完形	楕円形
6	55	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	5.0		2.5	1.5	0.03	完形	斜めに切断
6	56	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	3.8		2.0	1.5	0.01	完形	
6	57	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.0		1.8	1.5	0.03	完形	
6	58	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.5		2.5	1.5	0.05	完形	
6	59	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	3.7		2.0	1.5	0.04	完形	
6	60	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	3.0		2.7	1.3	0.02	完形	
6	61	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	3.0		2.0	1.0	0.01	完形	
6	62	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	3.8		2.0	1.5	0.02	完形	
6	63	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	3.0		2.0	1.0	0.01	完形	斜めに切断
6	64	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	3.5		3.0	1.0	0.02	完形	部分欠損
6	65	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	3.5		3.5	1.8	0.02	完形	斜めに切断
6	66	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	4.0		2.0	2.0	0.02	完形	
6	67	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	水	2.5		2.0	1.0	0.01	完形	透明感有
6	68	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.0	0.01	完形	
6	69	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.1	1.5	0.01	完形	斜めに切断
6	70	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.2	1.5	0.02	完形	
6	71	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		2.9	1.0	0.02	完形	
6	72	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.5	1.5	0.01	完形	
6	73	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.6		2.1	1.0	0.01	完形	
6	74	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		1.8	1.0	0.01	完形	
6	75	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		3.0	1.0	0.01	完形	
6	76	12号墳	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.5	1.0	0.05	完形	

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	遺物種類	材質	色調	径 (mm)	長さ (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	残存度	備考
6	77	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.1	1.1	0.02	完形	亀裂有
6	78	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		1.9	1.0	0.02	完形	
6	79	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		1.8	1.0	0.02	完形	
6	80	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.1	0.9	0.02	完形	
6	81	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.4		2.0	1.0	0.01	完形	
6	82	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.0	1.2	0.02	完形	
6	83	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.0	1.8	0.02	完形	表面に凹み
6	84	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.8	1.5	0.02	完形	
6	85	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.3	1.6	0.03	完形	斜めに切断
6	86	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.4		1.8	1.5	0.02	完形	
6	87	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.2		1.7	1.0	0.02	完形	
6	88	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	1.0	0.01	完形	
6	89	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	0.8	0.02	完形	
6	90	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		1.8	1.0	0.02	完形	
6	91	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.2	1.0	0.05	完形	
6	92	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.9		2.0	1.3	0.03	完形	
6	93	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.2	0.01	完形	
6	94	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		1.8	1.4	0.02	完形	
6	95	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		3.0	1.5	0.05	完形	
6	96	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		1.8	1.2	0.01	完形	
6	97	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.6		2.2	1.3	0.04	完形	
6	98	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.5	1.0	0.03	完形	
6	99	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.2		3.1	1.2	0.06	完形	
6	100	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	0.9	0.02	完形	
6	101	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.7		2.1	1.0	0.02	完形	
6	102	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	1.0	0.02	完形	
6	103	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	1.0	0.01	完形	
6	104	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		1.7	1.4	0.02	完形	
6	105	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.2		1.9	1.7	0.05	完形	
6	106	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		3.0	1.0	0.02	完形	
6	107	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.2	1.2	0.03	完形	
6	108	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.5	1.0	0.03	完形	
6	109	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.9		2.1	1.0	0.04	完形	
6	110	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		2.9	1.0	0.05	完形	
6	111	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.3		2.7	1.0	0.07	完形	亀裂有
6	112	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		1.8	1.0	0.02	完形	
6	113	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.2		2.0	1.0	0.02	完形	
6	114	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.3		2.2	1.5	0.01	完形	
6	115	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	1.0	0.01	完形	
6	116	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		1.8	1.5	0.01	完形	
6	117	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.2	1.1	0.03	完形	
6	118	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.8	1.0	0.02	完形	斜めに切断
6	119	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		2.5	1.0	0.03	完形	
6	120	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		3.2	1.3	0.07	完形	
6	121	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		1.8	1.2	0.02	完形	
6	122	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.2	1.4	0.04	完形	
6	123	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		3.0	1.4	0.06	完形	
6	124	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		2.3	1.1	0.05	完形	
6	125	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.2	0.03	完形	
6	126	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.1	1.0	0.04	完形	
6	127	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.2		2.0	1.2	0.02	完形	
6	128	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.2	0.02	完形	
6	129	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		1.9	1.0	0.02	完形	
6	130	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		2.0	1.4	0.02	完形	
6	131	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	1.2	0.01	完形	
6	132	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	1.0	0.05	完形	
6	133	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.2	1.2	0.02	完形	
6	134	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	2.9		2.2	0.8	0.02	完形	
6	135	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.1	1.2	0.03	完形	
6	136	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		2.0	1.0	0.02	完形	
6	137	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		1.8	1.2	0.03	完形	
6	138	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.5	0.01	完形	
6	139	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.2	1.0	0.03	完形	
6	140	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		1.8	1.2	0.02	完形	土壌着
6	141	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.8		3.0	1.3	0.08	完形	
6	142	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		2.0	1.2	0.03	完形	
6	143	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.4	1.2	0.03	完形	
6	144	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		1.8	1.1	0.01	完形	
6	145	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		1.8	1.4	0.04	完形	
6	146	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.3		2.1	1.1	0.03	完形	土壌着
6	147	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	5.0		3.8	1.5	0.09	完形	土壌着
6	148	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	1.0	0.02	完形	
6	149	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.0	1.5	0.03	完形	
6	150	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.0	0.03	完形	
6	151	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		2.5	1.2	0.05	完形	
6	152	12号墓	奥屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		1.8	1.0	0.01	完形	

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	遺物種類	材質	色調	径(mm)	長さ(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	残存度	備考
6	153	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.1	1.3	0.03	完形	
6	154	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		3.1	1.1	0.02	完形	
6	155	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	2.7		2.0	1.0	0.01	完形	
6	156	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.8	1.0	0.03	完形	
6	157	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		2.5	1.5	0.03	完形	部分欠損
6	158	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		1.8	1.5	0.02	完形	
6	159	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.0	1.5	0.04	完形	
6	160	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.0	0.02	完形	
6	161	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		2.0	1.2	0.02	完形	
6	162	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.1	1.2	0.04	完形	
6	163	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.0		2.0	0.9	0.02	完形	
6	164	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		2.0	1.0	0.03	完形	
6	165	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.2	1.2	0.04	完形	
6	166	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	2.9		1.9	1.0	0.03	完形	
6	167	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.3		2.2	1.2	0.03	完形	
6	168	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		1.8	1.0	0.03	完形	土壌着
6	169	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	4.2		2.6	1.2	0.05	完形	
6	170	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		2.4	1.0	0.01	完形	
6	171	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		2.1	1.1	0.04	完形	
6	172	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.1		1.9	1.0	0.03	完形	
6	173	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	3.5		2.1	1.0	0.03	完形	
−	−	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	水	−		−	−	−	破片	実測不可
−	−	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	緑	−		−	−	−	破片	実測不可
−	−	12号墓	典屍床	小玉	ガラス	黄	−		−	−	−	破片	実測不可
6	174	12号墓	右屍床	小玉	ガラス	紺	4.0		2.0	1.5	0.01	完形	破損
8	186	12号墓	通路	丸玉	ガラス	濃紺	8.5		6.0	2.0	0.94	完形	
8	187	12号墓	通路	小玉	ガラス	紺	5.0		2.5	1.2	0.05	完形	
8	188	12号墓	通路	小玉	ガラス	紺	4.5		2.0	1.8	0.04	完形	
8	189	12号墓	通路	小玉	ガラス	深緑	3.1		2.0	1.0	0.02	完形	土壌着
8	190	12号墓	通路	小玉	ガラス	深緑	4.0		3.8	1.0	0.05	完形	斜めに切断
8	191	12号墓	通路	小玉	ガラス	緑	3.5		3.0	1.2	0.02	完形	
8	192	12号墓	通路	小玉	ガラス	水	4.0		3.1	1.8	0.05	完形	斜めに切断
8	193	12号墓	通路	小玉	ガラス	水	3.5		1.8	1.0	0.01	完形	透明感有
8	194	12号墓	通路	小玉	ガラス	水	3.1		2.0	1.2	0.02	完形	亀裂有
8	195	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.0		1.9	1.0	0.02	完形	
8	196	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.0		1.8	1.0	0.03	完形	
8	197	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.1		2.0	1.1	0.03	完形	亀裂有
8	198	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	2.6		1.1	1.0	0.01	完形	
8	199	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.8		2.0	1.3	0.02	完形	
8	200	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	5.1		2.5	1.5	0.06	完形	亀裂有
8	201	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.8		2.0	1.2	0.04	完形	
8	202	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.0		2.8	1.0	0.01	完形	
8	203	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.3		2.1	1.1	0.03	完形	
8	204	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.2		2.0	1.2	0.03	完形	土壌着
8	205	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.8		2.8	1.1	0.05	完形	
8	206	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.0	0.04	完形	
8	207	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	1.2	0.02	完形	
8	208	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.9		1.8	1.5	0.01	完形	
8	209	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.9		2.4	1.1	0.04	完形	
8	210	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.7		1.8	1.5	0.03	完形	
8	211	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.3		2.2	1.5	0.02	完形	
8	212	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.6		2.0	1.5	0.03	完形	
8	213	12号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.8		2.2	1.2	0.04	完形	
11	11	14号墓	通路	丸玉	土	黒	10.6		10.5	2.5	3.44	完形	亀裂有
16	1	17号墓	右屍床	小玉	ガラス	緑	4.0		2.1	1.3	0.05	完形	
16	2	17号墓	右屍床	小玉	ガラス	緑	4.0		1.8	1.0	0.03	完形	土壌着
16	3	17号墓	右屍床	小玉	ガラス	緑	3.5		3.3	1.2	0.05	完形	
16	4	17号墓	右屍床	小玉	ガラス	緑	3.8		2.2	0.8	0.04	完形	亀裂有
16	5	17号墓	右屍床	小玉	ガラス	緑	3.1		2.5	1.0	0.02	完形	土壌着
16	6	17号墓	右屍床	小玉	ガラス	黄	3.8		2.5	1.2	0.03	完形	土壌着
16	15	17号墓	左屍床	小玉	ガラス	紺	3.6		2.1	1.0	0.04	完形	亀裂有
16	16	17号墓	左屍床	小玉	ガラス	紺	3.2		1.6	2.0	0.02	完形	穿孔2つ分
16	17	17号墓	左屍床	小玉	ガラス	緑	4.0		3.0	1.0	0.05	完形	
16	18	17号墓	左屍床	小玉	ガラス	緑	4.2		1.8	2.0	0.02	完形	土壌着
16	19	17号墓	左屍床	小玉	ガラス	緑	3.0		2.0	1.2	0.01	完形	
16	20	17号墓	左屍床	小玉	ガラス	黄	4.0		2.8	0.8	0.04	完形	
17	29	17号墓	通路	小玉	ガラス	緑	3.5		2.0	1.5	0.03	完形	土壌着
17	30	17号墓	通路	小玉	ガラス	緑	3.0		3.5	0.8	0.02	完形	
17	31	17号墓	通路	小玉	ガラス	緑	3.5		2.1	1.6	0.01	完形	
17	32	17号墓	通路	小玉	ガラス	緑	3.4		1.5	1.6	0.01	完形	
17	33	17号墓	通路	小玉	ガラス	緑	3.0		3.0	1.0	0.03	完形	斜めに切断
17	34	17号墓	通路	小玉	ガラス	緑	3.6		2.8	1.3	0.03	完形	破損
17	35	17号墓	通路	小玉	ガラス	緑	3.0		2.3	1.0	0.02	完形	
17	36	17号墓	通路	小玉	ガラス	黄	4.0		2.5	1.2	0.03	完形	
17	37	17号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.5		2.8	1.0	0.02	完形	亀裂有
17	38	17号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.3		2.5	1.2	0.02	完形	

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	遺物種類	材質	色調	径(mm)	長さ(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	残存度	備考
17	39	17号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.2		3.1	1.0	0.02	完形	
17	40	17号墓	通路	小玉	ガラス	黄	3.2		2.2	1.3	0.01	完形	
20	12	18号墓	崩落土	管玉	碧玉	深緑	9.4	22.5		1.2-3.5	3.60	完形	
20	13	18号墓	崩落土	切子玉	ガラス	水	7.5	10.5		4.0	0.84	完形	表面に凹み
20	14	18号墓	崩落土	小玉	ガラス?	赤	2.5		1.9	0.8	0.01	完形	斜めに切断
20	15	18号墓	崩落土	小玉	ガラス?	赤	3.2		1.9	1.0	0.01	完形	斜めに切断
20	16	18号墓	崩落土	小玉	ガラス	水	3.6		2.6	1.2	0.04	完形	
20	17	18号墓	崩落土	小玉	ガラス	黄	2.0		2.1	0.8	0.01	完形	
20	18	18号墓	崩落土	小玉	ガラス	黄	4.0		3.0	0.8	0.05	完形	
20	19	18号墓	崩落土	小玉	ガラス	黄	4.0		2.0	1.2	0.03	完形	
20	20	18号墓	崩落土	小玉	ガラス	黄	4.0		3.0	1.4	0.06	完形	亀裂有
25	3	21号墓	北西トレンチ	管玉	碧玉	深緑	9.0	25.5		1.5-3.0	3.72	完形	表面に傷
25	4	21号墓	北西トレンチ	管玉	碧玉	深緑	7.0	20.0		1.0-3.0	1.95	完形	
25	5	21号墓	北西トレンチ	算盤玉	水晶	透明	13.0		10.2	1.1-3.3	2.08	完形	
25	6	21号墓	南西トレンチ	丸玉	ガラス	紺	8.0		7.0	2.0	0.57	完形	土壌着
25	7	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	青黒	4.0		2.8	1.5	0.02	完形	破損
25	8	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	紺	4.8		2.8	1.5	0.05	完形	
25	9	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	紺	4.2		2.5	1.2	0.06	完形	
25	10	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	紺	4.0		2.5	1.5	0.04	完形	斜めに切断
25	11	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	紺	5.0		3.0	1.2	0.10	完形	
25	12	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	青	4.0		1.8	1.5	0.02	完形	亀裂有
25	13	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	青	3.0		1.8	1.0	0.01	完形	
25	14	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	青	2.6		1.5	0.8	0.01	完形	
25	15	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	青	3.0		2.9	1.0	0.01	完形	破損
25	16	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	青	2.7		1.1	1.0	0.01	完形	
25	17	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	青	4.0		4.2	1.8	0.09	完形	
25	18	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	青	4.5		3.5	1.5	0.04	完形	
25	19	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	青	3.5		2.7	1.4	0.06	完形	
25	20	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	青	3.5		2.2	1.5	0.01	完形	部分欠損
25	21	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	緑	5.0		2.0	1.2	0.10	完形	
25	22	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	緑	3.6		3.0	1.0	0.05	完形	
25	23	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	緑	3.0		2.5	0.8	0.04	完形	
25	24	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.2		3.1	1.5	0.06	完形	破損
25	25	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.0		3.0	1.6	0.06	完形	表面に凹み
25	26	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.8		3.1	1.2	0.06	完形	斜めに切断
25	27	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	3.8		3.6	1.2	0.07	完形	
25	28	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	3.2		2.2	1.0	0.04	完形	
25	29	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.2		2.3	1.3	0.08	完形	
25	30	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.9		2.3	2.5	0.04	4/5	
25	31	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.0		2.1	1.7	0.05	完形	
25	32	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	(4.0)		2.2	(1.0)	—	2/5	破損
25	33	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.7		2.2	1.5	—	3/5	破損
25	34	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.2		3.2	1.5	0.08	完形	斜めに切断
25	35	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	水	4.0		2.1	1.5	0.02	完形	亀裂有
25	36	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	水	3.5		3.0	1.0	0.04	完形	
25	37	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	水	3.8		2.1	1.2	0.02	完形	表面に凹み
25	38	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	水	3.1		2.5	1.0	0.04	完形	
25	39	21号墓	南西トレンチ	小玉	ガラス	水	(4.0)		2.0	(1.5)	—	1/3	破損
25	40	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	黄	3.5		2.0	0.9	0.03	完形	
25	41	21号墓	北西トレンチ	小玉	ガラス	水	2.3		—	—	0.01	完形	未製品か

耳環

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	遺物種類	色調	長さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	重量(g)	残存度	備考
6	2	12号墓	奥屍床	耳環	緑			0.25	0.88	完形	変形している
11	12	14号墓	通路	耳環	緑	2.4	2.5	0.58	9.69	完形	鍍金が剥離
11	13	14号墓	客土	耳環	金	2.7	2.8	0.45-0.65	10.16	完形	
17	28	17号墓	通路	耳環	緑	3.15	3.4	0.95	32.5	完形	鍍金が剥離
20	11	18号墓	崩落土	耳環	金	2.0	2.0	0.4	4.45	完形	

表7　出土石器観察表

図版No.	遺物No.	遺構名	出土位置	遺物			長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	残存度	備考
				器種	形式	部位					
29	1	15号墓	前庭	磨製石斧	太型蛤刃		(9.45)	5.4	(253.5)	1/2	
29	2	16号墓	トレンチ	砥石			(8.9)	6.2		大半	

※カッコ書きは残存値

報 告 書 抄 録

ふりがな	とびのおおうけつぐん
書名	飛尾横穴群
副書名	飛尾急傾斜地崩壊対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第246集
編集者名	中村幸弘
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609　熊本県熊本市水前寺6丁目18-1
発行年月日	2009年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				(㎡)	
とびのおおうけつぐん 飛尾横穴群	くまもとけん 熊本県 しもましきぐん 下益城郡 じょうなんまち 城南町 ひがしあだか 東阿高 あざとびのお 字飛尾	43341	115	32° 41′ 39″	130° 43′ 34″	20071220 ～ 20080331	632.5	飛尾急傾斜地 崩壊対策事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飛尾横穴群		古墳時代後期	横穴墓21基	土師器 須恵器 鉄鏃・刀子・弓金具 馬具・耳環 管玉・切子玉・算盤玉 丸玉・小玉・人骨	
		中世		土師器・白磁 瓦質土器	
		近世		寛永通宝	
		近代	防空壕跡	銃剣	太平洋戦争時

要約	飛尾横穴群は、飛尾急傾斜地崩壊対策事業に伴い発掘調査された古墳時代の横穴群を主体とした遺跡である。21基の横穴墓を確認し、その玄室内から鉄鏃や装身具を始めとして多くの遺物が出土した。また、玄室外からも土師器、須恵器がまとまって出土し、墓前祭祀を行ったことを示唆している。他にも中世の土師器・白磁・瓦質土器、近世の古銭、近代の防空壕跡等を確認した。 塚原古墳群以降における墓制の変遷を窺い知る資料として重要な意味を持つ。

写 真 図 版

12 号墓及び 14 号墓出土弓金具 X 線写真

図版１　調査区近景（1～5号墓、東から）

図版２　調査区近景（6～8号墓、東から）

図版３　調査区近景（9 ～ 11 号墓、東から）

図版４　調査区近景（12 ～ 14 号墓、東から）

図版5　調査区近景（15・16号墓、東から）

図版6　調査区近景（17・18・21号墓、東から）

図版 7　調査区近景（19・20 号墓、北から）

図版 8　12 号墓 1（東から）

図版 9　12 号墓 2（東から）

図版 10　13 号墓 1（東から）

図版 11　13 号墓 2（東から）

図版 12　14 号墓 1（東から）

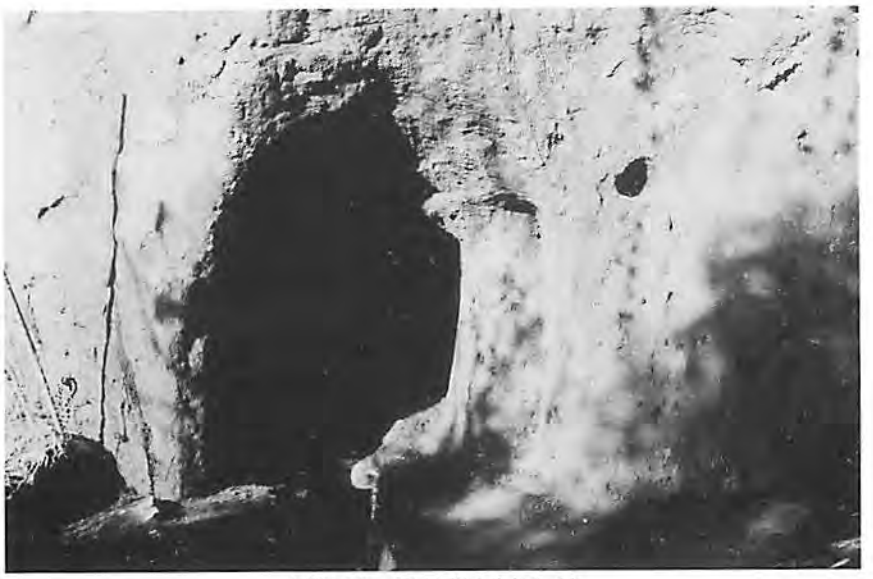
図版 13　14 号墓 2（東から）

図版 14　15 号墓 1（東から）

図版 15　15 号墓 2（東から）

図版 16　16 号墓 1（東から）

図版 17　16 号墓 2（東から）



図版 18　17 号墓 1（東から）

図版 19　17 号墓 2（西から）

図版 20　18 号墓（東から）

図版 21　19 号墓 1（東から）

図版 22　19 号墓 2（東から）

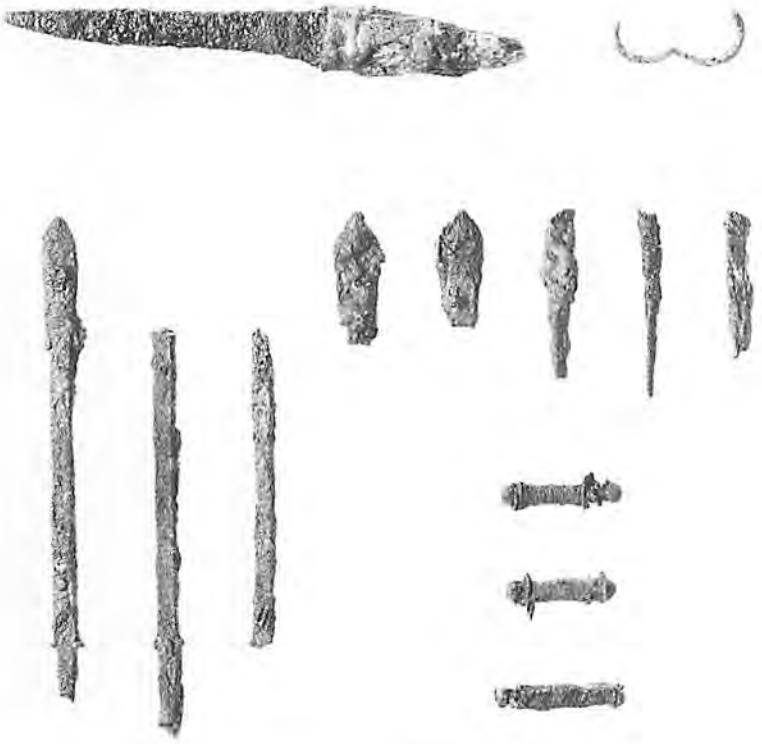
図版 23　20 号墓 1（東から）

図版 24　20 号墓 2（東から）

図版 25　21 号墓（東から）

図版 26　防空壕跡（東から）

図版 27　飛尾横穴群東崖面（北から）



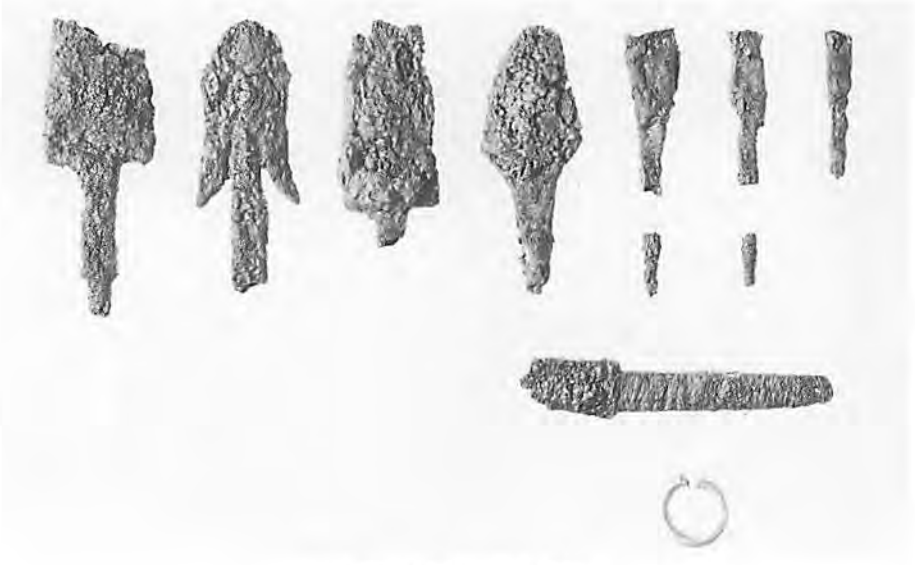
図版 28　12 号墓出土遺物

図版 29　14 号墓出土遺物

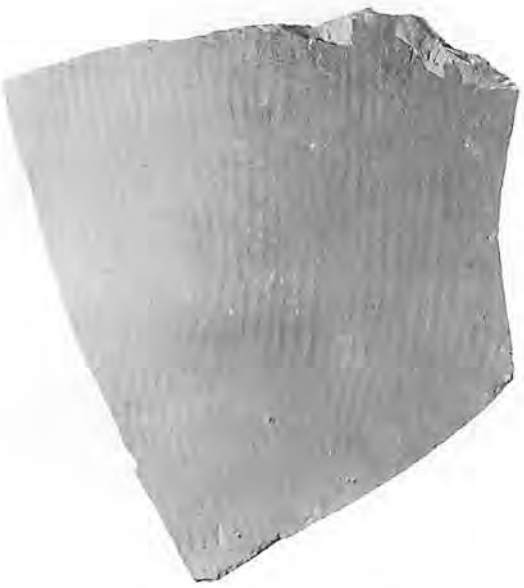
図版 30　15 号墓出土遺物

図版 31　16 号墓出土遺物

図版 32　17 号墓出土遺物



図版 33　18 号墓出土遺物



図版 34　19 号墓出土遺物

図版 35　20 号墓及び 21 号墓出土遺物

図版 36　横穴墓内出土遺物

図版 37　調査区外出土遺物

印刷仕様

規格	A 4 判
頁数	96 頁
組版	写真写植
印刷	オフセット印刷
製版	カラー写真 スクリーン線数 200 線 4 色刷り
	モノクロ写真 スクリーン線数 200 線 1 色刷り
用紙	表紙（アートポスト紙 200kg）
	見返し（上質紙 110kg）
	図版（マットアート紙 110kg）
	本文（上質紙 90kg）
製本	糸綴じ

熊本県文化財調査報告　第 246 集

飛尾横穴群

飛尾急傾斜地崩壊対策事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日　平成 21年3月31日

発　　行　熊本県教育委員会

〒 862-8609　熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号

印　　刷　敷島印刷株式会社

20 教委 教文
② 002

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 246 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：飛尾横穴群
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/